

JSS遠隔監視システム



取扱説明書

JAPAN SECURITY SYSTEM
Safety and trust keep to the future

目 次

| | | |
|------------|------------------|-----------|
| 第1章 | — 概要 | 1 |
| 1.1 | 特徴 | 1 |
| 第2章 | — インストール | 2 |
| 2.1 | 製品情報 | 2 |
| | 製品の構成 | 2 |
| | システムの要求事項 | 2 |
| 2.2 | インストール | 3 |
| 2.3 | アンインストール | 5 |
| 第3章 | — 開始 | 7 |
| 3.1 | ログイン | 7 |
| 3.2 | デバイスの登録 | 8 |
| 3.3 | リアルタイム映像監視 | 12 |
| 3.4 | 録画映像再生 | 13 |
| 第4章 | — システムの概要 | 14 |
| | メニュー | 15 |
| | サイトリスト | 17 |
| | パネル | 18 |
| 第5章 | — 設定 | 20 |
| 5.1 | デバイス | 20 |
| | デバイスの管理 | 22 |
| 5.2 | ユーザー(使用者) | 28 |
| | ユーザー管理 | 29 |
| 5.3 | 緊急録画 | 31 |
| 5.4 | システム | 32 |
| 5.5 | 画面分割 | 34 |
| 5.6 | 画面表示 | 35 |
| 5.7 | 画面メニュー | 37 |
| 5.8 | 映像設定 | 37 |
| 5.9 | ビデオ分析 | 39 |

| | |
|----------------------------------|-----------|
| 5.10 レポート..... | 40 |
| 5.11 最近のイベント | 41 |
| 5.12 ネットワーク | 42 |
| 5.13 検索 | 43 |
| 5.14 サイト | 44 |
| 5.15 マップ | 45 |
| 5.16 ブラウザ | 46 |
| 5.17 アクション | 47 |
| 5.18 保存 | 48 |
| 5.19 バックアップ/復元..... | 49 |
| 第6章 — リアルタイム映像監視 | 50 |
| 6.1 映像監視..... | 50 |
| レイアウトの監視 | 53 |
| レイアウトの順次監視..... | 55 |
| カメラの順次監視 | 57 |
| 6.2 マップ監視..... | 60 |
| 6.3 ブラウザ実行 | 62 |
| 6.4 カメラの制御 | 62 |
| PTZ制御 | 65 |
| リモートコントロール..... | 67 |
| 魚眼映像の歪み補正 | 68 |
| カメラ簡単設定 | 69 |
| 映像拡大..... | 69 |
| イメージ効果 | 70 |
| 簡単再生..... | 70 |
| 映像分析..... | 71 |
| ピクセルカウンター | 72 |
| テキストイン ビューア..... | 73 |
| 6.5 マップの制御 | 73 |
| ライブポップアップ | 75 |
| 第7章 — 録画映像再生及び動画で保存 | 77 |
| 7.1 録画映像再生 | 77 |

| | |
|---|------------|
| ブックマーク(Bookmark)..... | 81 |
| モーションイベントの停止映像 | 82 |
| オブジェクト/モーション検索 | 82 |
| 映像拡大..... | 83 |
| イメージ効果 | 83 |
| ピクセルカウンター | 84 |
| スマートイメージフィルタ | 84 |
| 7.2 録画映像を動画で保存 | 85 |
| 専用のビューアーファイルで保存 | 85 |
| AVIファイルで保存 | 89 |
| 第8章 — イベント処理 | 91 |
| 映像監視..... | 93 |
| 映像再生..... | 94 |
| 第9章 — システムの動作状態及びデバイス状態の監視 | 95 |
| 9.1 システムの動作状態の監視..... | 95 |
| 9.2 デバイス状態の監視..... | 96 |
| 9.3 自己診断..... | 97 |
| 第10章 — ログ検索 | 100 |
| 第11章 — 映像解析レポート(映像解析装置) | 102 |
| 11.1 接続および検索 | 102 |
| 11.2 ピープルカウント..... | 104 |
| 11.3 ヒートマップ | 105 |
| 第12章 — マップエディター | 107 |
| 12.1 マップの登録 | 107 |
| 12.2 マップ設定..... | 108 |
| 第13章 — 付録 | 112 |
| 13.1 OSD情報..... | 112 |
| 13.2 トラブルシューティング(Q&A)..... | 113 |

第1章 ー 概要

本取扱説明書は、ネットワークカメラ、ネットワークビデオエンコーダ、ネットワークビデオレコーダ（NVR）、およびアナログHD対応デジタルレコーダ（DVR）の遠隔監視を行なう「JSS遠隔監視システム」の使用方法を記述しています。

※対応製品については販売店にお問い合わせください。

1.1 特徴

JSS遠隔監視システムは、デバイスの映像監視及び録画映像の再生のためのソフトウェアで、次のような特徴があります。

- デバイスのリアルタイム映像の遠隔監視及び録画映像の遠隔再生
 - デバイスのイベント感知のリアルタイム通知及びイベント感知映像の遠隔監視
 - 監視映像の緊急録画及び緊急録画映像の再生
 - 最大1,024機のデバイスを登録可能
 - ソフトウェアの遠隔アップグレード及びシステムの遠隔設定
 - デバイスのシステムログ表示
 - リアルタイム映像のマッピング監視
 - セキュリティのためにSSL機能をサポート
 - セキュリティのためにユーザーグループ別に権限設定
 - ユーザー中心の直感的なGUIを提供
-
- ✓ この製品はOpenSSLツールキットを利用するためにOpenSSLプロジェクトによって開発されたソフトウェアを含む(<http://www.openssl.org/>)。
 - ✓ 本機には一部のオープンソースを使用したソフトウェアが含まれています。ライセンス政策のソース公開支援可否によって、該当ソフトウェアのソースコードを希望する場合は提供受けることができます。詳細内容は「“情報”メニュー→オープンソースライセンス」のご確認をお願いします。本製品はUniversity of California, Berkeleyが開発したソフトウェア及びOpenSSL Projectが開発したOpenSSLツールキット用のソフトウェアを含めております。また、この製品はEric Young (eay@cryptsoft.com)が作成したソフトウェアとTim Hudson (tjh@cryptsoft.com)が作成したソフトウェアを含めております。
 - ✓ 本文書に収められた情報の完結性と正確性を検証するため、最善を尽しておりますが、保証はいたしかねます。本文書の使用結果による責任はユーザーにあります。また、事前の連絡なく情報が変更されることもあります。

第2章 – インストール

2.1 製品情報

製品の構成

- ソフトウェア本体（製品付属CDで提供）
- 取扱説明書

システムの要求事項

推奨仕様

- OS: Microsoft® Windows® 11
Microsoft® Windows® 10 (64bit)(Home,Professional)
Windows® Server2016以上
- CPU: Intel® Core™ i7-12700K 3.6GHz以上
- RAM: 16GB以上
- VGA: NVIDIA GeForce GTX1060、Quadro P2000以上 (1920x1080または2560x1440 60Hz)
- ハードディスク: 6GB以上の空き容量 SSD
- LAN: Gigabit Ethernet以上

最低仕様

- OS: Microsoft® Windows® 11
Microsoft® Windows® 10 (64bit)(Home,Professional)
Windows® Server2016以上
- CPU: Intel® Core™ i3-2100以上
- RAM: 2GB以上
- VGA: NVIDIA GeForce GT710 (1280x1024、60Hz)またはIntel® HD Graphic 530以上
- ハードディスク: 4GB以上の空き容量
- LAN: 100Mbps Ethernet

2.2 インストール

- ✓ PCのWindows節電機能を使用しないように設定してください(コントロールパネル → “電源オプション” → “ディスプレイの電源を切る時間の指定”と“コンピュータがスリープ状態になる時間を変更”を“適用しない”に設定。



旧バージョンのJSS遠隔監視システムプログラムが既にインストールされている場合、ソフトウェアをアップグレードするかどうかを問うインストール画面が表示されます。その場合、インストール画面の指示に従ってソフトウェアをアップグレードしてください。

- ✓ Windows®のスタートメニューのコントロールパネルに移動後、“電源”オプションで、“モニタ節電モード”と“ハードディスク節電モード”を“使わない”に設定してください。

1. ソフトウェアのインストールCDを準備します。
2. PCでソフトウェアインストールCDの“Setup”のフォルダーの下にある“setup.exe”ファイルを実行します。

- ✓ “ユーザーアカウント制御”画面が表示されることがあります。この場合、“許可”ボタンをクリックした後、設定画面の指示に従ってプログラムをインストールします。

3. プログラム稼働時に使用する言語を選択した後、“OK”ボタンをクリックします。



- ✓ 選択した言語が正しくディスプレイされるためには、PCがその言語OSをサポートしていなければなりません。
- ✓ プログラムをインストールした後、言語を変更するには、プログラムを実行した後“システム”メニューの“JSS遠隔監視システム設定” → “システム”を実行します。

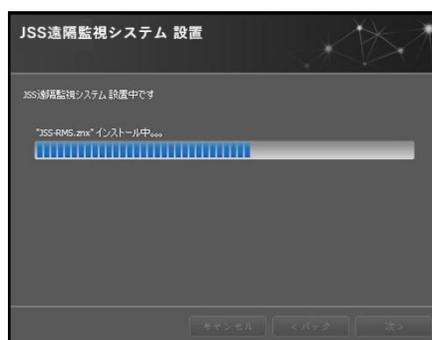
4. 次のインストール画面が表示されたら、“次”ボタンをクリックします。



5. プログラムがインストールされる経路を指定した後、“次”ボタンをクリックします。

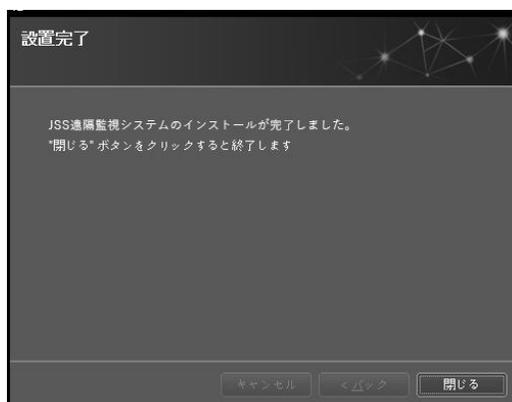


6. 次のインストール画面が表示されたら、“次”ボタンをクリックします。

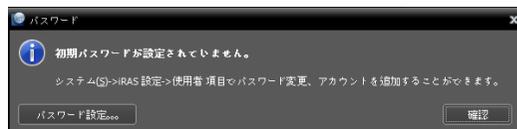


- ✓ “NET Framework”と“Visual C++Runtime Libraries”が自動的にインストールされ、インストールする時、時間が少々掛かる場合があります。ユーザーのPCに“NET Framework”及び“Visual C++Runtime Libraries”が既にインストールされている場合、本インストールのプロセスは省略されます。

7. 次のインストール画面が表示されたら、“閉じる”ボタンをクリックしてインストールを完了します。



8. 本プログラムは初期パスワードが設定されていません。パスワードなしにプログラムを使用することはセキュリティ上望ましくないため、できるだけパスワードを設定してご使用ください。



2.3 アンインストール

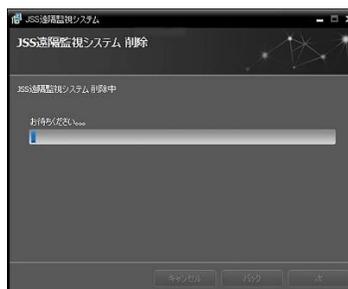
1. 先に実行中のJSS遠隔監視システムプログラムを終了します。
- ✓ 必要なデータや設定情報は、あらかじめバックアップをしてから、アンインストールしてください。
 - ✓ プログラムの実行が終了していない状態でソフトウェアをアンインストールすると、正常に削除されないことがあります。
 - ✓ インストールフォルダーを強制的に削除する場合、ソフトウェア削除及び再インストールが不可能になるため、Windows® OSのアンインストール手順に従ってアンインストールしてください。

2. “Windowsの設定”メニューの“アプリ”をクリックし、JSS遠隔監視システムを選択して“アンインストール”をクリックします。

3. 右図の画面が表示されたら、“確認”ボタンをクリックします。



4. 下図左のアンインストール画面が表示されたら、“Remove All”または“削除しない”ボタンをクリックします。録画映像及び既存の設定をはじめ、システムに保存されていたすべてのデータを削除するには“Remove All”ボタンを、データを削除せずに保存するには、“削除しない”ボタンをクリックします。



✓ 削除されたデータは復元することができません。

5. アンインストール完了画面が表示されたら、“確認”ボタンをクリックしてアンインストールを完了します。



第3章 – 開始

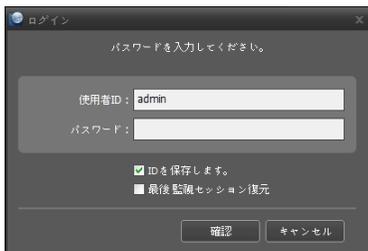
- ✓ 本取扱説明書で“JSS遠隔監視システム”とは“JSS遠隔監視システム”プログラムが実行中のPCのことであり、“デバイス”とは、ネットワークカメラ、ネットワークビデオエンコーダ、ネットワークビデオレコーダ（NVR）、およびアナログHD対応デジタルレコーダ（DVR）のことであります。

JSS遠隔監視システムソフトウェアをインストールするとデスクトップに“JSS遠隔監視システム”のジャンプ  アイコンが生成されます。“JSS遠隔監視システム”のジャンプアイコンをダブルクリックしてJSS遠隔監視システムプログラムを実行します。JSS遠隔監視システムプログラムが実行中のPCに“管理者”IDではなく“標準ユーザー”IDでログインした場合、デバイスの脱着式/eSATA HDD又はSD（SDHC）メモ리카ードが認識できません。

- ✓ JSS遠隔監視システムプログラムが実行中のPC仕様、または、ユーザーID設定により、ログインの制限がある恐れがあります。

3.1 ログイン

プログラム実行時、次のようにログインしなければなりません。“スタート”メニューの“JSS遠隔監視システム”をクリックします。→ プログラムを実行した後、ログイン情報を入力します。



- 使用者ID、パスワード: 使用者ID及びパスワードを入力します。使用者IDの基本値は“admin”であり、初期パスワードはありません。ユーザーメニューで使用者ID及びパスワードが変更できます。詳しい内容は、“5.2 ユーザー(使用者)、ユーザー管理”(p.29)を参照してください。
- IDを保存します: この項目を選択するとログインする際、入力したIDを保存します。
- 最後監視セッション復元: 現在の監視パネルに以前の監視セッションを復元できます (“ユーザー基本レイアウト実行”には対応しない)。

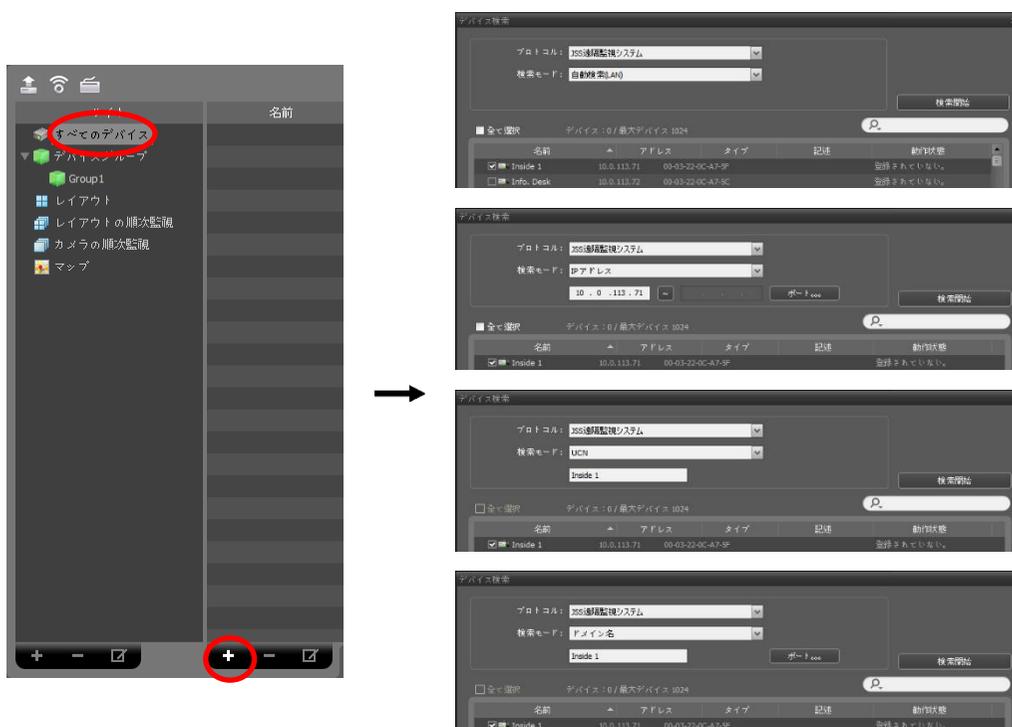
3.2 デバイスの登録

JSS遠隔監視システムプログラムで提供する機能を使用するためには、まずJSS遠隔監視システムプログラムにデバイスを登録した後、該当するデバイスをデバイスグループに追加しなければなりません。

1. “システム”メニュー → “設定” → “デバイス”を選択します。



2. “サイト”パネルで“すべてのデバイス”をクリックした後、右のサイトリストのパネルの下段にある**+**ボタンをクリックします。“デバイス検索”画面が表示されます。

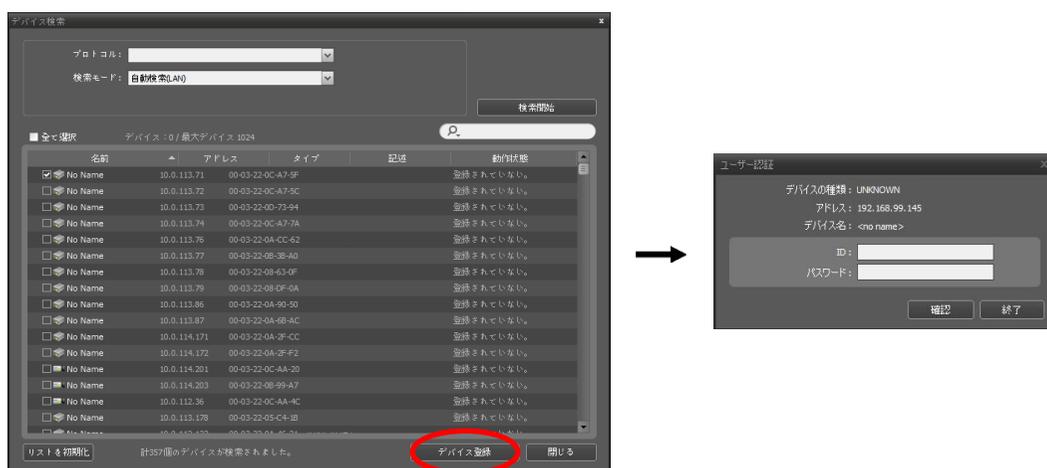


- プロトコル: 検索するデバイスのプロトコルまたはメーカーを選択します。
※ONVIFプロトコルでのカメラ登録はできません。
- 検索モード: 検索モードを選択した後、“検索開始”ボタンをクリックすると、検索結果をリストで表示します。デバイスのIPアドレス帯域がJSS遠隔監視システムのIPアドレス帯域と異なる場合、JSS遠隔監視システムプログラムは該当デバイスのIPアドレスを有効にしないものと見なします。この場合、デバイスのIPアドレスを変更すれば、デバイスの登録ができます。
 - 自動検索(LAN): LAN環境にあるデバイスをリストに表示します。
 - IPアドレス: デバイスのIPアドレスを入力します。二つ以上のデバイスを登録する場合、IPアドレスの範囲を入力して一度に検索することもできます。デバイスのネットワーク接続を設定する時、DHCPを使用しないことをお勧めします。DHCPを使用する場合、外部ネットワーク環境変化によってデバイス接続が正しく動作しない可能性があります。
 - UCN: デバイスがUCN (Universal Connect Network)機能を使用する場合、UCNサーバーに登録されたデバイスの名前を入力します。デバイスが登録されているUCNサーバーの情報が正しく設定されているか確認してください(“システム”メニュー → 設定 → “ネットワーク”設定 → “UCN”項目)。デバイスが登録されているUCNサーバーの情報が正しくない場合はデバイスが検索できません。
 - ドメイン名: デバイスがドメイン名サービスを使用する場合DNSサーバーに登録されたデバイスの名前

を入力します。

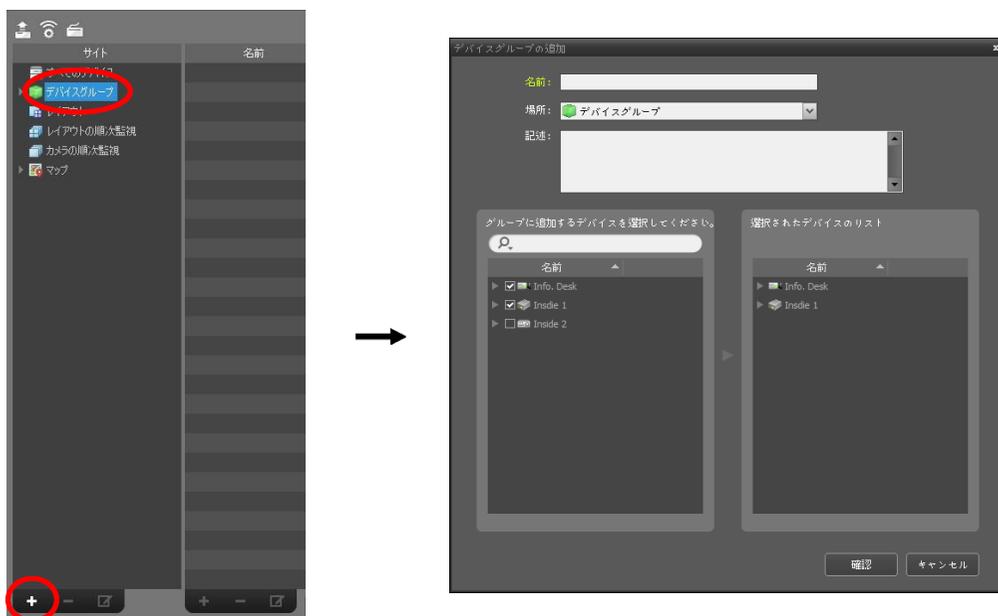
- デバイス情報ファイル: デバイス接続情報の保存されている.xmlファイル呼び出し、該当デバイスをリストに表示します。“システム”メニュー → 設定 → “ファイル保存” → “デバイス情報”を選択して現在のデバイス情報を保存してファイルを作成します。 .xmlファイルに関する詳しい内容は、販売店にお問い合わせください。
- : リストで各デバイスの名前の横にあるチェックボックスを選択して、登録するデバイスを選択します。“全て選択”を選ぶとリストにあるすべてのデバイスを選択します。

3. “デバイス検索”画面の下段の“デバイス登録”ボタンをクリックします。



- 名前、アドレス、デバイスの種類: 選択したデバイスの名前、IPアドレス及び種類を表示します。デバイス設定時に“デバイス名同期化”オプションが選択されている場合、デバイス名がデバイスでの設定によって自動的にアップデートされます。
- ID、パスワード: 遠隔接続のために各デバイスで設定したユーザーID及びパスワードを入力します。
- すべてのデバイスに適用: 1つ以上のデバイスを選択した場合、選択したデバイスのユーザーID及びパスワードが全て同じであれば、入力したユーザーID及びパスワードを全てに適用することができます。

4. “サイト”パネルで“デバイスグループ”をクリックした後、“サイト”パネルの下段にある **+** ボタンをクリックします。“デバイスグループの追加”画面が表示されます。



- 名前: デバイスグループの名前を入力します。
- 場所: 該当するデバイスグループが所属する上位デバイスグループを選択します。
- グループに追加するデバイスを選択してください、選択されたデバイスのリスト: 左側でカメラの横にあるチェックボックスを選択すると、選択したカメラが右側に追加されます。

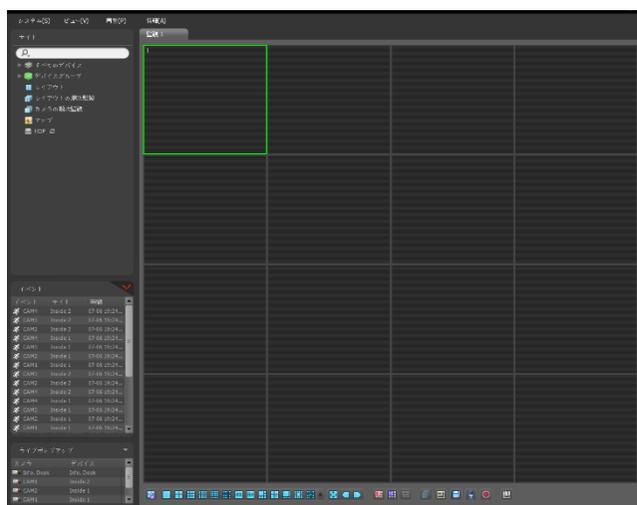
“確認”ボタンをクリックすると、該当するデバイスグループが登録されます。

5. デバイスがデバイスグループに正しく追加されているか確認します。“サイト”パネルで“デバイスグループ”をクリックした後“デバイスグループ”の左側の矢印ボタン(▶)をクリックします。登録されたデバイスグループをクリックすると、該当するデバイスグループに追加されたデバイスリストが右側に表示されます。映像分析装置が登録されている装置であれば、装置リストから映像分析 ()を確認することができます。



登録されたデバイスグループを選択した後、“サイト”パネルの下段にある ボタンをクリックすると“デバイスグループ修正”画面が表示され、該当するデバイスグループを修正することができます。詳しい内容は、“5.1 デバイスの管理” (p.22)部分を参照してください。

3.3 リアルタイム映像監視

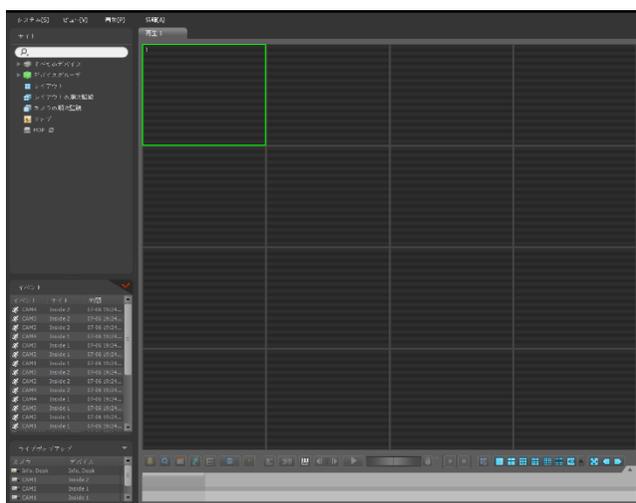


1. “サイト”リストでデバイスグループにデバイスが追加されているか確認します。

2. パネルタブで監視タブをクリックします。→“サイト”リストで接続するサイトを選択した後、監視画面の上にマウスでドラッグ&ドロップします。選択したサイトのリアルタイム映像が画面に表示されます。詳しい内容、“第6章 – リアルタイム映像監視” (p.50)部分を参照してください。



3.4 録画映像再生



パネルタブで再生タブをクリックします。→ “サイト”リストで接続するサイトを選択した後、再生画面の上にマウスでドラッグ&ドロップします。選択したサイトの録画映像が画面に表示されます。詳しい内容は、“第7章 — 録画映像再生及び動画で保存” (p. 77)部分を参照してください。



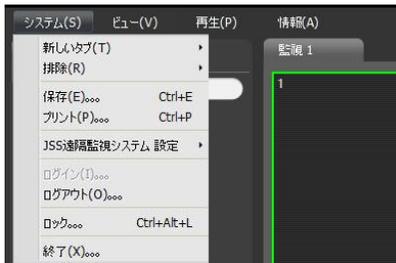
第4章 – システムの概要



- ① メニュー: “メニュー” (p. 15)部分を参照してください。
- ② サイトリスト: マウスでドラッグ&ドロップを利用して登録されたサイトに接続します。詳しい内容は、“サイトリスト” (p. 17)部分を参照してください。
- ③ リアルタイムのイベントのリスト: 登録されたデバイスから、通知を受けたイベントのリストを表示します。
♥ ボタンをクリックすると“緊急イベント”パネルが表示されます。詳しい内容は、“5.11 最近のイベント” (p. 41)部分を参照してください。
- ④ ライブポップアップリスト: 現在JSS遠隔監視システムプログラムに挙がっているポップアップ画面のリストを表示します。ライブポップアップに関する詳しい内容は、“6.5 マップの制御、ライブポップアップ” (p. 75)部分を参照してください。
- ⑤ パネルのツールバー/タイムテーブル: パネルによってツールバーまたはタイムテーブルを表示します。詳しい内容は、“6.4 カメラの制御” (p. 62)または、“7.1 録画映像再生” (p. 77)部分を参照してください。
- ⑥ パネル: 選択したタブの映像またはリストを表示します。詳しい内容は、“パネル” (p. 18)部分を参照してください。

メニュー

システム



- 新しいタブ: パネルを追加します。監視、再生パネルの場合合わせて最大8つのパネルが支援されます。マップパネルの場合、最大2つ、レポート、動作状態、デバイス状態パネルの場合、それぞれ1つのパネルが支援されます。
- 削除: 選択したデバイス、カメラまたはすべてのカメラを監視画面または再生画面から削除します。
- 保存、プリント: 選択したタブのパネルに表示される映像またはリストを保存または印刷します(一部パネルの場合、サポートされない)。
- JSS遠隔監視システム 設定: 基本設定を変更します。詳しい内容は、“第5章 - 設定” (p. 20)部分を参照してください。
- ログイン、ログアウト: プログラムにログインまたはログアウトします。
- ロック: JSS遠隔監視システムプログラムをロックします。プログラムがロックされるとプログラムを使用することができなくなりパスワードの入力画面が表示されます。パスワードを入力するとロックが解除されます。
- 終了: プログラムを終了します。

ビュー



- ユーザーレイアウト登録: 現在の画面分割を保存します。
- フルスクリーン: 選択した監視または再生パネルをフルスクリーンで表示します。
- 全体画面 + ツールバー: 選択した監視または再生パネルをパネルツールバーと一緒に全体画面で表示します。
- フローティングタブ初期化: フローティングされたすべてのタブをメインタブに集結させます。
- 画面分割: 画面分割を変更することができます。
- 前のカメラ/次のカメラ: 前又は次のカメラグループに移動します。
- 画面更新: 監視または再生タブでスクリーン画面の映像を更新します。

- ピクセルカウンター: 監視または再生映像から選択した領域のピクセル情報を提供します。
- ホットスポット設定: 選択したカメラ画面をホットスポット画面で設定します。詳しい内容は、“6.1 映像監視、ホットスポット設定” (p.51)部分を参照してください。
- イベントスポット設定: 選択したカメラ画面をイベントスポット画面で設定します。詳しい内容は、“6.1 映像監視、イベントスポット設定” (p.52)部分を参照してください。
- ブラウザ設定: 選択した画面をブラウザ画面に出します。
- マップイベントスポット設定: 選択したカメラ画面をマップイベントスポット画面で設定します。詳しい内容は、“6.1 映像監視、マップイベントスポット設定” (p.53)部分を参照してください。
- レイアウトの順次監視: レイアウトの順次監視を開始または終了します。詳しい内容は、“6.1 映像監視、レイアウトの順次監視” (p. 53)部分を参照してください。
- 緊急イベントパネル: 緊急イベントパネルを見せます。詳しい内容は、“第8章 – イベント処理” (p.91)部分を参照してください。
- 遠隔地点パネル: フローティングされたパネル又は全体画面で地点リストを表示、または非表示することができます。本機能は一部パネルのみ対応します。
- テキストインパネル: テキストインデバイスのパネルを見せます。
- マルチストリーム: 選択したカメラデバイスがリアルタイム監視映像に対し、マルチストリームモードが設定されている場合、ご希望のストリームを設定します。
- ライブの画面静止: ライブ画面の画像表示を静止します。
- ライブネットワークモニタ: ネットワークのデータ通信量を表示します。

再生

| 再生(P) | 情報(A) |
|-------------|------------------|
| 再生/一時停止(P) | Ctrl+Space |
| 再生/一時停止(タブ) | Ctrl+Shift+Space |
| 移動(G) | ▶ |
| フレーム移動(S) | ▶ |
| 動画保存(V) | ▶ |
| サムネイル検索(M) | |

- 再生/一時停止 (P) : 選択したデバイスの録画映像を再生したり映像再生を一時停止します。
- 再生/一時停止 (タブ): 現在の画面に表示されたすべての録画映像を再生または一時停止 します。
- 移動: 再生する映像の時点を選択します。詳しい内容は、“7.1 録画映像再生” (p.77)部分を参照してください。

- フレーム移動: フレームまたは時間単位で、前または次の映像に移動します。
- 動画保存: 録画映像を専用のビューアーファイル(.exe)またはAVIファイル(.avi)で保存します。
- サムネイル検索: イベントベース録画(イベントおよびプリイベント)中に録画された映像の停止映像を再生パネルに表示します。

情報



- 情報: ソフトウェアのバージョン等の情報を表示します。

サイトリスト



登録されたサイトリストを表示します。

- (検索): 登録されたサイトを検索します。検索語を入力すればその結果を表示します。
- すべてのデバイス: 登録されたデバイスのリストを表示します。リストでデバイスをクリックした後、画面の上の希望する位置にマウスでドラッグ&ドロップすれば、該当するデバイスに接続しているカメラの映像を監視したり、カメラの録画映像を再生することができます。この機能は“Administrator”グループに属するユーザーのみ設定できます。
- デバイスグループ: 登録されたデバイスグループのリストを表示します。リストでデバイスをクリックした後、画面の上の希望する位置にマウスでドラッグ&ドロップすれば、該当するデバイスに接続しているカメラの映像を監視したり、カメラの録画映像を再生することができます。詳しい内容は、“6.1 映像監視” (p.50)または、“7.1 録画映像再生” (p.77)部分を参照してください。
- レイアウト: 登録されたレイアウトリストを表示します。リストでレイアウトをクリックした後、画面にマウスでドラッグ&ドロップすれば、レイアウトの監視または再生を行います。詳しい内容は、“6.1 映像監視、レイアウトの監視” (p. 53)または、“7.1 録画映像再生” (p.77)部分を参照してください。
- レイアウトの順次監視: 登録されたレイアウトの順次監視のリストを表示します。リストでレイアウトの順次監視をクリックした後、画面にマウスでドラッグ&ドロップすると、レイアウトの順次監視を行います。詳しい内容は、“6.1 映像監視、レイアウトの順次監視” (p. 55)部分を参照してください。
- カメラの順次監視: 登録されたカメラの順次監視のリストを表示します。リストでカメラの順次監視をクリックした後、画面の上の希望する位置にマウスでドラッグ&ドロップすると、カメラの順次監視を行います。詳しい内容は、“6.1 映像監視、カメラの順次監視” (p. 57)部分を参照してください。
- マップ: 登録されたマップのリストを表示します。リストでマップの順次監視をクリックした後、画面の上の希望する位置にマウスでドラッグ&ドロップすると、マップ監視を行います。詳しい内容は、“6.2 マップ監視” (p.60)部分を参照してください。
- HDP: JSS遠隔監視システムにデバイスの脱着式/eSATA HDD又はSD (SDHC)メモ리카ードが接続されている場合、該当HDD又はSD (SDHC)メモ리카ードのリストを表示します。デバイスの脱着式HDDをJSS遠隔監視システムに接続するには、SATA <-> USB 2.0 コンバータ又はIDE <-> USB 2.0コンバータが、eSATA HDDはeSATAケーブルが、SD (SDHC)メモ리카ードはSD (SDHC)メモ리카ードリーダーが必要です。詳しい内容

は、販売店にお問い合わせください。リストでマウスの右ボタンをクリックすると該当HDD又はSD (SDHC) メモリカードの保存容量情報が表示されます(フォルダの経路、ドライブの種類、デバイスのモデル、録画範囲、容量など)。

- 緊急録画: 緊急録画されたデバイスがある場合、該当デバイスのリストを表示します。

パネル



- 監視: リアルタイム映像を表示します。詳しい内容は、“第6章 – リアルタイム映像監視” (p. 50)部分を参照してください。
- 再生: デバイスに保存されていた録画映像又はJSS遠隔監視システムプログラムで緊急録画された映像を再生できます。詳しい内容は、“第7章 – 録画映像再生及び動画で保存” (p. 77)部分を参照してください。
- マップ: マップを表示します。詳しい内容は、“6.2 マップ監視” (p. 60)部分を参照してください。
- 映像解析装置: AIボックスに接続された装置の映像分析情報を視覚化して表示します。
- 映像解析ダッシュボード: AIボックスで検出された違反事項及び発生イベント情報をダッシュボードの形に表示します。
- 動作状態: デバイスグループに登録されたデバイスの動作状態を点検し、その結果を表示します。詳しい内容は、“9.1 システムの動作状態の監視” (p. 95)部分を参照してください。
- デバイス状態: 知りたいデバイスの状態をリアルタイムで表示します。詳しい内容は、“9.2 デバイス状態の監視” (p. 96)部分を参照してください。
- レポート: JSS遠隔監視システムプログラムのログを表示します。詳しい内容は、“第10章 – ログ検索” (p. 100)部分を参照してください。
- 自己診断: (“9.3自己診断” (P.97) を参照ください。)

✓ パネルタブでマウスの右ボタンをクリックし、タブの名前を変更することができます。

パネルの追加及び削除



“システム”メニューをクリックします。 → “新しいタブ”をクリックします。
→ 追加するパネルを選択します。

各タブの横の ボタンをクリックするとそのパネルが削除されます。

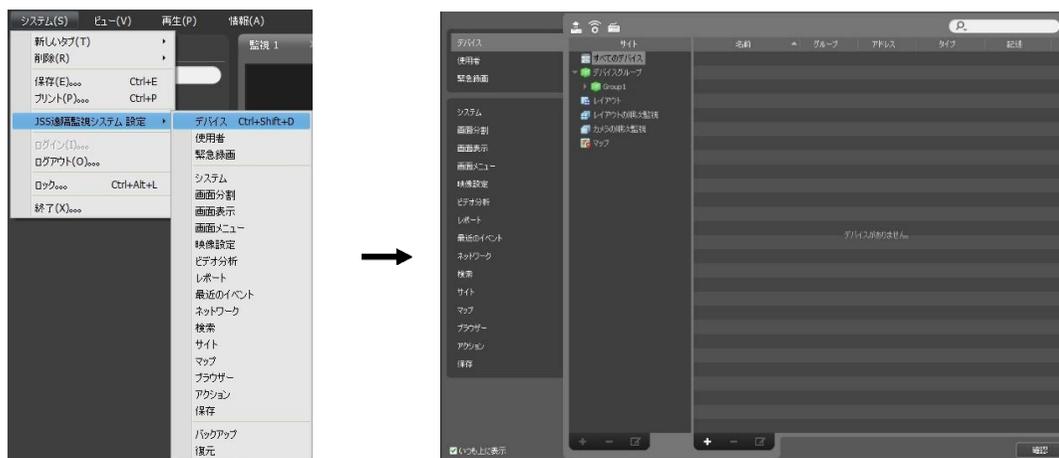
パネルのフローティング及び固定

パネルタブをクリック後、マウスでドラッグ&ドロップすると該当パネルが画面上にフローティング(浮上)します。フローティングされているパネルタブをクリックした後、元の位置にマウスでドラッグ&ドロップすると、該当位置に固定します。マウスでドラッグ&ドロップを利用してパネルタブの順序を変更することもできます。

- フローティングされたパネル最大化: フローティングされたパネルの上右側のスクリーン最大化/以前サイズ復元ボタンをクリックするとパネルを最大化することや以前のサイズに復元することができます。
- フローティングされたパネルに地点リスト表示/非表示: フローティングされたパネルの画面でマウス右側ボタンをクリックし、画面メニューで“遠隔地点パネル”を選択するとフローティングされたパネルに地点リストを表示、または非表示することができます。本機能は一部パネルのみ対応します。

第5章 — 設定

“システム”メニュー → “設定” → “デバイス”を選択します。



- いつも上に表示: JSS遠隔監視システム設定画面を、スクリーンの一歩前に表示します。

5.1 デバイス

サイトを登録及び管理します。



-  (多重ファームウェアアップグレード): 複数デバイスのソフトウェアを一括にアップグレードすることができます。詳しい内容は、“デバイスの管理、ファームウェアアップグレード” (p. 26)部分を参照してください。
-  (多重遠隔設定): 設定ファイルを用いて複数のデバイスの設定が一括に変更できます。詳しい内容は、“デバイスの管理、デバイスを遠隔設定” (p. 25)部分を参照してください。
- サイト(サイトパネル): JSS遠隔監視システムプログラムでサポートするサイトグループのリストを表示します。詳しい内容は、“サイト” (p. 21)部分を参照してください。
- 名前、グループ、アドレス、タイプ、記述(サイトリストのパネル): 各サイトグループに登録されたサイトリスト及び情報を表示します。デバイス名の横の矢印ボタン()をクリックすると、該当デバイスでサポートするビデオ入力、アラーム入力/出力およびオーディオ入力/出力の情報を表示します。
- (検索): 各グループに登録されたサイトを検索します。“サイト”ネルでサイトグループを選択した後、検索語を入力します。選択したグループ内で入力された部分と一致する結果が検索されると、その結果を表示します。
- **+** (追加)、**-** (削除)、 (変更): サイトを登録するか、削除または変更します。サイトを選択した後、マウスの右ボタンをクリックすると表示されるメニューを利用してサイトを該当グループから削除したり、登録情報を変更することもできます。選択したサイトがデバイスである場合、デバイスに接続してデバイスの設定を変更したり、デバイスのソフトウェアをアップグレードすることができます。“すべてのデバイス”でデバイスを削除する場合、デバイスを再登録してもJSS遠隔監視システムは他のデバイスで認識します。デバイス及びデバイスグループの登録に関する詳しい内容は、“3.2 デバイスの登録” (p.8)部分を、レイアウト及び順次監視登録に関する詳しい内容は、“第6章 – リアルタイム映像監視” (p. 50)部分を参照してください。

サイト

- すべてのデバイス: 登録されたすべてのデバイスリストを表示します。デバイスの登録に関する詳しい内容は、“3.2 デバイスの登録” (p. 8)部分を参照してください。
- デバイスグループ: 登録されたデバイスグループのリストを表示します。希望するカメラの映像を監視したり、再生することができます。JSS遠隔監視システムプログラムを用いて機能を実行するためには、デバイスが登録されていなければならず、デバイスグループに該当するデバイスを追加しなければなりません。デバイスグループの登録に関する詳しい内容は、“3.2 デバイスの登録” (p.8)部分を参照してください。
- レイアウト: 登録されたレイアウトのリストを表示します。多数のカメラの映像をあらかじめ設定されたレイアウトで監視したり再生することができます。詳しい内容は、“6.1 映像監視、レイアウトの監視” (p. 53)部分を参照してください。
- レイアウトの順次監視: 登録されたレイアウトの順次監視のリストを表示します。多数のカメラの映像をあらかじめ設定された2つ以上のレイアウトで順次監視することができます。詳しい内容は、“6.1 映像監視、レイアウトの順次監視” (p. 55)部分を参照してください。
- カメラの順次監視: 登録されたカメラの順次監視のリストを表示します。多数のカメラの映像を同じカメラ

画面で順次監視することができます。詳しい内容は、“6.1 映像監視、カメラの順次監視” (p. 57)部分を参照してください。

- マップ: 登録されたマップのリストを表示します。カメラ映像、イベント感知、入/出力デバイスの状態をマップで監視することができます。詳しい内容は、“6.2 マップ監視” (p. 60)部分を参照してください。

デバイスの管理

デバイス情報を修正したり、デバイスをリストから削除することができます。また遠隔でデバイスの設定を変更したり、デバイスのソフトウェアをアップグレードできます。“システム”メニュー → “設定” → “デバイス”を選択します。

“サイト”パネルからデバイスグループを選択した後、サイトリストのパネルでデバイスをクリックします。サイトリストのパネルの下段にある ボタンをクリックするか、マウスの右ボタンをクリックすると、デバイスメニューが表示されます。



- デバイス修正: デバイスの接続情報を設定します。詳しい内容は、“デバイス修正” (p. 23)部分を参照してください。
- デバイスを遠隔設定: 遠隔でデバイスの設定が変更できます。詳しい内容は、“デバイスを遠隔設定” (p. 25)部分を参照してください。
- ファームウェアアップグレード: 遠隔でデバイスのソフトウェアをアップグレードすることができます。詳しい内容は、“ファームウェアアップグレード” (p. 26)部分を参照してください。
- 遠隔デスクトップ: VNC機能を利用してデバイスに接続できます。この接続をするためには、デバイスにVNC

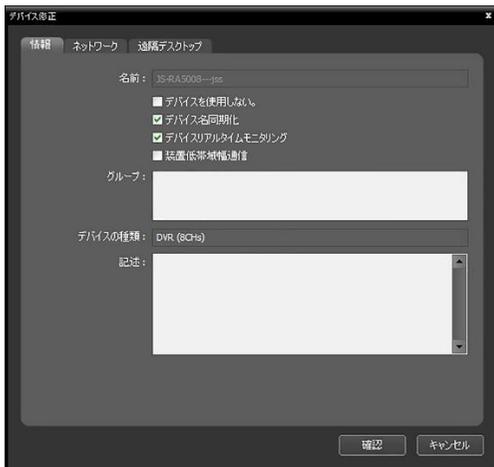
機能が設定されている必要があり、JSS遠隔監視システムでデバイスを登録する時は、VNC遠隔接続のためのポート番号とパスワードが登録されていなければなりません。JSS遠隔監視システムでのVNC遠隔接続のためのポート番号とパスワードの登録に関する詳しい内容は、“デバイス修正、遠隔デスクトップ” (p.25) 部分を参照してください。デバイスの仕様とバージョンによって本機能がサポートされない場合もあります。

- デバイスのクローン: 登録されたデバイスをコピーします。詳しい内容は、“デバイスのクローン” (p. 26) 部門をご参照ください。 デバイスコピーの際、デバイス情報もコピーされます。デバイスメニューから、“デバイス修正”を選択して、コピーされたデバイスの情報を変更することができます。その時、デバイスの認証手続き(デバイスユーザー ID 及びパスワード入力)が要求されません。コピーされたデバイスの場合、デバイスリストから、デバイスアイコンにクローンのアイコン(🔄)が表示されます。
- デバイス情報アップデート: 選択したデバイスの情報を最新の状態にアップデートできます。
- 映像プレビュー: デバイスの映像をプレビューすることができます。
- デバイス削除: デバイスをJSS遠隔監視システムプログラムから削除します。

デバイス修正

デバイスメニューで“デバイス修正”を選択します。

情報



デバイスの基本情報を変更することができます。

- 名前: デバイスの名前を修正します。他のデバイスと重複する名前が使えます。
 - デバイスを使用しない: 該当するデバイスは登録されていないものと見なされます。
 - デバイス名同期化: デバイスより設定した名をJSS遠隔監視システムプログラムに自動的に適用します。
 - デバイスリアルタイムモニタリング: 登録された全てのデバイスに対し、JSS遠隔監視システムプログラムに表示されるデバイスのイベント情報及びデバイス情報を自動的にアップデートします。ただし、複数台のJSS遠隔監視システムから該当デバイスに同時にアクセスする場合、該当デバイスの対応できる最大同時接続者数によってデバイスに接続できない場合があります。項目を選択しなければ、現在監視中のデバイスについてのイベント情報及びデバイス情報のみを自動的にアップデートします。

- 装置低帯域幅通信: デバイスが低帯域環境にある場合、選択します。低帯域環境に合わせてクライアントが動作します。
- グループ: デバイスが登録されたデバイスの映像を録画する録画サービスリストを表示します。
- デバイスの種類: デバイスの種類を表示します。

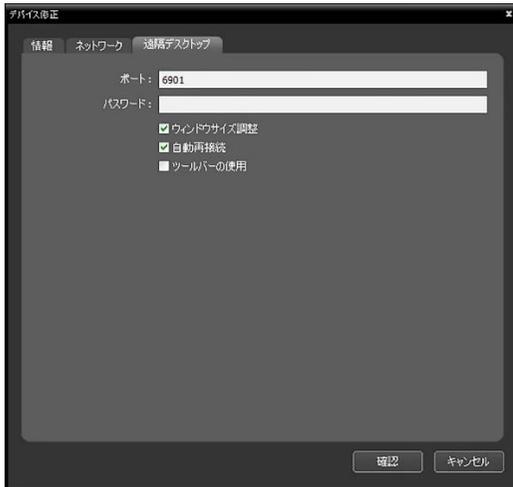
ネットワーク



デバイス接続の基本情報を変更できます。但し、デバイスの認証手続き(デバイスユーザーのID及びパスワードの入力)が要求されます。(コピーされたデバイスの場合、認証の手続きは不要です。)

- アドレスタイプ: デバイスのアドレスタイプを選択します。
 - 自動検索(LAN): デバイスのアドレスを修正する時、デバイスのmDNS番号を入力します。
 - IPアドレス: デバイスのアドレスを修正する時、デバイスのIPアドレスを入力します。
 - UCN: デバイスがUCN (Universal Connect Network)機能を使用する場合、デバイスのアドレスを入力する時UCNサーバに登録されたデバイスの名前を入力することができます。入力した名前は該当するデバイスのUCN設定で設定した名前と同じでなければなりません。
 - ドメイン名: デバイスがドメイン名サービスを使用する場合、デバイスのアドレスを入力する時DNSサーバに登録されたデバイスのドメイン名を入力することができます。
- アドレス: アドレスタイプで選択したアドレスのタイプによりデバイスのアドレスを修正します。
- ポート: ポート番号を修正します。入力したポート番号は該当デバイスで遠隔接続(Admin)、遠隔監視(Watch)、録画(Record)及び双方向オーディオ(Audio)のために設定したポート番号と同じでなければなりません。
- ID、パスワード、接続テスト: 上記の情報を変更するためには、デバイスの認証手続きが要求されます。デバイスのユーザーID及びパスワードを入力した後、“接続テスト”ボタンをクリックします。接続テストが成功すれば、“確認”ボタンをクリックして、設定の適用が可能です。

遠隔デスクトップ



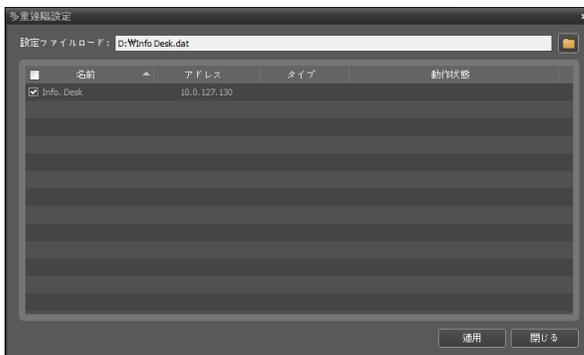
VNC遠隔接続のためのポート番号とパスワードを登録することができます。

- ポート、パスワード: VNC遠隔接続のためのポート番号とパスワードを入力します。
- ウィンドウサイズ調整: VNCビューア画面のサイズをウィンドウサイズに合わせます。
- 自動再接続: VNC遠隔接続が解除されている場合、自動的に再接続します。
- ツールバーの仕様: VNCビューアのツールバーを使用するように設定します。

デバイスを遠隔設定

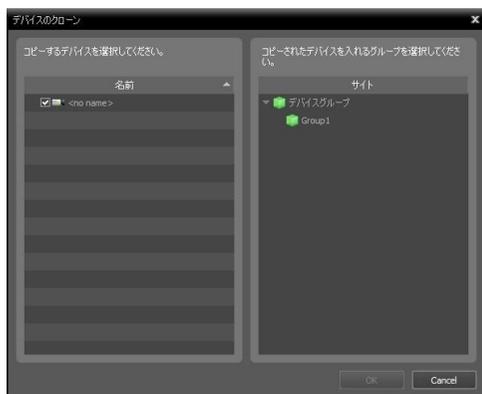
デバイスメニューで“デバイスを遠隔設定”を選択して、遠隔でデバイスの設定が変更できます。一部の設定の場合、遠隔設定に対応しないこともあります。デバイス設定に関する詳しい内容は、該当デバイスの取扱説明書を参照してください。

設定ファイルを用いて複数のデバイスの設定が一括に変更できます。デバイスパネル上段の  (多重遠隔設定) ボタンをクリックすると以下のような設定窓が 現れます。



右側上段の  ボタンをクリックしてから設定ファイルを選択します。選択した設定ファイルが適用可能なデバイスのリストが表示されます。この機能はデバイスのモデルによって支援されない可能性があり、設定ファイルが適用可能なデバイスが登録されていても支援されないデバイスである場合、リストに表示されません。デバイスを選択してから下段の“適用”ボタンをクリックするとそのデバイスの設定を変更します。

デバイスのクローン



コピーされたデバイスが左に現れます。右のデバイスグループリストから、グループを選択すると、コピーされたデバイスが該当グループに追加されます。

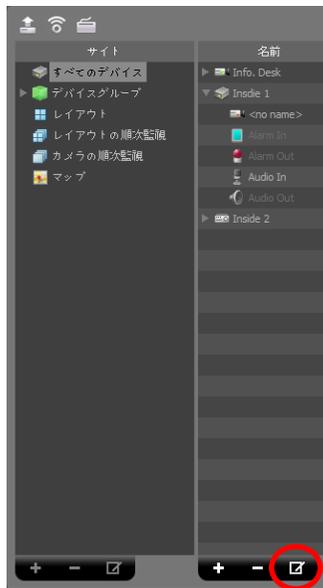
ファームウェアアップグレード

アップグレードファイルが準備された場合、デバイスメニューで“ファームウェアアップグレード”を選択し、遠隔でデバイスのソフトウェアをアップグレードすることができます。

詳細は販売店にお問い合わせください。

入力 / 出力デバイス情報の修正

“サイト”パネルで、“すべてのデバイス”を選択後、サイトリストのパネルでデバイス名の横にある矢印ボタン (▶) をクリックします。該当デバイスでサポートするビデオ入力、アラーム入/出力及びオーディオ入/出力のリストで、入力/出力デバイスをクリックします。サイトリストのパネルの下段にある  ボタンをクリックするか、マウスの右ボタンをクリックして“デバイス修正”を選択します。“デバイス修正”画面が表示されます。



または

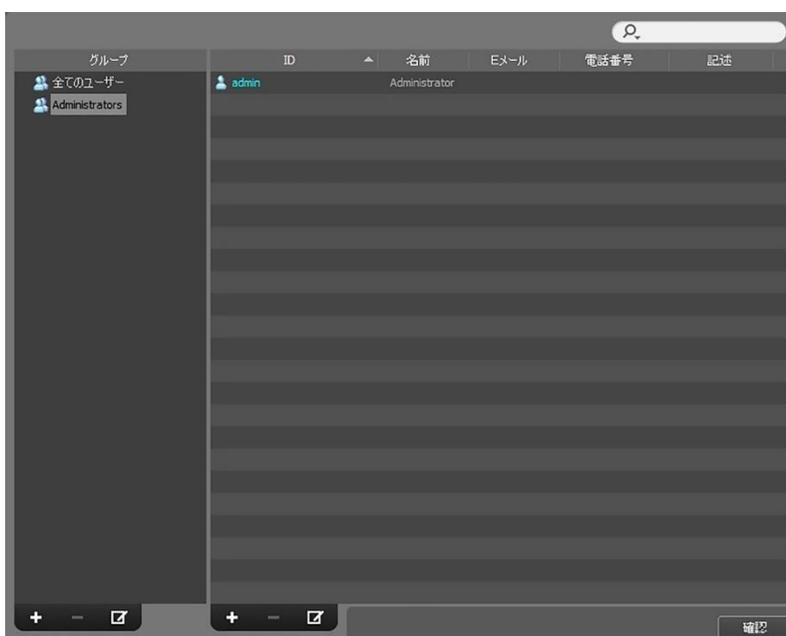


- デバイス名: 該当する入/出力デバイス名を修正します。他の入/出力デバイスと重複する名前が使えます。該当する入/出力デバイスが接続されたデバイス名の更新時、自動更新されます。
- 連動されているオーディオチャンネル: 該当カメラと連動してオーディオを録音するには、オーディオチャンネルを選択します(入/出力デバイスがカメラである場合のみ支援)。そのカメラの映像が録画される場合選択されたオーディオチャンネルのオーディオと一緒に録音されます。
- 連動デバイス: 入/出力デバイスと連動してカメラ映像をイベントスポット画面に出力するためにはそのカメラチャネルを選択します(その入/出力デバイスがアラーム入力またはオーディオ入力デバイスの場合のみ支援)。アラームインまたはオーディオイベント感知時、選択したチャンネルの映像がイベント

スポット画面に表示されます。

5.2 ユーザー(使用者)

ユーザーまたはユーザーグループを登録及び管理します。

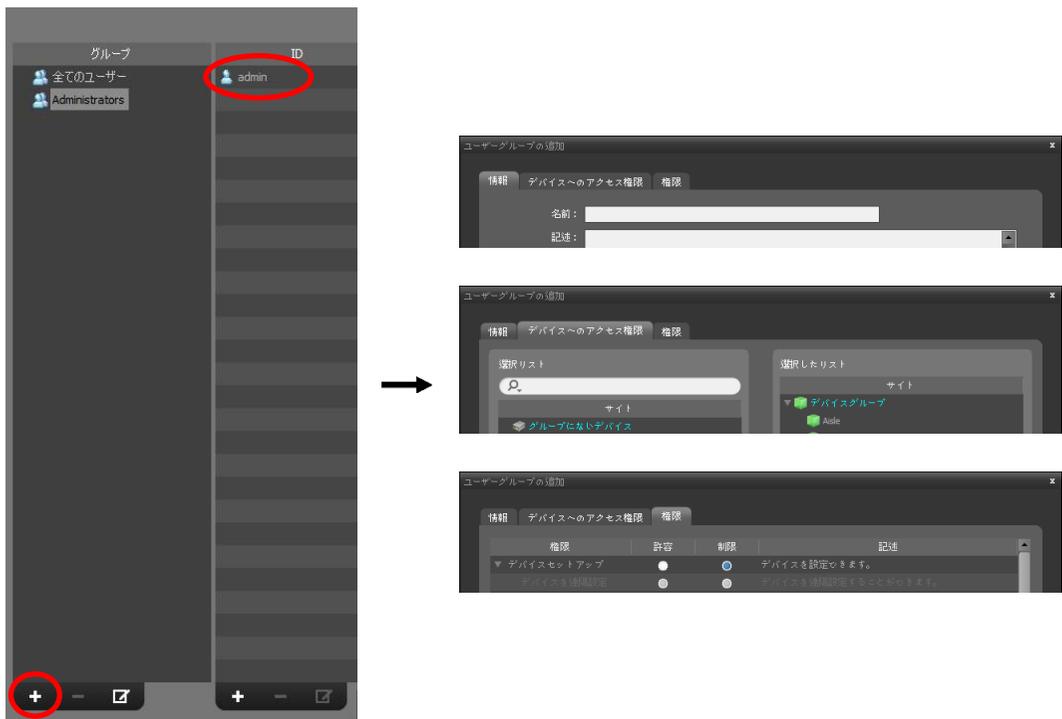


- グループ(グループパネル): 登録されたユーザーグループのリストを表示します。“Administrators”グループはすべての機能に対する権限を持っており、修正することはできません。
- 名前、ID、Eメール、電話番号、記述(ユーザーリストパネル): 各ユーザーグループに登録されたユーザーのリスト及び情報を表示します。
- (検索): 各グループに登録されたユーザーを検索します。“グループ”パネルからユーザーグループを選択した後、検索語を入力します。選択したグループ内で入力された部分と一致する結果が検索されたら、その結果が表示されます。
- **+** (追加)、**-** (削除)、 (変更): ユーザーグループまたはユーザーを登録するか削除または変更します。

ユーザー管理

JSS遠隔監視システムプログラムの各機能に対する権限をユーザーによって互いに異なるように設定することができます。ただし、“Administrators”グループはすべての機能に対する権限を有しており、修正することができません。

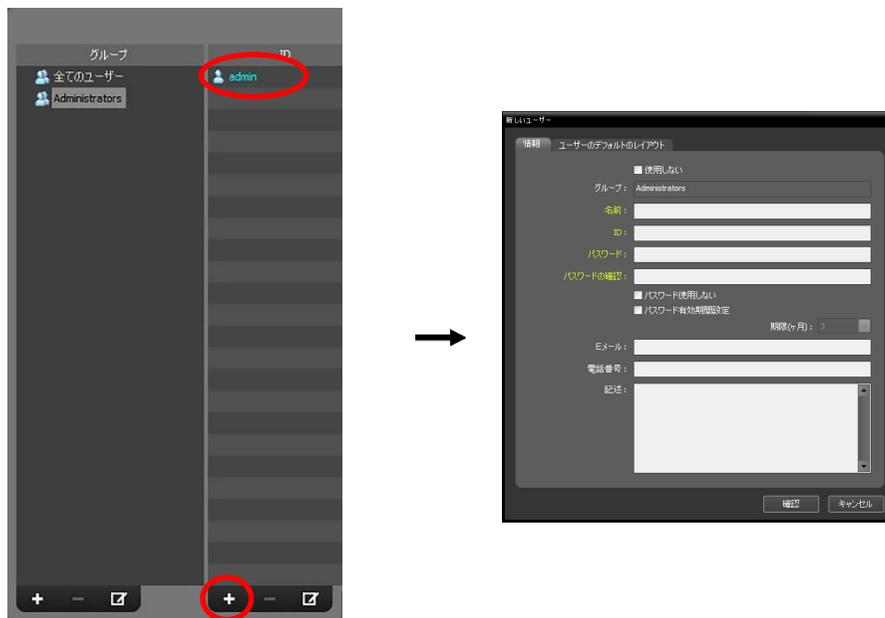
1. ユーザーグループパネルの下段にある **+** ボタンをクリックします。“ユーザーグループの追加”画面が表示されます。



- 情報のタブ: ユーザーグループの名前を入力します。
- デバイスへのアクセス権現タブ: 各デバイスに対するアクセス権限を付与したり制限します。
- 権限のタブ: 各機能に対する権限を与えたり、制限します。

“確認”ボタンをクリックすると、該当するユーザーグループが追加されます。

2. ユーザーグループパネルで追加されたユーザーグループをクリックした後、ユーザーパネルの下段にある **+** ボタンをクリックします。“新しいユーザー”画面が表示されます。



- 使用しない: 当該ユーザーを非活性化します。
- 名前: ユーザーの名前を入力します。
- ID、パスワード、パスワードの確認: JSS遠隔監視システムプログラムを実行するための固有のユーザーID及びパスワード(空白なしで8桁~16桁)を入力します。
- パスワード使用しない: JSS遠隔監視システムプログラムを実行する時、パスワードなしでログインできます。
- パスワード有効期間設定: パスワードの有効期間を設定します。有効期間が過ぎるとログインする時これをお知らせします。
- Eメール: Eメールアドレスを入力します。Eメールアドレスには“@”が必ず含まれていなければなりません。
- 電話番号、記述: 電話番号及び記述を入力します。電話番号には数字と“-”のみ入力できます。
- ユーザーのデフォルトのレイアウト: JSS遠隔監視システムプログラム実行時に表示されるユーザーレイアウトが選択できます。

“確認”ボタンをクリックします。

3. 登録されたユーザーグループまたはユーザーを選択した後、 ボタンをクリックしてユーザーグループまたはユーザー情報を変更することができます。
4. “All UserGroup”を選択するとユーザーグループと関係なく JSS遠隔監視システムに登録されたすべてのユーザーが表示されます。
5. 登録されたユーザーを選択した後、他のユーザーグループへとマウスをドラッグ&ドロップして当該ユーザーのグループを変更することができます。ユーザーグループ変更の際、モニタリンググループも同時に変更

されます。

5.3 緊急録画

ユーザーが映像監視中に手で録画を開始または停止することができます。

- ✓ 監視映像が監視タブに見えない場合、緊急録画を行いません。例えば、緊急録画中、画面のレイアウトを変更し、緊急録画中の映像が見えなくなった場合、該当映像に対する、緊急録画は中止されます。



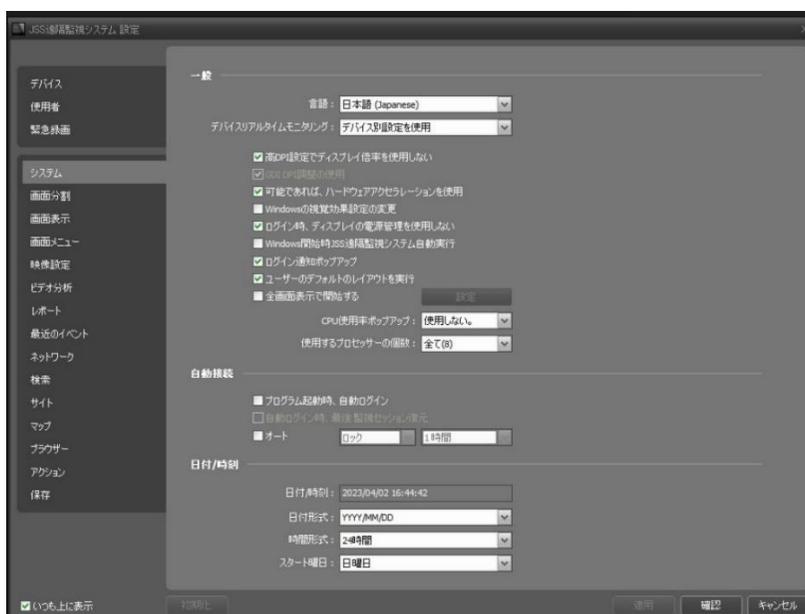
- 全スペース: 緊急録画のために割り当てられた保存スペースの全体容量及び残りの容量を表示します。
- 録画時刻: 割り当てられた保存スペースに緊急録画された時刻を表示します。
- 上書き: 上書きを使用するかどうかを表示します。
- すべての録画データを削除: 緊急録画された映像をすべて削除します。
- 異常な録画のタイムテーブルを復元: 録画時にエラーが生じた場合、録画データと録画データのタイムテーブル情報が一致しないことがあり、このためJSS遠隔監視システムプログラムのタイムテーブルが誤った情報を表示することがあります。この場合、ボタンをクリックすると、タイムテーブル情報を復元し、正しい録画データを表示することができます。
- ディスクの容量が一杯になった場合、録画されているデータの上書きを使用: 割り当てられたストレージが一杯になった場合、古いデータから削除され、新しいデータが録画されます。
- 緊急録画使用: 緊急録画を行うことができます。
- ストレージ経路: 緊急録画のためのストレージフォルダーの経路を設定します。
- 容量: 割り当てるストレージの容量を設定します(最小4GB~最大64GB)。

- 緊急録画は次のように行われます。

監視画面で録画する映像が表示されたカメラ画面を選択した後、カメラ画面の制御ツールバーで  (緊急録画) ボタンをクリックします。該当カメラ画面の右上段に緊急録画OSD(オレンジ色 )が表示され、録画を開始します。 (緊急録画) ボタンを再びクリックすると録画が停止します。



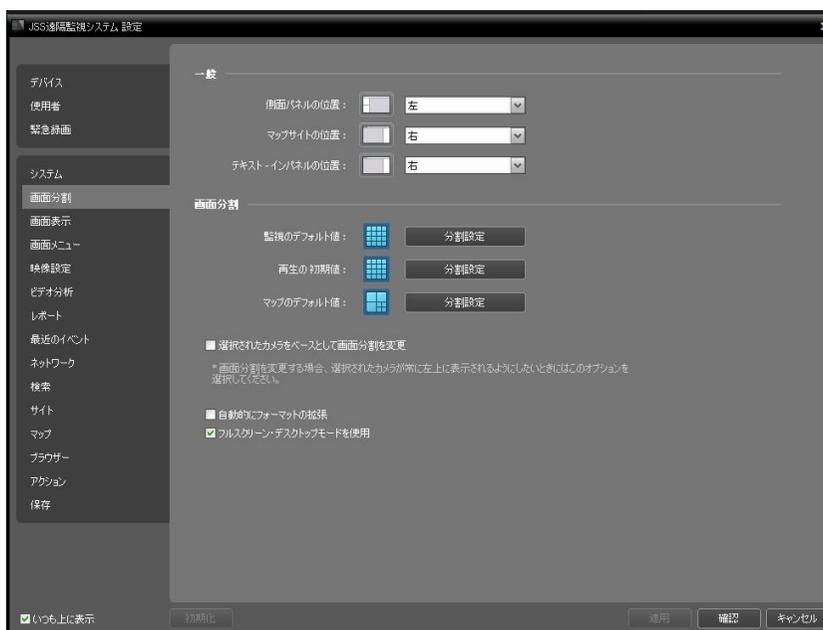
5.4 システム



- 言語: プログラム稼動時に使用する言語を選択します。変更された設定は次の実行の時から適用されます。
- デバイスのリアルタイムモニタリング: 装置のリアルタイム監視の範囲を選択します。本設定に応じて、デバイスのリアルタイム監視状態が反映されており、“すべてのデバイスを無効にする”を選択した場合、それぞれのデバイスの「デバイスの変更」ウィンドウに「デバイスのリアルタイムモニタリング」の項目が消えます。
- 高DPI設定でディスプレイ倍率を使用しない: 選択解除時にDPIスケールに基づいて、クライアントプログラムサイズが異なります。
- GDI DPI調整の使用: 高いDPI環境で拡大されたテキストが鮮明に見えるようにします。オペレーションシステムが当該機能に対応し、“高DPI設定でディスプレイ倍率を使用しない”の設定を解除すると機能が有効になります。

- 可能であれば、ハードウェアアクセラレーションを使用: 特定の条件を満たす環境でハードウェアアクセラレーションを使用します。設定を解除した場合、ハードウェアアクセラレーションを使用できる環境でもハードウェアアクセラレーションを使用しません。
- Windowsの視覚効果設定の変更: Windows視覚効果設定を変更するかどうかを選択します。
- ログイン時、ディスプレイの電源管理を使用しない: ウィンドウで提供する電源管理オプションを使用しません。
- Windows開始時JSS遠隔監視システム自動実行: Windows開始時にJSS遠隔監視システムプログラムを自動的に実行します。
- ログイン通知のポップアップ: JSS遠隔監視システムプログラムにログインする時、ポップアップ画面を表示して通知をします。
- ユーザーのデフォルトのレイアウトを実行: JSS遠隔監視システムプログラム実行時に保存したユーザーレイアウトで表示できます。
- 全画面表示で開始する: JSS遠隔監視システムプログラムを実行する時、全体画面に表示することができます。“全画面表示で開始する”を選択して“設定”をクリックすると、パネルで各モニタの全体画面表示を設定することができます。
- CPUの使用量ポップアップ: JSS遠隔監視システムのCPU使用量が設定した値を超える場合は警告メッセージが表示されます。
- 使用するプロセッサの個数: JSS遠隔監視システムのプログラム動作時に使用するプロセッサの個数を選びます。JSS遠隔監視システムプログラムに対するCPU使用量の制限ができます。
- プログラム起動時、自動ログイン: 以前接続した時のログイン情報を用いてJSS遠隔監視システムプログラム起動時、自動にログインします。“自動ログイン時、最後監視セッション復元”を選択すると現在の監視パネルに以前の監視セッションを復元します。
- オート: ログインの状態を設定した時間でマウスキーボードの入力がない場合、設定によりJSS遠隔監視システムプログラムが自動でログアウトされるか、JSS遠隔監視システムがロックされます。
- 日付/時間: 現在の日付と時間を表示します。
- 日付形式、時間形式: システムの日付及び時刻の表示形式を設定します。
- スタート曜日: 一週間の最初の曜日を設定します。

5.5 画面分割



- 側面パネルの位置、マップサイドの位置、テキストインパネルの位置: 側面パネルの位置、マップパネルにおけるルートマップリストの位置、テキストインパネルの位置を設定します。
- 監視のデフォルト値、再生の初期値、マップの初期値: 監視画面、再生画面及びマップ画面の基本画面分割を表示し、“分割設定”ボタンをクリックして基本の画面分割を変更することができます。
- 選択されたカメラをベースとして画面分割を変更: 画面分割が変更される時、現在の画面で選択したカメラが変更される分割画面の最初のカメラ画面に位置します。
- 自動的にフォーマットの拡張: 接続されたカメラの台数に合わせて、分割画面を自動的に変更します。但し、カメラの個数が減った場合は変更しません。
- フルスクリーン・デスクトップモードを使用: フルスクリーンを有効にすると、そのタブのフルスクリーンを現在のクライアントのソフトウェアとは別に作業表示ラインに追加で表示します。

5.6 画面表示



- 画面表示OSD: カメラ画面でのOSD(On Screen Display)の表示方法及び表示するか否かを設定します。
 - 不透明度: スライドバーを用いて、OSDの不透明度を調整することができます。
 - 選択された枠なし: 監視または、再生の時、選択したカメラ画面の枠を表示しません。
 - 選択されたペインのタイトルバーを表示: 監視または、再生の時、選択したカメラ画面のタイトルバーを表示します。
 - 監視、検索: 画面に表示されるOSD情報を設定します。
 - カメラ名: JSS遠隔監視システムプログラムで設定したカメラ名を表示します。
 - タイトルバー: カメラ画面の上段にタイトルを表示するエリアを区分します。
 - 録画タイトル: 映像録画の際、設定されていたカメラのネームを表示します。
 - ステータスアイコン: ステータスOSDを表示します(🟡 (オレンジ色): 緊急録画中、📄: PTZ、📺: カメラ順次監視、🔊: 映像拡大、🗣️: リスニングまたはトーク)。
- 🟡 (オレンジ色): 緊急録画中 📄: PTZ 🟢: 映像拡大 📺: カメラ順次監視
 🔊: リスニング 🗣️: トーク 🌈: カラーコントロール機能使用(再生映像のみ対応)
 🖼️: イメージ効果機能使用 🖱️: ネットワークキーボードにより画面停止(監視映像のみ対応)
 📹: 録画状態
- PTZ: PTZカメラ制御時、画面にPTZ制御ボタンを表示します。
 - 日付、 時刻: JSS遠隔監視システム日付および時刻を表示します。

- イベント警告、イベント警告の継続時間: デバイスでイベントが発生すると、該当するカメラのタイトルバーを赤色で表示します。イベント警告の表示は、イベント発生後に設定された“イベント警告の継続時間”が過ぎると解除され、“手動で解除”に設定すると、該当するカメラ画面選択時に解除されます。
 - モーションブロック: デバイスで、モーション感知イベントが発生すると、モーションが感知されるエリアを画面上に赤色のブロックで表示します(ネットワークビデオエンコーダーの場合にのみ対応)。
 - サイト名: デバイス名を表示します。カメラ名とデバイス名が違う場合のみ表示されます。
 - 映像解析装置: デバイスからリアルタイム映像解析データを画面に表示します。
 - テキストインデバイス、テキストインの接続時間: デバイスにテキスト-インイベントが発生した場合、テキスト-イン情報を画面上に表示します(1x1分割画面にのみ対応)。テキスト-イン情報は、テキスト-インイベント発生後に設定された“テキスト-イン継続時間”以後解除されます。
 - メッセージ: スクリーンメッセージを表示します。スクリーンメッセージに関する詳しい内容は、“5.12 ネットワーク” (p. 42)部分を参照してください。
- ポジション: 画面表示OSDの位置、OSDテキストの大きさ、OSDのスペースを変更することができます。
- 制御ツールバー: “不透明度”スライダーを利用して、カメラ画面の制御ツールバーの不透明度を調整します。



カメラ名、ステータス
アイコン、日付/連続録
画



イベント警告



モーションブロック



制御ツールバー

- 空き領域のポップアップ: ハーバー領域でのマウスカーソルの位置にツールバーを表示するかどうかを決めます。

- 映像レートにあわせる: 映像のオリジナルレートで、カメラ画面のエリアに合わせて映像を出力します。
- 画面にあわせる: 画面比率と関係なくカメラ画面のエリアに合わせて映像を出力します。
- 画面にあわせる(スマート): 画面に出力される映像のマージンに基づいて、"画面にあわせる"または"実際サイズ"が適用されます。
- 画面にあわせる(比率維持): 画面比率を維持したままでカメラ画面のエリアに合わせて映像を出力します。但し、カメラ画面のサイズによって映像の上下左右が切れることがあります。映像拡大やホットスポット、イベントスポット、モーションブロック表示、機能の動作時、該当カメラ画面については本画面レートに対応せず、代わりに"映像比率にあわせる"が適用されます。
- 実際サイズ(×1): 映像の実際のサイズに出力します。
- 描画モード: 画面で映像をディスプレイするための描画モードを選択します。描画モードの設定に従って、映像の色感やディスプレイ性能に差が出る場合があります。
- 最大フレームサイズ: 画面で出力できる映像フレームの最大サイズを設定します。
- フレームスキップ: デコーディングのスペックを超える映像の場合、選択したフレームスキップ機能を適用して性能を向上させます。
 - レベル1 - システム仕様に基づく: 映像デコーディング仕様を超えるデコーダ設定の場合、フレームスキップを適用します。
 - レベル2 - ペインサイズが映像解像度より小さい場合: 対象カメラペインのサイズが原本映像解像度別に指定されたサイズより小さい場合、フレームスキップを適用します。
 - レベル3 - ループフィルターのオフ: フレームスキップの適用時にコーデックのループフィルターのオフにします。
- 低遅延モード: 映像フレームの平行デコーディングを最小限に抑え、DPBによる遅延を低減します。(本機能はバッファリング、平行処理、後処理を減らすため高スペックを求めます。)
- ディインタレーシング: インタレーシングモードでエンコードされている映像の場合、モーションのある部分に発生する横線やノイズを排除し、映像出力の品質を向上させます。希望するディインタレーシングフィルターを選択します。
- ブロックノイズを排除: 拡大映像で発生する階段(ブロック)現象を排除し、画面上に表示される映像の出力品質を向上させます。
- 映像処理速度優先: 映像出力時、画面上に表示される映像の出力品質より、ディスプレイ速度を優先して表示します。
- 高品質ビデオの縮小: 映像縮小時、画面に表示する映像の出力品質を維持します。
- 高品質ビデオの拡大: 映像拡大時、画面に表示する映像の出力品質を維持します。
- 黒(ノイズ)緑を排除: 映像の端に出力される黒い緑(ノイズ)を排除します。
- モニタ垂直同期: モニターの遅い走査線速度によって発生する映像のティアリングを改善します(1×1画面分割モードでのみ)。この場合、CPU使用量が増加することがあります。

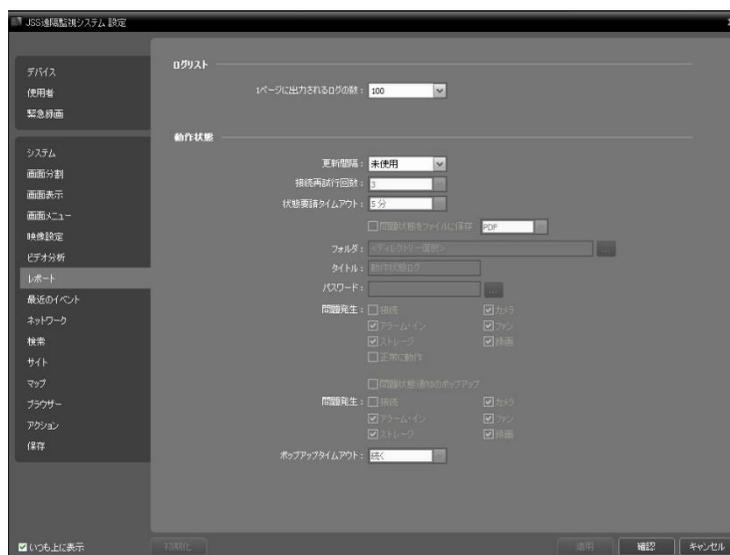
- マルチストリーミングの動的制御: 画面分割モードによって違うストリームを使用するように設定できます(ひとつ以上のストリームが使っているデバイスのみ支援)。“自動”を選択するとJSS遠隔監視システムプログラムがその画面の分割モードに適切なストリームを自動的に設定します。
- 双方向の帯域幅コントロール: 画面分割によってデバイスの解像度とフレーム速度を流動的に変更し、ネットワークの帯域幅をコントロールします(1×1分割: 該当デバイスでサポートする最大解像度および転送速度、多分割: 各画面の分割に適切なレベルに低くした解像度およびフレーム速度)。これにより、ネットワーク帯域幅を効率的に使うことによってネットワークの負荷によって起こるJSS遠隔監視システムの性能低下を減らすことができます。本機能が動作するためにはデバイスにも該当機能が設定されていなければなりません。本機能は監視映像に対してのみ動作します。
- ハードウェアアクセラレーションを使用 - iGPU: JSS遠隔監視システムプログラムでハードウェアの加速を使用します。使用時にHDクラスの高画質映像処理が向上します。本機能はユーザーのPCでハードウェアの加速を使用する場合にのみ対応します。
- GPUデコードを使用(テスト用): JSS遠隔監視システムプログラムでGPUデコードを使用します。使用時にHD級の高画質映像処理が向上します。本機能は、ユーザーのPC上でGPUデコードを使用している場合にのみサポートされます。

5.9 ビデオ分析



- 色の設定: 映像にオーバーレイされた映像分析結果の色をオブジェクトタイプ別に設定します。
- オブジェクトタイプを表示: 映像分析結果にオブジェクトタイプを表示します。
- 精度を表示する: 映像分析結果に精度を表示します。
- 色を表示: 映像分析結果にオブジェクトの色を表示します。

5.10 レポート



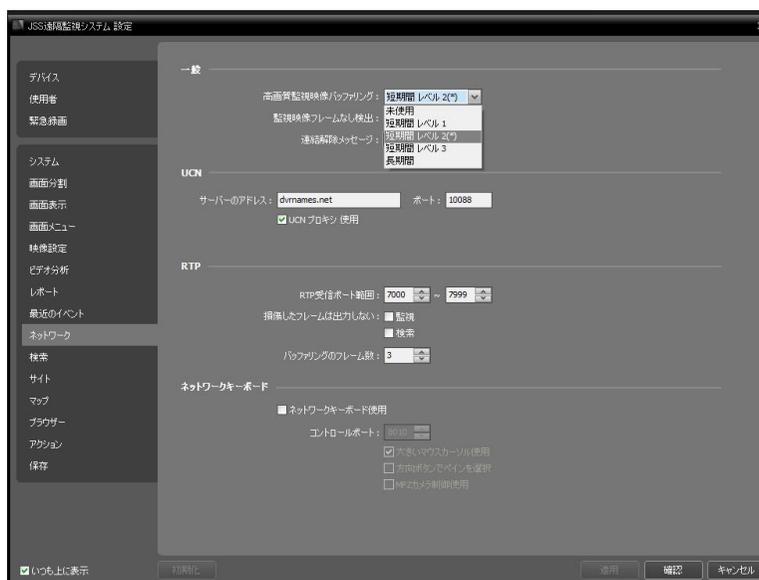
- 1ページに出力されるログの数: 1ページに出力されるログの数を設定します(“デバイスログ”の場合、設定に関係なく100個)。
- 更新間隔: デバイス検査パネルでの状態更新間隔を設定します。“未使用”を選択すると動作状態パネルは動作しません。
- 接続再試行回数: デバイスがアクセスできなかった場合、最大リトライ回数を設定します。
- 状態要請タイムアウト: デバイス状態の要請結果を受ける最大待機時間を設定します。
- 問題状態をファイルに保存: 更新間隔に合わせて選択した不具合発生項目のログをPDFまたはCSV形式に保存します。保存フォルダーとタイトルおよびパスワード (PDF) を設定することができます。
- 問題状態通知のポップアップ: 更新間隔に合わせて選択した不具合発生項目でエラーが発生すると、ポップアップ通知を表示します。ポップアップ通知には、不具合発生に関連情報が表示され、自己判断テキストをクリックすると自己判断を始めます。
- ポップアップタイムアウト: 問題状態通知のポップアップが自動で閉じられる時間を設定します。“制限なし”を選択すると、ユーザーが手動でウィンドウズを閉じる必要があります。

5.11 最近のイベント



- イベントパネル使用: ライブイベントリストが表示されるパネルを見せます。選択を解除すると、パネルを隠すこともできます。
- 時間範囲: リアルタイムのイベントリストに表示される各イベント通知の表示期間を設定します(リストが100個以下である場合に表示期間が過ぎてもイベント通知がリアルタイムのイベントリストから消えない)。
- コラム: リアルタイムのイベントのリストに表示しようとする情報を選択します。
- コールバックのポート: デバイスからコールバックメッセージを受信するためのポート番号を設定します。
- ライブテキストイン時間範囲: テキストインイベント感知時、該当テキストインデータの表示期間を設定します。テキストインデータはテキストインイベント発生後、設定した時間範囲内でテキストインビューア画面で確認できます。テキストインビューア画面に関する詳しい内容は、“6.4 カメラの制御、テキストイン ビューア” (p. 73)部分を参照してください。
- イベントのサウンド: リアルタイムのイベントリストにイベント通知の時、オーディオを再生してサウンドを出力するように設定します。希望するイベントを選択した後、 ボタンをクリックして出力するオーディオファイル(.wav)を設定します。 ボタンをクリックすると該当オーディオファイルを再生して、サウンドを確認することができます。
 - 双方向オーディオ使用時の自動化無効: 両方向オーディオ使用の際、イベント警告サウンド機能で非活性化されるよう設定します。
- イベントスポット: リアルタイムのイベントリストにイベント通知の時そのイベントが発生したカメラ映像をイベントスポット画面に表示します。
 - イベント監視期間: イベントスポット画面に表れる映像の持続時間を設定します。
 - 最小監視期間: イベントが表示されている間に他のイベントが感知された場合、現在イベントに対するイベント監視期間を設定します。設定時間が過ぎてから他に感知されたイベントのカメラ映像を表示します。

5.12 ネットワーク



- 高画質監視映像バッファリング:** HD映像を監視する際に短期間(*)/長期間バッファリングを使用して画面に映像をより柔らかく出力することができます。ネットワーク環境により、バッファリングが遅延されたりリアルタイム感が落ちたりする場合があります。
- 監視映像フレームなし検出期間:** 映像フレームの転送をしたか、どうかを確認する間隔を設定します。設定した時間の間、JSS遠隔監視システムにデバイスの映像フレームが転送されない場合、該当カメラ画面にメッセージが表示されます。
- 連結解除メッセージ:** デバイス連結が解除された場合に表示されるスクリーンメッセージ又はデバイス接続時にカメラの状態が表示されるスクリーンメッセージの内容を変更できます。“設定”ボタンをクリックした後、各メッセージの横にあるチェックボックスを選択すると、該当メッセージの内容を変更することができます。
- UCN:** UCN(Universal Connect Network)機能を使用するデバイスがある場合、“ 使用”を選択した後、デバイスが登録されているUCNサーバー情報を入力します。本設定が正しくない場合、UCN機能を使用するデバイスの登録及び接続はできません。ただし、UCN機能を使用する際、デバイス及びJSS遠隔監視システムのネットワーク接続タイプ(例: UDP Hole Punching、Relay)によってVNC (Virtual Network Computing、仮想ネットワークコンピューティング)の遠隔接続には対応しない場合があります。
- RTP受信ポート範囲:** RTPプロトコルを使用して映像を転送するデバイスが登録時、RTP受信ポート範囲を設定します。ネットワークファイアウォール又はイントラネットが特定UDP/RTPポート番号のみを許容するならば該当ポート番号に合わせてRTPポート範囲設定を変更しなければなりません。一般ストリーミングプログラムのポート番号と衝突しないようにしてください。衝突が起こる場合、映像監視ができない場合があります。

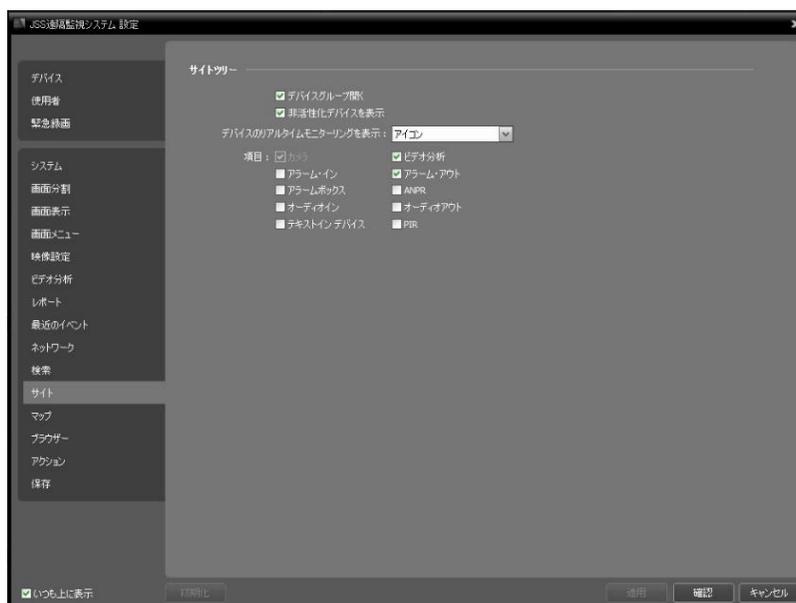
- 損傷したフレームは出力しない: RTPプロトコル使用時、ネットワーク環境によってフレームが損傷したり消失することがあります。この場合、損傷したフレームを監視または再生パネルに表示するかどうかを設定します。
- バッファリングのフレーム数: RTPプロトコルで使用するバッファリングのフレーム数を設定します。数字が大きくなれば映像が切れる現象は減りますがリアルタイム感は落ちます。
- ネットワークキーボード使用: (使用できません。)

5.13 検索



- イベントの時間移動: イベント検索の際、イベント関連フレームの時間を基準にして特定の時間以前のフレームを検索するように指定することができます。
- デュアル-ストリーム再生の優先順位: デュアル-ストリーム録画再生で基本ストリームを設定します。動的制御を設定した場合には、2×2のレイアウトに基づいて、以下のレイアウトでは、メインストリーム、その他のレイアウトでは、サブストリーム録画映像を再生します。
- 時間精度よりも応答性優先: Long-GOP映像に対してGoTo機能を行ったときに正確な時間に対応するフレームより応答性に対する損害を減らすと同時に最大限隣接した時間のフレームを表示します。
- Long-GOP逆再生にキーフレームモード使用: Long-GOP映像に対して逆方向に再生する際、キーフレームのみ再生するように設定します。
- タイムテーブル: 録画モードごとにタイムテーブルに表示する色を指定できます。

5.14 サイト



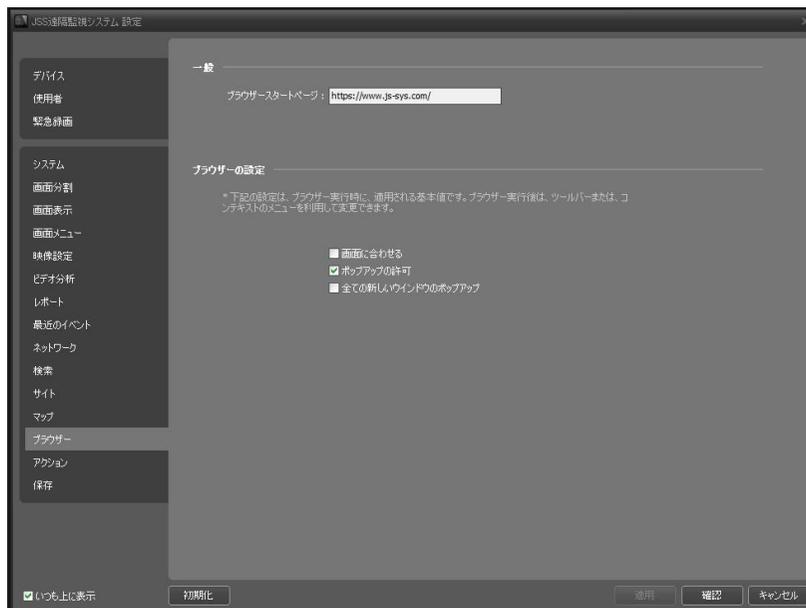
- デバイスクループ開く：映像監視または再生の時、サイトリストにあるデバイスグループを展開して装置のリストを示します。
- 非活性化デバイスを表示：サイトリストで非活性化されたデバイスを表示したり隠します。
- デバイスのリアルタイムモニタリング表示：された装置への表示方式（使用しない、アイコン 、緑色のオーバーレイ ）を設定します。
- 項目：映像監視または再生の時、サイトリストにデバイスから支援する入/出力デバイスを表示したり隠します。

5.15 マップ



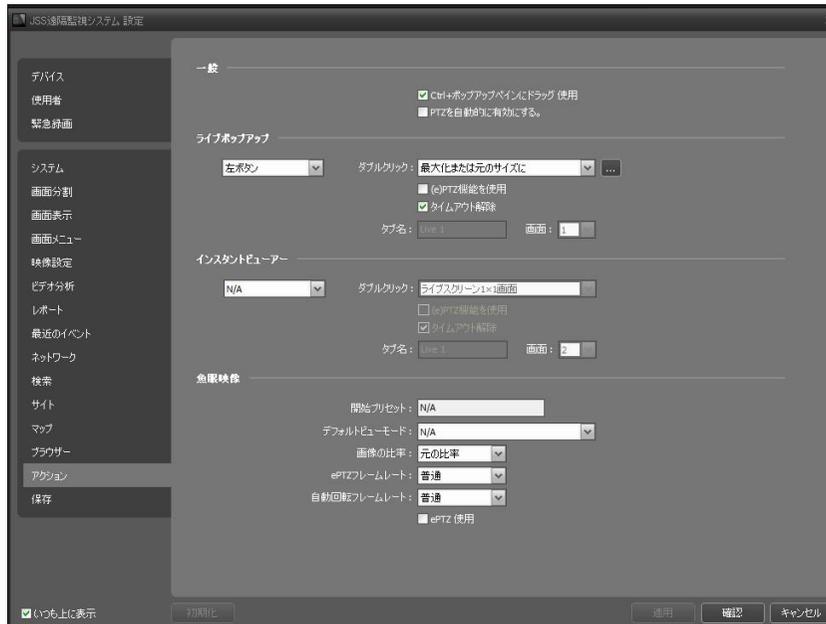
- ライブポップアップパネル使用:** ライブポップアップリストが表示されるパネルを見せます。選択を解除するとパネルを隠すこともできます。
- イベントサウンドマルチ再生使用:** 複数のカメラサイトで同時にイベントが発生すると、イベント音が設定されたカメラそれぞれの録音ファイルが同時に再生されます。選択を解除すると一番最初に発生したイベントの録音ファイルが再生されます。
- 自動フォーカシング使用:** 指定したイベント発生するとマップでそのイベントが発生したデバイス領域を拡大して表示します。
 - フォーカシングイベント: 自動フォーカシングを行イベントを指定します。
 - フォーカシング期間: 自動フォーカシングの持続時間を設定します。
 - フォーカシングの最小維持: 互いに違うデバイスでイベントが連続して感知される場合先に感知されたイベントに対して自動フォーカシングの持続時間を設定します。設定された時間が経ってから後で感知されたイベントに自動フォーカシングが移動します。
- 拡大ファインダー:** PIP画面を表示したり非表示にします。PIP画面の四角は拡大されたエリアを表示します。“自動”に設定するとキャンパスが拡大された場合のみPIP画面を表示します。
- マップイベントスポット:** イベント発生時そのイベントが発生したカメラ映像をマップイベントスポット画面に表示します。
 - イベント監視期間: マップイベントスポット画面に表れる映像の持続時間を設定します。
 - 最小監視期間: 現在イベントが表示されている間に他のイベントが感知される場合、現在のイベントに対するイベント監視期間を設定します。設定された時間が経ってから後で感知されたイベントのカメラの映像を表示します。
- インスタントビューアー:** インスタントビューアーの持続時間を設定します。インスタントビューアーはマップでカメラをクリックすると現れます。

5.16 ブラウザ



- ブラウザスタートページ: ブラウザ画面のウェブブラウザの初期ページを設定します。
- 画面に合わせる: ウェブページのサイズをブラウザの画面のサイズに合わせます。
- ポップアップの許可: ウェブページのポップアップ表示を許可します。
- 全ての新しいウィンドウのポップアップ: ウェブページのポップアップを新しいブラウザで表示します。

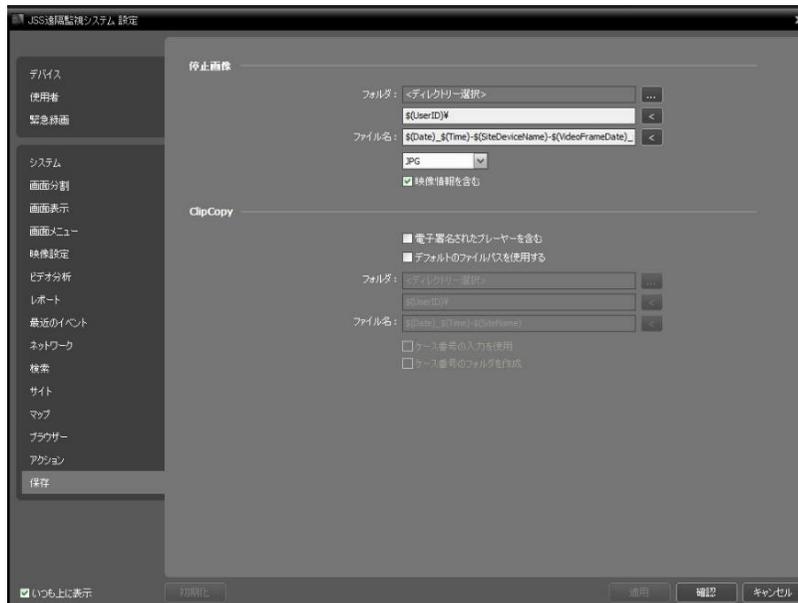
5.17 アクション



- 一般: ライブポップアップの一般動作方法を設定します。
 - Ctrl+ポップアップペインにドラッグ使用: Ctrl ボタンを押してライブポップアップウィンドウをライブタブのペイン上にドラッグすると当該ペインに映像が映し出されます。
 - PTZを自動的に有効にする: 自動的にPTZ制御を使用することができるよう基本設定します。
- ライブポップアップ: マウスボタンのペインをダブルクリックすることで下記の機能を行うことができます。
 - 最大化または元のサイズに
 - ライブスクリーン 1x1画面
 - 監視スクリーン画面
 - アプリモニター上に最大化
 - モニター1に最大化
 - モニター2に最大化
- インスタントビューアー: マウスの中央、右ボタンのうち、指定されたボタンのダブルクリックで下記の機能を行います。
 - ライブスクリーン 1x1画面
 - (e)PTZ 機能を使用: PTZ制御を使用することができるよう基本設定します。
 - タイムアウト解除: 動作実行後、ポップアップの持続時間のタイムアウトを解除します。
- 魚眼映像: 魚眼映像カメラに接続したときの基本動作を定義します。
 - 開始プリセット: 魚眼映像カメラ接続の際に反映するプリセット名を設定します。個別魚眼映像カメラ装置ごとに同一の名前のプリセット名で構成を保存すると、接続時の煩雑な構成変更を容易にします。
 - デフォルトビューモード: 基本ビューモードを設定します。
 - 画像の比率: イメージの比率を設定します。
 - ePTZフレームレート: ePTZフレーム率を設定します。高い (平均 60 Fps以上)、普通 (平均 30 Fps以上)、正常以下(平均15Fps)、低い (平均 10 Fps)、非常に低い (平均 5 Fps) – 低仕様コンピュータの環境が適切です。

- 自動回転フレームレート: 自動回転のフレーム率を設定します。高い (平均 60 Fps以上)、普通 (平均 30 Fps以上)、正常以下(平均15Fps)、低い (平均 10 Fps)、非常に低い (平均 5 Fps) – 低仕様コンピュータの環境が適切です。
- ePTZ 使用: 魚眼映像カメラの接続時にePTZを使用します。

5.18 保存



- フォルダ: 停止映像を保存するフォルダーを設定します。
- ファイル名: 停止映像が保存されるファイル名を設定します。対応形式には、JPG、PNG、TIF、BMP、PDFがあります。
 - 映像情報を含む: 保存された停止映像ファイルに停止映像の情報を含めます。
- ClipCopy(クリップコピー): 動画の保存に関する情報を設定します。
 - 電子署名されたプレーヤーを含む: 電子署名された専用ビューアプログラムを含めて録画映像が保存されます。動画を保存する時に当該オプションが有効化されます。
 - デフォルトのファイルパスを使用: 動画を保存する時に設定された基本パスとファイル名で自動保存されます。
 - フォルダ: 動画を保存する基本フォルダーを設定します。
 - ファイル名: 動画を保存するファイル名を設定します。
 - ケース番号入力の使用: 動画を保存する時にケース番号入力画面が表示され、入力されたケース番号がファイル名の\$(CaseNumber)に入力されます。
 - ケース番号フォルダーの作成: 動画を保存する時にケース番号入力画面が表示され、入力されたケース番号のフォルダーが基本フォルダーのパスに作成されます。当該フォルダーに動画を保存します。

5.19 バックアップ/復元

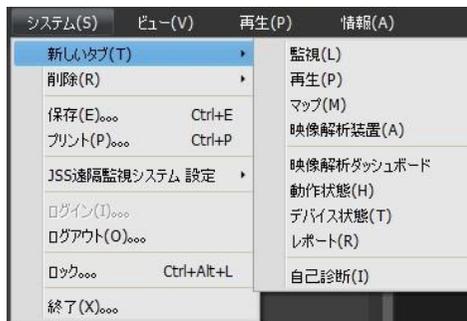
JSS遠隔監視システムプログラムの設定値を“.iexp”ファイルで保存したり、保存された設定値を読み込んで現在のJSS遠隔監視システムプログラムに適用することができます。

第6章 – リアルタイム映像監視

登録されたサイトのリアルタイム映像を監視することができます。JSS遠隔監視システムプログラムはデバイスでの設定に従って映像を受信し、監視画面に表示します。

6.1 映像監視

リアルタイム映像監視は監視パネル(最大4つ)でサポートされます。パネルタブに監視タブがない場合、“システム”メニューで“新しいタブ”を選択した後、“監視”をクリックしてタブを追加します。



パネルタブで監視タブをクリックします。→ “サイト”リストで接続するサイトを選択した後、監視画面にマウスでドラッグ&ドロップします。選択したサイトのリアルタイム映像が画面に表示されます。現在監視しているカメラ画面を選択した後、マウスでドラッグ&ドロップすると、接続を解除せずに該当カメラ画面を監視画面の希望する位置に移動することができます。



- ✓ 低仕様パソコンで同時に複数の高解像映像をライブ監視又は再生するとJSS遠隔監視システムの性能が落ちることがあります。

パネルのツールバー

下段にあるパネルのツールバーを利用して監視パネルを制御することができます。



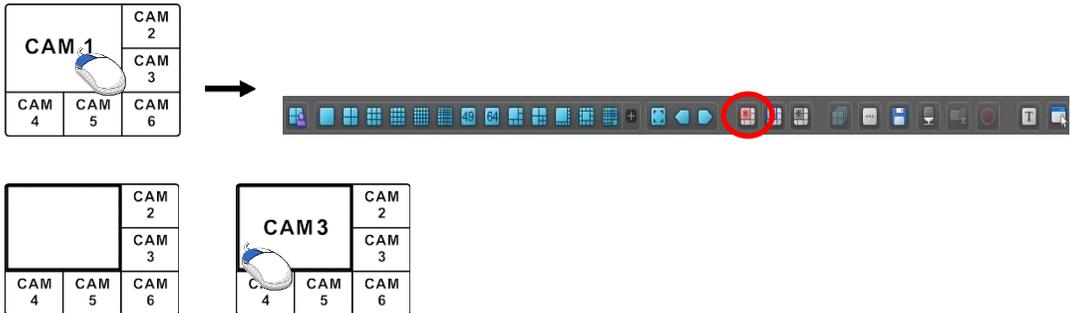
-  (ユーザーのレイアウト登録): 現在の画面の分割を保存します。S

-  (画面分割): 画面分割を変更します。  ボタンをクリックしてより多様な画面分割を選択することができます。  または  ボタンをクリックすると前または次のカメラグループに移動します。
-  (ホットスポット): 選択した画面をホットスポット画面に設定します。詳しい内容は、“ホットスポット設定” (p. 51)部分を参照してください。
-  (イベントスポット): 選択した画面をイベントスポット画面に設定します。詳しい内容は、“イベントスポット設定” (p.52)部分を参照してください。
-  (マップイベントスポット): 選択した画面をマップイベントスポット画面に設定します。詳しい内容は、“マップイベントスポット設定 ” (p. 53)部分を参照してください。
-  (レイアウトの順次監視): レイアウトの順次監視を開始または停止します。詳しい内容は、“レイアウトの順次監視” (p. 55)部分を参照してください。
-  (その他メニュー): メニューが表示されます。
 - 遠隔地点パネル: フローティングされたパネル又は全体画面で地点リストを表示、または非表示することができます。本機能は一部パネルのみ対応します。
 - テキスト-インパネル: テキスト-インパネルを表示します。
-  (動画保存): 映像を保存することができます。
 - 静止画保存: 画面に出力された現在の映像を実際のサイズのイメージファイルで保存します。
 - イメージを保存/イメージ出力: 現在の画面に表示されたイメージを保存または印刷します。
 - パノラマスクリーン保存: 現在の画面に表示されたイメージを保存します。
-  (オーディオブロードキャスト): 現在の監視タブにある全機器にオーディオをブロードキャストします。
-  (NVR双方向オーディオ): NVRのオーディオを受信したりNVR装置へオーディオを伝送したりします。
-  (緊急録画): 現在の監視タブにある全ての映像に対し緊急録画を行います。
-  (テキスト-インパネル): テキスト-インパネルを表示します。テキスト-インパネルは現在JSS遠隔監視システムに接続されているデバイスのテキスト-インデータを表示します。テキスト-インデバイスにカメラが連動されていて、連動されたカメラの映像が現在の監視タブに見える場合、カメラの画面にもテキスト-インのデータを表示します。テキスト-インのデータの表示期間は「ライブテキスト-イン時間範囲」設定で変更できます。“ライブテキスト-イン時間範囲”設定に関する詳しい内容は“5.11 最近のイベント” (p. 41)の部分を参照してください。
-  選択した画面をブラウザ画面に設定します。

ホットスポット設定

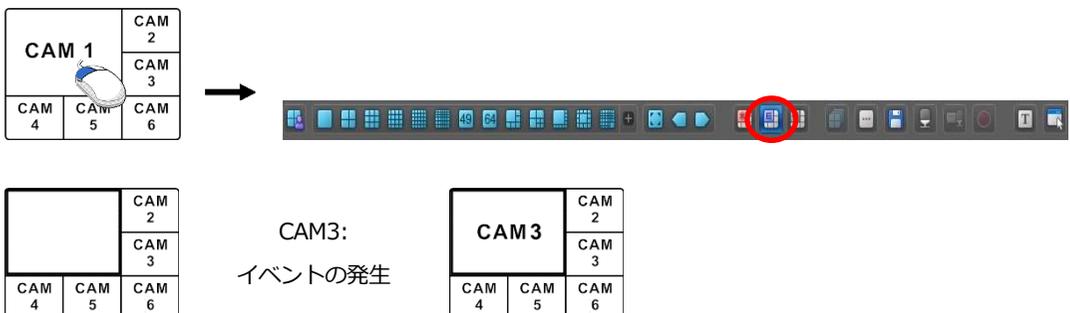
- ✓ JSS遠隔監視システムプログラムで“ホットスポット”とは現在の画面に表示されたカメラの映像の中で任意のカメラの映像を強調して監視するために指定したカメラ画面をいいます。ホットスポット画面には赤色の枠が表示されます。
1. 現在監視している画面でホットスポット画面に設定するカメラ画面を選択します。

- 監視パネルの下端にあるツールバーで  (ホットスポット)ボタンをクリックすると選択したカメラ画面に接続されていた既存の接続を解除します。ホットスポット画面には赤色の枠が表示されます。
- 画面で任意のカメラを選択すると、選択したカメラの映像がホットスポット画面に表示され、該当カメラを制御することができます。



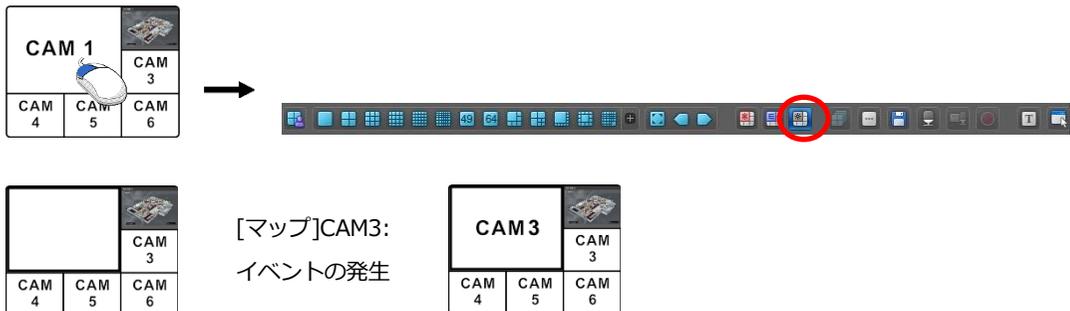
イベントスポット設定

- ✓ JSS遠隔監視システムで“イベントスポット”とは、現在の画面に表示されたカメラ映像のうち、イベントが発生した映像を強調して監視するために指定したカメラ画面をいいます。イベントスポット画面には青色の枠が表示されます。
- 現在監視している画面でイベントスポット画面に設定するカメラ画面を選択します。
 - 監視パネルの下端にあるツールバーで  (イベントスポット)ボタンをクリックすると、選択したカメラ画面に接続されていた既存の接続を解除します。イベントスポット画面には青色の枠が表示されます。
 - 画面でイベントが発生すればイベントが発生したカメラの映像がイベントスポット画面に表示され、該当カメラを制御することができます。



マップイベントスポット設定

- ✓ JSS遠隔監視システムで、マップイベントスポットとは、現在の画面に表示されたマップで、イベントが発生した映像を強調して監視するために指定したカメラ画面をいいます。マップイベントスポット画面には灰色の枠が表示されます。
1. 現在監視している画面でマップイベントスポット画面に設定するカメラ画面を選択します。
 2. 監視パネル下段にあるツールバーで  (マップイベントスポット)ボタンをクリックすると、選択したカメラ画面に接続されていた既存の接続を解除します。マップイベントスポット画面に灰色の枠が表示されます。
 3. 画面でイベントが発生すればイベントが発生したカメラの映像がマップイベントスポット画面に表示され、該当カメラを制御することができます。



レイアウトの監視

多数のカメラの映像をあらかじめ設定されたレイアウトで監視することができます。レイアウトの監視をするためには、レイアウトが登録されていなければなりません。レイアウトの登録に関する詳しい内容は、次の説明を参照してください。

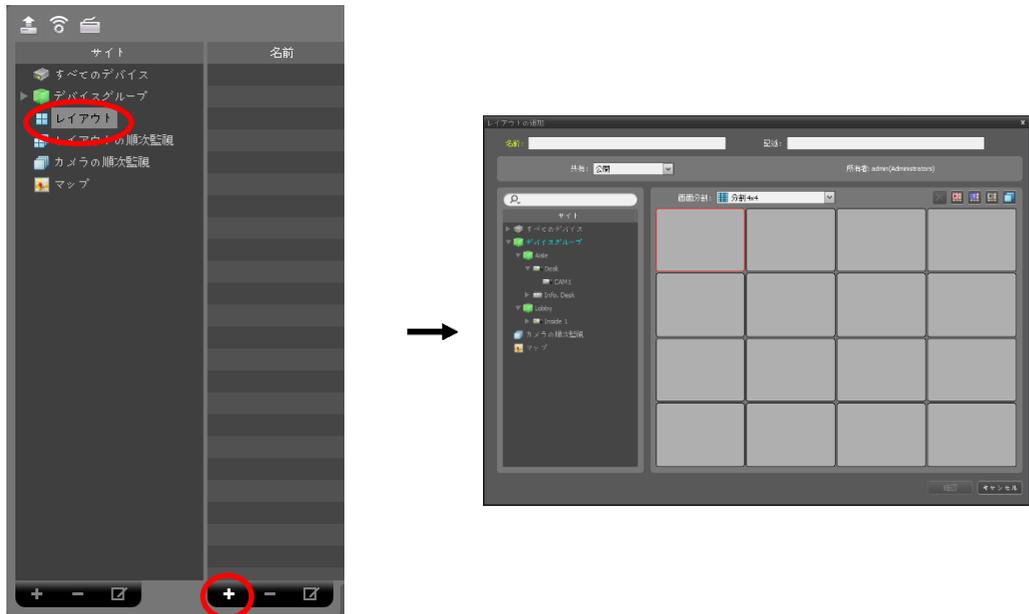
- ✓ 本取扱説明書で、“レイアウト”とは特定の分割画面に希望するカメラを配置して作った画面構成をいいます。

レイアウトリストで希望するレイアウトを選択した後、監視画面にマウスでドラッグ&ドロップします。または、レイアウト装置をダブルクリックすると選択された監視タブに表示されます。該当するレイアウトに追加されたカメラの映像があらかじめ設定された分割画面で表示されます。



レイアウトの登録

1. “システム”メニューで“JSS遠隔監視システム設定”を選択した後、“デバイス”メニューを選択します。
2. “サイト”パネルで“レイアウト”をクリックし、右側のサイトリストのパネルの下段にある **+** ボタンをクリックします。“レイアウトの追加”画面が表示されます。



- 名前: レイアウト名を入力します。
- 共有: 該当レイアウトの共有範囲を選択します。“admin”ユーザーの場合、全てのレイアウトを見ることができます。
 - 公開: そのレイアウトを全てのユーザーに表示します。
 - グループ: 選択したグループに属しているユーザーのみに表示します。グループは“所有者”項目で選択することができます。
 - 個人: “所有者”項目で選択したユーザーのみに表示します。
- 所有者: ユーザーによってレイアウトの異なる設定ができます。 該当レイアウトを見せるユーザー(グループ)を表示したり選択します。
- サイト: 登録されたデバイス、カメラまたはカメラの順次監視及びマップリストを表示します。 🔍 ボタンの横に検索語を入力して登録されたデバイスまたはカメラの順次監視を検索することができます。検索語を入力すると、その結果を表示します。
- 画面分割: 該当するレイアウトの画面分割を選択します。“サイト”リストでレイアウトに割り当てるデバイス、カメラまたはカメラの順次監視を選択した後、レイアウト画面の希望する位置にマウスでドラッグ & ドロップします。

-  (削除): レイアウト画面で特定画面を選択した後ボタンをクリックすると、選択した画面に割り当てられたカメラをレイアウト画面から削除します。
-  (ホットスポット): レイアウト画面で特定画面を選択した後ボタンをクリックすると、選択した画面をホットスポット画面として設定します。
-  (イベントスポット): レイアウト画面で特定画面を選択した後ボタンをクリックすると、選択した画面をイベントスポット画面として設定します。
-  (マップイベントスポット): レイアウト画面で特定画面を選択した後ボタンをクリックすると、選択した画面をマップイベントスポット画面として設定します。
-  (カメラの順次監視): レイアウト画面で特定画面を選択した後ボタンをクリックすると、カメラの順次監視を開始することができ、該当する順次監視を選択した画面に割り当てます。

“確認”ボタンをクリックしてレイアウトの追加を終了します。

レイアウトの順次監視

多数のカメラの映像をあらかじめ設定された2つ以上のレイアウトで順次監視することができます。レイアウトの順次監視を行うためには、レイアウトの順次監視が登録されていなければなりません。順次監視レイアウトの追加に関する詳しい内容は、次の説明を参照してください。

- ✓ 本取扱説明書で、“レイアウト”とは特定の分割画面に希望するカメラを配置して作った画面構成を言います。

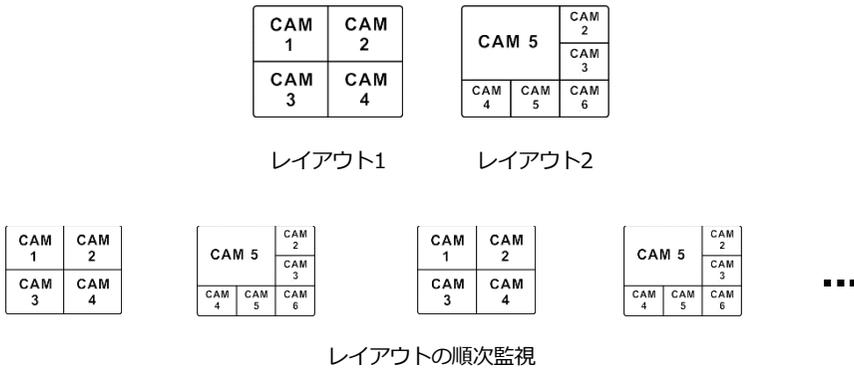
1. レイアウトの順次監視リストで希望するレイアウトの順次監視を選択した後、監視画面にマウスでドラッグ&ドロップします。該当するレイアウトの順次監視に登録したカメラ映像が順次各レイアウトの分割画面に表示されます。



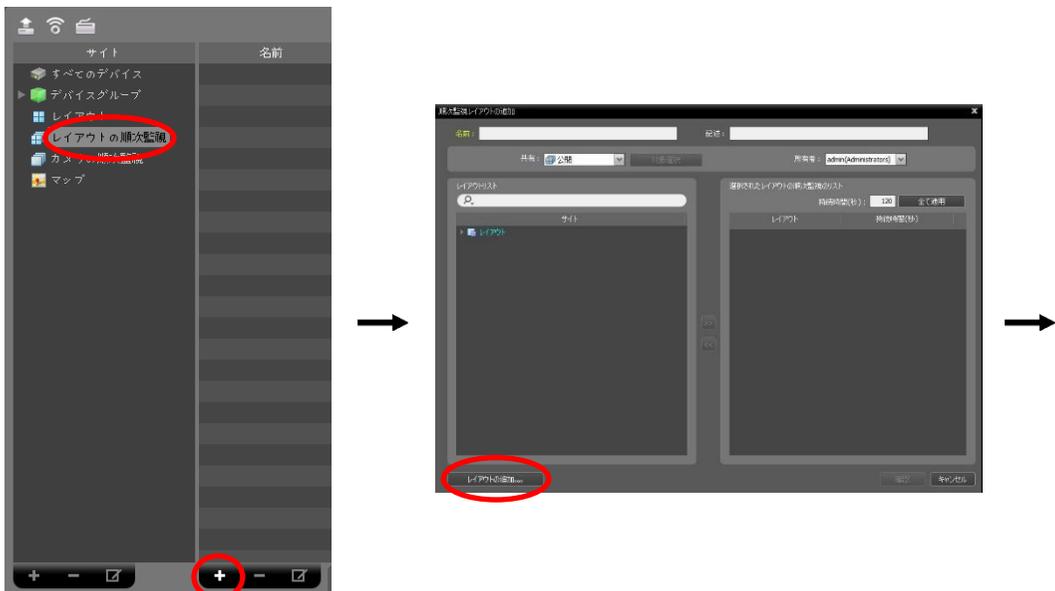
2. パネルの下段にあるツールバーの  (レイアウトの順次監視)ボタンをクリックして、レイアウトの順次監視を停止したり再開できます。

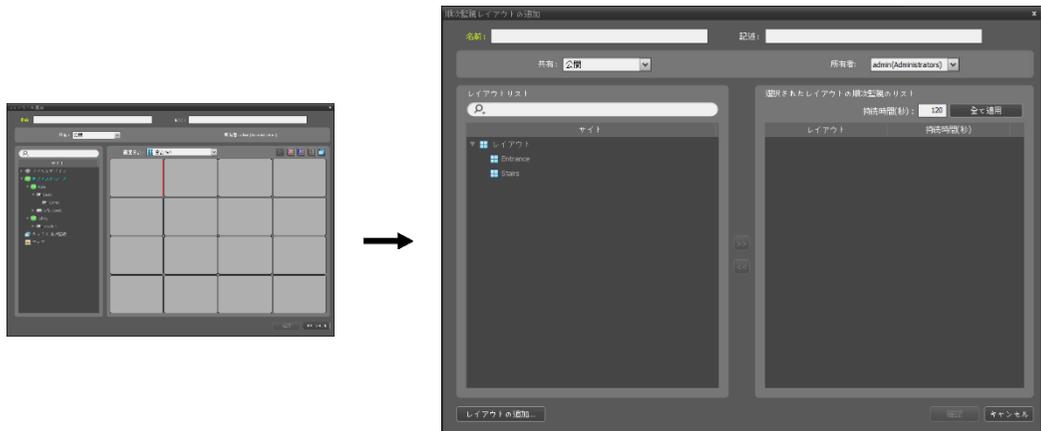


例

順次監視レイアウトの登録

1. “システム”メニューで“JSS遠隔監視システム設定”を選択した後、“デバイス”メニューを選択します。
2. “サイト”パネルで“レイアウトの順次監視”をクリックした後、右側のサイトリストのパネルの下段にある **+** ボタンをクリックします。“順次監視レイアウトの追加”画面が表示されます。
3. 順次監視するレイアウトが登録されていない場合、“レイアウトの追加”ボタンをクリックします。“レイアウトの追加”画面が表示されたら“レイアウトの監視” (p. 53)部分参照して順次監視するレイアウトを登録します。順次監視をするためには2つ以上のレイアウトが登録されていなければなりません。





- 名前: レイアウトの順次監視の名前を入力します。
- 共有: 該当レイアウトの順次監視の共有範囲を選択します。“admin”ユーザーの場合、全てのレイアウトの順次監視を見ることができます。
 - 公開: そのレイアウトを全てのユーザーに表示します。
 - グループ: 選択したグループに属しているユーザーのみに表示します。グループは“所有者”項目で選択することができます。
 - 個人: “所有者”項目で選択したユーザーのみに表示します。
- 所有者: ユーザーによってレイアウトの順次監視の異なる設定ができます。該当レイアウトの順次監視を見せるユーザー(グループ)を表示したり選択します。
- レイアウトリスト: 登録されたレイアウトリストを表示します。🔍 ボタンの横に検索語を入力して登録されたレイアウトを検索することができます。検索語を入力すると、その結果を表示します。
- 選択されたレイアウトの順次監視のリスト: レイアウトの順次監視のために登録されたレイアウトリストを表示します。“持続時間(秒)”は各レイアウトが画面に表示される時間を示します。“持続時間(秒)”下の数字をダブルクリックすると、該当レイアウトの持続時間を変更することができます。“全て適用”ボタンをクリックすると、設定された持続時間をリストにあるすべてのレイアウトに等しく適用します。

“レイアウトリスト”でレイアウトを選択した後、➡ ボタンをクリックすると選択されたレイアウトが“選択されたレイアウトの順次監視リスト”に追加されます。“確認”ボタンをクリックすると順次監視レイアウトの追加を終了します。

カメラの順次監視

多数のカメラの映像を同一のカメラ画面で順次監視することができます。カメラの順次監視のためには、カメラの順次監視が登録されていなければなりません。カメラの順次監視の登録に関する詳しい内容は、次の説明を参照してください。

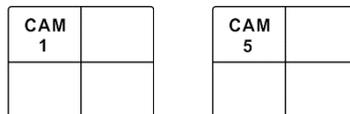
1. カメラの順次監視リストで、希望するカメラの順次監視を選択した後、監視画面にマウスでドラッグ&ドロップします。該当カメラの順次監視に登録したカメラ映像が画面に順次表示されます。



2. カメラ画面の下段にあるコントロールツールバーの  (カメラの順次監視) ボタンをクリックして、カメラの順次監視を中止したり再開することができます。

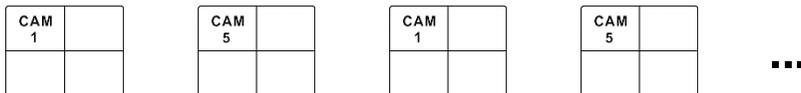


カメラの順次監視の登録



カメラ1

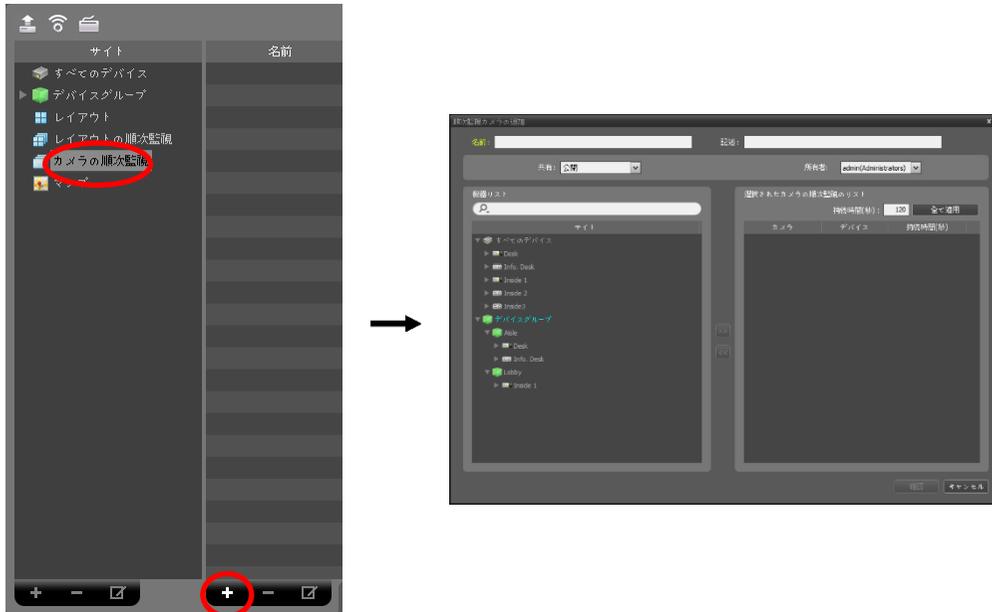
カメラ5



カメラの順次監視

カメラの順次監視の登録

1. “システム”メニューで“JSS遠隔監視システム設定”を選択した後“デバイス”メニューを選択します。
2. “サイト”パネルで“カメラの順次監視”をクリックした後、右側のサイトリストのパネルの下段にある **+** ボタンをクリックします。“順次監視カメラの追加”画面が表示されます。



- 名前: カメラの順次監視の名前を入力します。
 - 共有: 該当カメラの順次監視の共有範囲を選択します。“admin”ユーザーの場合、全てのカメラの順次監視を見ることができます。
 - 公開: そのレイアウトを全てのユーザーに表示します。
 - グループ: 選択したグループに属しているユーザーのみに表示します。グループは“所有者”項目で選択することができます。
 - 個人: “所有者”項目で選択したユーザーのみに表示します。
 - 所有者: ユーザーによってカメラの順次監視の異なる設定ができます。 該当カメラの順次監視を見せるユーザー(グループ)を表示したり選択します。
 - 機器リスト: 登録されたデバイスリストを表示します。 🔍 ボタンの横に検索語を入力して、登録されたデバイスを検索することができます。検索語を入力すると、その結果を表示します。
 - 選択されたカメラの順次監視のリスト: カメラの順次監視のために登録されたカメラリストを表示します。“持続時間(秒)”は各カメラの映像が画面に表示される時間を表示します。“持続時間(秒)”下の数字をダブルクリックすると該当カメラ映像の持続時間を変更することができます。“全て適用”ボタンをクリックすると、設定された持続時間をリストにあるすべてのカメラに等しく適用します。
- “デバイスリスト”でカメラを選択した後、 ➡ ボタンをクリックすると選択されたカメラが“選択されたカメラの順次監視のリスト”に追加されます。“確認”ボタンをクリックすると順次監視カメラの追加を終了します。

6.2 マップ監視

登録されたデバイスのカメラ映像、イベント感知、接続された入/出力デバイスの状態をマップで監視することができます。マップの順次監視のためには、管理サービスにマップが登録されていなければなりません。マップの登録に関する詳しい内容は、「第12章 – マップエディター」(p. 107)部分を参照してください。

マップ監視は監視パネル(最大4つ)及びマップパネルでサポートされます。パネルタブに監視またはマップタブがない場合、「システム」メニューで「新しいタブ」を選択した後、「監視」または「マップ」をクリックしてタブを追加します。

マップリストで、希望するマップを選択した後、監視画面にマウスでドラッグ&ドロップします。該当マップが画面に表示されます。現在監視しているマップを選択した後、マウスでドラッグ&ドロップすると、接続を解除せずに該当マップを監視画面の希望する位置に移動することができます。マップで入/出力デバイスを選択し、監視画面、再生パネルまたはデバイス状態パネルにマウスのドラッグ&ドロップするとそのデバイスの映像を監視または再生したりデバイス状態を監視したりすることができます。



マウスカーソルをマップの入/出力のデバイス上に位置させるとその入/出力デバイスのイベント感知および状態を表示します。その入/出力デバイスでイベントが感知されたりデバイスが正しく動作しなかったりすると次のようなアイコンが出て、順番に最高4つまで表示されます(デバイスの仕様及びバージョンによって一部イベント

のアイコンがサポートされないことがあります)。



イベント感知の場合その入/出力デバイスが接続されたデバイスでのイベント感知設定によって表示されます。また“異常作動”の場合その入/出力が接続されたデバイスで設定したシステム検査設定によって表示されます。マップ登録時、状態のカラーを設定した場合、イベント感知および状態が固有の色で表示されます。同時に2つ以上のイベントまたは状態が感知された場合、各イベントまたは状態のカラーが順次に表示されます。

経路順次監視

マップを監視する時、マップに登録された多数のカメラの映像を同一のカメラ画面で順次監視することができます。経路順次監視のためには、順次監視経路が設定されてある必要があります。順次監視経路設定に関する詳しい内容は、“12.2 マップ設定、経路順次監視” (p. 110)部分を参照してください。

マップで、順次監視経路を選択した後、監視画面にマウスでドラッグ&ドロップします。経路順次監視に連動されたカメラの映像が設定された持続時間画面に順次表示されます。



6.3 ブラウザ実行

監視タブで、インターネットブラウザを使用します。監視メニューから“ブラウザの設定”または下のコントロールのツールバーの“ブラウザ”ボタン（）を選択して、インターネットブラウザを起動します。



-  (前のページ): 前のページに移動します。
-  (次のページ): 次のページに移動します。
-  (URL入力): アドレス入力ウィンドウを表示します。
-  (URL移動): 入力したアドレスに移動します。
-  (スタートページ): 設定した開始ページに移動します。
-  (リロード): 現在のページを再読み込みします。
-  (画面に合わせる): ウェブページのサイズをブラウザの画面のサイズに合わせます。
-  (メニュー): メニューのポップアップを表示します。

6.4 カメラの制御

制御ツールバー及び画面のメニューを利用してカメラを制御することができます。

制御ツールバー



カメラ画面を選択した後、マウスのカーソルを該当するカメラ画面に動かすと、制御ツールバーが表示されます。制御ツールバーを用いて選択したカメラを制御することができます。マウスのカーソルを各ボタンの上に動かすと該当するボタンのツールチップが表示されます。



-  (PTZ制御): カメラがPTZ制御機能をサポートしている場合、PTZを制御します。詳しい内容は、“PTZ制御” (p.65)部分を参照してください。
 -  (リモートコントロール): HDMIエンコード映像を、キーボードやマウスを使用して、直接リモート制御します。詳しい内容は、“リモートコントロール” (p. 67)部分を参照してください。
 -  (魚眼映像の歪み補正): 魚眼カメラの映像の歪みを補正します。詳しい内容は、“魚眼映像の歪み補正” (p. 68)部分を参照してください。
 -  (カメラ簡単設定): 映像モードを簡単に設定します。詳しい内容は、“カメラ簡単設定” (p. 69)部分を参照してください。
 -  (色調整): 現在の映像の明るさ、コントラスト、色の濃さ、色あいを調整します。 ボタンをクリックすると変更内容を全てキャンセルして元のイメージに戻ります。本設定はJSS遠隔監視システムの映像だけでなく、デバイスの映像にも適用されます。
 -  (イメージ効果): イメージに効果の処理ができます。詳しい内容は、“イメージ効果” (p.70)部分を参照してください。
 -  (映像拡大): 映像を拡大します。詳しい内容は、“映像拡大” (p. 83)部分を参照してください。
 -  (カメラの順次監視): カメラの順次監視を開始または停止します。詳しい内容は、“カメラの順次監視” (p. 57)部分を参照してください。
 -  (リスニング/トーク): デバイスのオーディオを受信するかデバイスにオーディオを送信します(両方向オーディオ対応モデルに限る)。
 -  (テキストインビューア): テキストインビューア画面を表示します(テキストインイベントが感知された場合のみ)。テキストインイベント感知の際、該当するカメラのタイトルバーを青色で表示します。詳しい内容は、“テキストインビューア” (p. 73)部分を参照してください。
 -  (簡単再生) : 録画情報のある区間に対して簡単再生機能を使用することができます。詳しい内容は、“簡単再生” (p. 70)部分を参照してください。
 -  (緊急録画): 緊急録画を開始または停止します。緊急録画中にはカメラ画面の右側上段に緊急録画アイコンを表示します。
- ✓ “緊急録画”とは、現在監視中の映像を手動で録画できるようにする機能です。

監視画面のメニュー

カメラ画面を選択した後、マウスの右ボタンをクリックすると、画面のメニューが表示されます。画面のメニューを用いて選択したカメラを制御することができます。

| | |
|------------------|-----|
| 魚眼映像歪み補正 | ▶ |
| 簡単再生 | ▶ |
| 再生履歴 | ▶ |
| 30秒前再生 | I |
| その他 | ▶ |
| 録画データの再生 | |
| PTZ制御 | |
| カメラ簡単設定 | |
| 色調整 | |
| 映像拡大 | ▶ |
| 画像処理 | ▶ |
| アラーム・アウト | ▶ |
| テキストインビューア | |
| リスニング | |
| トーク | |
| NVRリスニング | |
| NVRトーク | |
| オーディオブロードキャスト... | |
| 緊急録画 | |
| マルチストリーム | ▶ |
| ホットスポット | |
| イベントスポット | |
| マップイベントスポット | |
| 映像分析表示 | |
| モーション感知エリア出力 | |
| 顔検出表示 | |
| 画面レイト | ▶ |
| 停止画像 | ▶ |
| ブラウザ | |
| ストリーム情報 | Tab |
| 排除 | ▶ |

- 魚眼歪み補正: 魚眼カメラの映像の歪みを補正します。詳しい内容は、“魚眼映像の歪み補正” (p. 68)部分を参照してください。
- 簡単再生: 録画情報のある区間に対して簡単再生機能を使用することができます。詳しい内容は、“簡単再生” (p.70)部分を参照してください。
- 再生履歴: 簡易再生の履歴をカメラ装置当たり8個まで保存し、その履歴を再生します。
- 録画データの再生: 選択した画面にあるカメラの録画映像を再生タブで表示します。
- PTZ制御、カメラ簡単設定、色調整、映像拡大、リスニング、トーク、緊急録画: 制御ツールバーの該当ボタンをクリックするのと同じように動作します。詳しい内容は、“制御ツールバー” (p. 62)部分を参照してください。
- カメラ順次監視: カメラの順次監視項目の移動と開始、停止、一時停止、終了を使用することができます。(順次カメラの場合にのみ適用)
- 画像処理: イメージに効果の処理ができます。詳しい内容は、“イメージ効果” (p. 70)部分を参照してください。
- アラーム・アウト: アラーム出力を作動と解除します。
- テキストインビューア: テキストインビューア画面を表示します(テキストインイベントが感知された場合にのみ)。テキストインイベント感知の際、該当するカメラのタイトルバーを青色で表示します。詳しい内容は、“テキストインビューア” (p. 73)部分を参照してください。
- リスニング/トーク: デバイスのオーディオを受信するかデバイスにオーディオを送信します。
- NVR聞く/話す: NVR装置のオーディオを受信したり、NVR装置へオーディオを伝送したりします。
- オーディオブロードキャスト: 現在の監視タブにある全デバイスにオーディオをブロードキャストします。
- マルチストリーム: 該当するデバイスでリアルタイム監視映像に対してマルチストリームモードが設定されている場合、希望するストリームを選択することができます。
- ホットスポット: 選択したカメラ画面をホットスポット画面に設定します。詳しい内容は、“6.1 映像監視、ホットスポット設定” (p. 51)部分を参照してください。
- イベントスポット: 選択したカメラ画面をイベントスポット画面に設定します。詳しい内容は、“6.1 映像監視、イベントスポット設定” (p. 52)部分を参照してください。
- マップイベントスポット: 選択したカメラ画面をマップイベントスポット画面に設定します。詳しい内容は、“6.1 映像監視、マップイベントスポット設定” (p. 53)部分を参照してください。

- モーション感知エリア出力: 選択したカメラでモーション感知イベントが発生する場合、モーションが感知されるエリアを画面上に赤色のブロックで表示します(ネットワークビデオエンコーダーの場合にのみ対応)。
- 顔検出表示: 選択したカメラから顔感知イベントが発生した際、顔が感知される領域を画面上に表示します。
- 画面レート: 映像の出力レートを設定します。
 - 画面に合わせる: 画面比率と関係なくカメラ画面のエリアにあわせて映像を出力します。
 - 画面に合わせる(比率維持): 画面比率を維持したままでカメラ画面のエリアにあわせて映像を出力します。但し、カメラ画面のサイズによって映像の上下左右が切れることがあります。映像拡大やホットスポット、イベントスポット、モーションブロック表示、機能の動作時、該当カメラ画面については本画面レートに対応せず、代わりに“映像比率に合わせる”が適用されます。
 - 映像レートにあわせる: 映像のオリジナルレートにカメラ画面のエリアをあわせて映像を出力します。
 - 1/2倍サイズ (×0.5) ~ 4倍サイズ (×4): 映像のオリジナルサイズを基準にして該当メニューで指定したサイズにカメラ画面に映像を出力します。例えば、“実際のサイズ(×1)”を選ぶと、オリジナル映像の実際のサイズで出力します。カメラ画面が該当サイズで映像を出力できるほどエリアが確保された場合にのみメニューが活性化されます。
- 静止画保存: 画面に出力された現在の映像を実際のサイズのイメージファイルで保存します。
- 削除: 現在の接続を解除します。

PTZ制御

制御ツールバーで  (PTZ制御) ボタンをクリックすると、PTZ制御ツールバーが表示され、各ボタンを用いてPTZを制御することができます。PTZカメラのモデルによっては一部の機能は動作しないことがあります。



-  (PTZ制御):  (PTZ制御パネル)を表示したり非表示にします。PTZ制御パネルの矢印ボタンをクリックするか、カメラ画面上でマウスをドラッグしてPTZカメラの方向を調整します。
-  (ワンクリック移動): 映像においてユーザーが指定した位置が中央に来るようPan-Tiltを制御することができます。(ネットワークカメラの一部モデル接続時に限る)
-   (映像拡大/縮小): 現在の映像を拡大または縮小します。
-   (焦点を遠/近): 遠くまたは近くにある映像にカメラの焦点をあわせませます。
-   (しぼりを開く/閉じる): カメラレンズのしぼりを開いたり閉じます。
-   (プリセット設定/表示): 該当機能に対する内容は“PTZプリセット制御” (p. 66)部分を参照してください。

さい。

-  (自動焦点): 映像が拡大または縮小されカメラの焦点がぼけた場合、ボタンをクリックすると焦点を自動的に調整します(ネットワークカメラの一部モデル接続時に限る)。
-  (詳細メニュー): 詳細メニュー画面が表示され、該当カメラがサポートする拡張機能を制御することができます。各拡張機能に関する詳しい内容は、該当PTZカメラの取扱説明書を参照してください。
-  (閉じる): PTZモードを終了して制御ツールバーに移動します。

PTZプリセット制御

カメラの位置を“プリセット”で保存し、カメラを保存された位置にすぐ移動することができます。

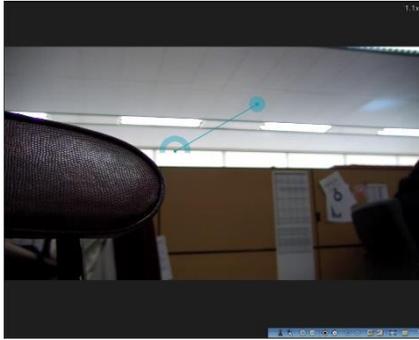
1. カメラ画面でPTZカメラの方向を希望する位置に移動させます。
2. PTZ制御ツールバーで  (プリセット設定)ボタンをクリックすると、“プリセット設定”画面が表示されます。プリセットタイトルを入力した後“確認”ボタンをクリックすると現在位置が、入力されたプリセットタイトルで保存されます。
3. PTZ制御ツールバーで  (プリセット表示)ボタンをクリックすると“プリセット表示”画面が表示されます。希望するプリセットを選択すると、PTZカメラの方向が該当プリセットの位置に移動します。



PTZ 速度基盤制御

特定の方向に制限されずより精密に Pan、Tilt、Zoom 動作を制御することができます。

- ✓ 本機能は一部のカメラでのみ対応しています。



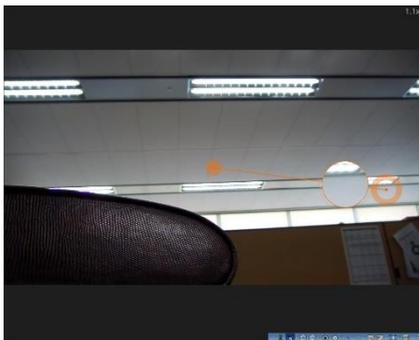
Pan、Tilt、Zoom 動作を実行します。マウスをドラッグする際、マウスカーソルのドラッグ量が動作速度を決定します。

- マウス左ボタンでドラッグ: 左/右 (Pan 制御)、上/下 (Tilt 制御)
- マウス右ボタンでドラッグ: Zoom 制御

PTZ ワンクリック移動制御

映像においてユーザーが指定した位置が中央に来るよう Pan-Tilt を制御することができます。最小限の入力でユーザーが望む位置に正確に移動することができます。

- ✓ 本機能は一部のカメラでのみ対応しています。



制御ツールバーから  (ワンクリック移動) ボタンをクリックし、PTZ 監視カメラペインの任意のポイントををクリックすると希望する位置に移動することができます。マウスドラッグすると、当該ポイントの映像が拡大表示されます。

リモートコントロール

上端OSDの監視映像のコントロールツールバーで  (リモートコントロール) ボタンをクリックするとリモート制御が有効にされ、制御関連のボタンが表示されます。映像右上のOSDを利用し状態を確認できます。



- / (入力デバイスの状態): 活性化した入力デバイスを表示します。
- (リモートコントロール止める): リモートコントロールを非活性化にする。
- (マウスカーソルの位置を初期化): マウスを左上に配置します。

魚眼映像の歪み補正

コントロールツールバーから (魚眼映像の歪み補正) ボタンをクリックすると魚眼映像の歪み補正コントロールツールバーが表示され、各ボタンを利用して歪み補正機能を制御することができます。魚眼映像カメラのマウントの種類は、装置に設定されたマウントの種類が基本値として設定されます。



- (マウントの種類): カメラの設置位置を設定します。この設定により設定可能な画面形態が変わります。
- (イメージ比率): 映像出力画面の比率を設定します。
- (レイアウト): メインビュー、メイン + 1~7 ペインビューモードを設定します。
- (パノラマ): 映像のパノラマビューモードを設定します。
- (選択モード): メインビュー映像からドラッグ&ドロップして領域を指定します。
- (スポットモード): メインビュー映像に表示された歪み補正ファインダーを使って関心領域を移動、選択します。

-  (ドラッグアンドドロップ): メインビューとカメラペインを移動またはコピーすることができます。
-  (メイン PiP): メインビュー映像内部の領域指定を容易にする PIPビューを実行します。
-  (ePTZ): Pan、Tilt、Zoom 動作を実行します。マウスをドラッグする際、マウスカーソルのドラッグ量が動作速度を決定します。
 - マウス左ボタンでドラッグ: 左/右 (Pan 制御)、上/下 (Tilt 制御)
 - マウス右ボタンでドラッグ: Zoom 制御
-  (自動回転): 自動で回転するように設定します。+、-は方向を決定し、数字は速度を決定します。
-  (プリセット適用/保存): 保存された魚眼映像制御プリセットを読み込み、現在の魚眼映像制御をプリセットとして保存します。
-  (復元): 変更事項を全てキャンセルして、元のイメージに復元します。

カメラ簡単設定

映像モードを昼間、夜間でプリセット設定またはユーザー設定をすることができます。



- プリセットは、自然さ、鮮やか、ノイズリダクションがあります。
- ユーザー定義は、手でそれぞれの値を設定することができます。設定値は、シャープネス、コントラスト、カラー、明るさがあります。
- この機能を有効にすると、左の設定ウィンドウがオーバーレイされ、1x1レイアウトに設定されます。

映像拡大

制御ツールバーで  (映像拡大) ボタンをクリックすると、現在の映像を拡大することができます。

- ✓ “PIP”とは“Picture in Picture”の略語で、画面内に表示される小さい画面を言います。



-  (スライダー): 拡大倍率を調整します。マウスホイールを用いて拡大倍率を調整することもできます。
-  (実際のサイズを表示): 実際サイズ拡大モードに入ります。実際サイズ拡大モードでは、カメラ画面のサイズまたは映像の拡大レートとは関係なく映像の実際のサイズを基準にして映像が拡大されます。
-  (拡大ファインダー): PIP画面を表示したり非表示にします。PIP画面の四

角は拡大されたエリアを表示します。

イメージ効果

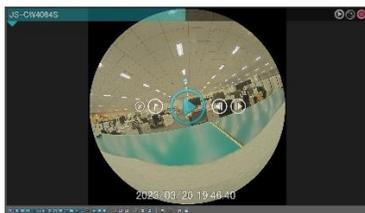
制御ツールバーで  (イメージ効果) ボタンをクリックすると、イメージ効果の制御ツールバーが表示され、各ボタンを用いてイメージに効果を与えることができます。本設定はJSS遠隔監視システムの映像にのみ適用され、デバイスの映像には適用されません。



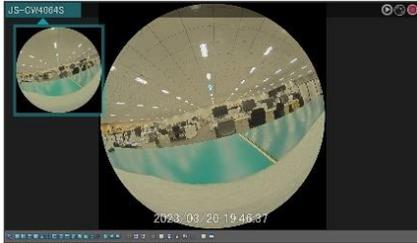
-  (柔軟): 映像をソフトにします。
-  (鮮明): 映像を鮮明にします。
-  (高域増強): 明度及び鮮明度を増加させて映像をはっきりさせます。
-  (ヒストグラムの平準化): 明度を均等に調整して映像を自然にします。
-  (境界線の検出): 映像の輪郭を抽出します。
-  (原本): 変更事項を全てキャンセルして、元のイメージに復元します

簡単再生

録画情報のある区間に対して簡単再生機能を使用することができます。コントロールツールバー  (簡単再生) のボタンをクリックした後、ポップアップメニューの再生時間を選択します。



- 画面上にマウスを位置させると、終了、ブックマーク、再生、前後移動ボタンを使用することができます。
- キーボードの左右ボタンおよびPageUp、PageDownを使用して再生位置を移動することができます。
- 映像のコンテキストメニューから、逆再生、低速再生を使用することができます。



- 再生の進行状況はカメラのタイトルバーに表示されます。
- カメラタイトルバーの下部に表示される逆三角形のイメージをクリックすると、サムネイルイメージが表示されます。サムネイルイメージが活性化されている場合、カメラのタイトルバーの上にマウスを移動させると、当該地点のイメージが表示されます。
- カメラのタイトルバーの特定の位置をクリックすると、当該地点に移動します。

映像分析

監視映像を選択した後、マウスの右ボタンをクリックすると画面メニューが表示されます。画面メニューから映像分析表示にマウスを当てると現在の映像分析の種類に合わせてメニューが活性化されます。

ピープルカウント



映像分析表示でピープルカウントを選択すると、ピープルカウンティングのリアルタイム In/Outと占有人数情報が選択した映像の上に出力されます。

ピープルカウント調整ウィンドウで入る/出るを選択してボタンをクリックすると、入る/出るデータが増加します。

占有人数が設定された限界値を超えると、限界人数超過イベントを確認することができます。

行列検出



映像分析表示で行列検出を選択すると、領域別行列情報(人数、待機時間)が選択した映像の上に出力されます。

行列検出の場合、待機人数超過および待機時間超過イベントを確認することができます。

ヒートマップ



映像分析表示でヒートマップのライブの表示を選択すると、ヒートマップイメージが選択した映像の上に出力されます。ヒートマップのライブの複数のオプションを選択してヒートマップイメージを使用者に合わせて変更することができます。(イメージスペクトルの色、透明度、イメージ保管の有無)

行列検出/ソーシャルディスタンス/マスク検出



映像分析表示から行列検出/ソーシャルディスタンス/マスク検出を選択すると、設定された映像分析領域が表示されます。

行列検出の場合、最大5つの領域が表示されます。

設定された限界値を超えると、イベントが発生し違反オブジェクトの領域が強調されます。

ピクセルカウンター

映像から選択した領域に該当するピクセル情報を表示します。サイズが一定のオブジェクトを利用して距離によるオブジェクトサイズのピクセル数を計算できます。特定のタイプのオブジェクトの領域を指定して該当するピクセルの密度、つまり単位長さあたりのピクセル数を測定してオブジェクトの認識に対する定量的な情報を提供します。ビューメニューで“ピクセルカウンター”を選択すると実行されます。



✓ ピクセルカウンターを設定すると、下のような通知ポップアップを表示します。ピクセルカウンターの使用方法と素早い制御ショートカットキーを提供します。

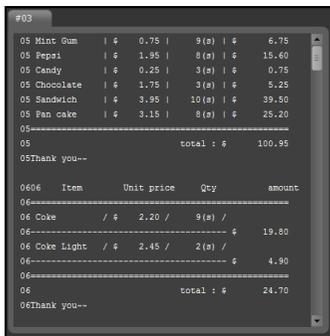
✓ ピクセルカウンターで提供する情報は以下のとおりです。



- 幅、高さ、ピクセル数
- 領域内の全ピクセル数
- 領域左上のピクセル座標
- ペインに対する領域幅、高さ比率(UV座標)
- ペインに対する領域幅比率
- 領域左上のUV座標
- ✓ UV座標は最小座標を0、最大座標を1と表現する座標です。左上を(0.0)、右下を(1.1)と示します。

テキストインビューア

制御ツールバーで **T** (テキストインビューア) ボタンをクリックすると、テキストインビューア画面が表示され、テキストインデータをリアルタイムで確認できます(テキストインイベントが感知された場合のみ)。テキストインイベント感知の際、該当するカメラのタイトルバーを青色で表示します。



テキストインビューア画面のタイトルバーをクリックすると、テキストインのポップアップメニューが表示されます。

- タブを集める: それぞれのテキストインビューア画面を一つのパネルに集めます。
- 名前を付けて保存: テキストインデータをテキストファイル(.txt)で保存します。
- 時間範囲: テキストインイベント感知時、該当テキストインデータの表示期間を設定します。テキストインデータはテキストインイベント発生後、設定した時間範囲内でテキストインビューア画面を通じて確認します。

6.5 マップの制御

制御ツールバー及び画面のメニューを利用してマップを制御することができます。

マップ制御ツールバー

マップを選択した後、マウスのカーソルを該当するマップに動かすと、制御ツールバーが表示されます。制御ツールバーを用いて選択したマップを制御することができます。マウスのカーソルを各ボタンの上に動かすと該当するボタンのツールチップが表示されます。



-  (以前のマップ、次のマップ): 現在マップにリンクされているマップに移動したかマップリストでマップを選択して現在のマップ画面にドラッグ&ドロップして他マップへの接続時、以前又は次に接続されたマップに移動します。
-  (自動フォーカシング): 指定イベント発生時、マップでそのイベントが発生したデバイス領域を拡大表示します。異なるデバイスでイベントが同時に発生する場合、そのデバイスがすべて見える範囲内でキャンバスを拡大します。異なるデバイスでイベントが連続して感知される場合、設定された時間が経ってから後で感知されたイベントに自動フォーカシングが移動します。自動フォーカシングの設定に関する内容は“5.15マップ” (p. 45)部分を参照してください。
-  (フォーカシングイベント: 自動フォーカシングを行なうイベントを指定します。
-  (実際のサイズ): キャンバスの実際の大きさをマップを見せます。
-  (拡大ファインダー): PIP画面を表示したり非表示にします。PIP画面の四角は拡大されたエリアを表示します。“自動”に設定するとキャンバスが拡大された場合のみPIP画面を表示します。
-  (拡大スライダー): キャンバスの拡大倍率をを設定します。

例

- 拡大ファインダー: “オフ”に設定された場合



- 拡大ファインダー: “自動”または“オン”に設定された場合



マップ画面のメニュー

マップ画面を選択した後、マウスの右ボタンをクリックすると、画面のメニューが表示されます。画面のメニューを用いて選択したマップを制御することができます。



- 以前へ、次へ、自動フォーカシング、1倍サイズ (x1)、拡大ファインダー、ズームイン: 制御ツールバーの該当ボタンをクリックすると同じように動作します。詳しい内容は、“マップ制御ツールバー” (p. 74)部分を参照してください。
- リスト: 以前または以後に接続されたマップのリストを表示します。リストでマップを選択するとそのマップに移動します。
- リロード: 現在のマップの接続を更新します。
- フォーカシングイベント、フォーカシング期間: 自動フォーカシングのフォーカシングイベントおよびフォーカシング期間を設定します。“5.15 マップ” (p. 45)部分を参照してください。
- 停止画像: 画面に出力された現在の映像を実際のサイズのイメージファイルで保存します。
- 排除: 現在の接続を解除します。

ライブポップアップ

マップ監視時イベントが感知されたカメラのリアルタイム映像が監視できます。イベント感知時に“マップエディター”での設定(イベント動作中の“ライブポップアップ”)によってポップアップ画面が表示されます。ライブポップアップリストにはJSS遠隔監視システムで表示されたライブポップ画面のリストが表示されます。

ポップアップ画面



画面を選択した後、マウスのカーソルを該当画面にあてるとコントロールツールバーが表示されます。コントロールツールバーを利用して該当カメラをコントロールすることができます。マウスのカーソルを各ボタンの上にあてると該当ボタンのツールチップが表示されます。コントロールツールバーボタンに関する詳しい内容は、“6.4 カメラの制御、制御ツールバー” (p. 62)部分を参照してください。

ポップアップ画面でマウスを右クリックすると、ポップアップ画面のメニューが表示されます。メニューを利用してポップアップ画面設定を変更することや該当カメラをコントロールすることができます。カメラコントロールメニューの場合、監視画面メニューの機能と同一です。詳しい内容は、“6.4 カメラの制御カメラの制御、監視画面のメニュー” (p. 63)部分を参照してください。

ライブポップアップリスト



右上にある矢印ボタンをクリックすると、ライブポップアップメニューが表示されます。メニューを利用してポップアップ画面の設定を変更することができます。

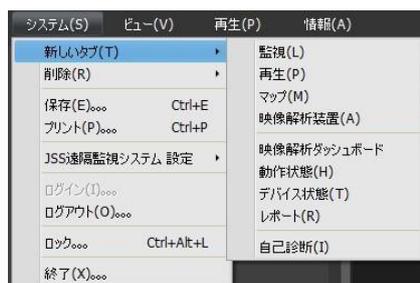
- レイアウト: ポップアップ画面の画面分割を選択します。
- モニター: デュアルモニターを使用する場合、ポップアップ画面を出力するモニターを選択します。
- ライブポップアップ無視: 時間を選択すれば、“マップエディター”での設定(イベント動作中の“ライブポップアップ”の持続時間)と関係なく、選択した時間中にはライブポップアップが動作しません。
- タイムアウト解除: 設定されたポップアップ画面の持続時間に関係なく、ポップアップ画面を手動で閉じるときに選択します。
- すべて削除: すべてのリストを削除します

第7章 – 録画映像再生及び動画で保存

録画映像を検索して再生したりUSB保存デバイスに動画ファイルで保存することができます。

7.1 録画映像再生

1. デバイス及びJSS遠隔監視システムに録画された映像再生及び動画で保存は再生パネル(最大4つ)でサポートします。パネルタブに再生タブがない場合、“システム”メニューで“新しいタブ”を選択した後、“再生”をクリックしてタブを追加します。



2. パネルタブで再生タブをクリックします。→ “サイト”リストで接続するサイトを選択した後、再生画面にマウスでドラッグ&ドロップします。各カメラの録画映像が画面に表示されます。現在再生しているカメラ画面を選択した後、マウスでドラッグ&ドロップすると、再生を停止せず該当カメラ画面を再生画面の希望する位置に移動することができます。



レイアウトが登録されている場合、レイアウトリストで希望するレイアウトを選択した後、再生画面にドラッグ&ドロップして該当するレイアウトに映像を再生することができます。レイアウトの登録に関する詳しい内容は、“6.1 映像監視、レイアウトの監視、レイアウトの登録” (p. 54)部分を参照してください。

- ✓ 低仕様パソコンで同時に複数の高解像映像をライブ監視又は再生するとJSS遠隔監視システムの性能が落ちることがあります。
 - ✓ 本取扱説明書で“レイアウト”とは特定の分割画面に希望するカメラを配置して作った画面構成を言います。
3. パネルのツールバー、タイムテーブル、制御ツールバー及び画面のメニューを使い録画映像を再生します。

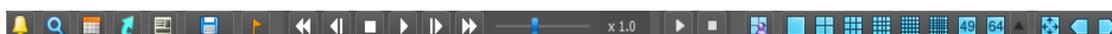
パネルのツールバー

パネルの下段にあるツールバーを用いて録画映像を検索して該当する映像を再生することができます。

- ✓ 連結されたデバイスのモデル及びバージョンによってツールバーが異なることがあり、一部の機能がサポートされない場合があります。



または



-  /  (イベント検索/タイムラプス検索): イベント検索とタイムラプス検索の検索モードを変更します。詳しい内容は、“タイムテーブル/イベントリスト” (p. 79)部分を参照してください。
-  (検索条件): イベント検索のための検索条件を設定します。検索条件に関する詳しい内容は、DVRの使用マニュアルを参照してください。
-  (カレンダー): 特定日の映像を検索します。日付を選択すると、タイムテーブルに該当日の録画データが表示されます。カレンダーに録画映像がある日は活性化されて表示されます。
-  (移動): 特定時点の映像を検索します。
 - 移動: 時間設定画面が表示されると、録画映像の時間を入力し、該当する時間の映像に移動します。“隣接のフレーム検索”を選択すると、該当の時間に映像がない場合、一番近い時間の映像に移動します。
 - 最初に移動: タイムテーブルに表示された録画データの中で最初に録画された映像に移動します。
 - 最後に移動: タイムテーブルに表示された録画データの中で最後に録画された映像に移動します。
-  (その他メニュー): メニューが表示されます。
 - データソース: 検索する録画画像の位置を選択します。
 - ローカル検索: DVRのメイン保存装置の録画画像を検索します。
 - アーカイブ検索: DVRのアーカイブ保存装置の録画画像を検索します。
 - 外付け検索: DVRにつながっている他のシステムで録画された保存デバイスの録画映像を検索します。仕様及び、バージョンにより、使用できない場合があります。
 - 上書き保護: デバイスで上書き保護が設定された録画映像を確認することができます。
 - ブックマークの追加: 録画映像のブックマークが可能です。
 - 遠隔地点パネル: フローティングされたパネル又は全体画面で地点リストを表示、または非表示することができます。本機能は一部パネルのみ対応します。
 - セグメント選択: DVRの時間が過去に変更され、時間重複現象により、同一時間帯に一つ以上の映像が存在する場合、望みの区間を選択します(時間単位のタイムテーブルを提供するDVRの場合にのみ対応)。
-  (動画の保存): 録画映像を専用ビューアーファイル(.exe)またはAVIファイル(.avi)で保存します。詳しい内容は、“7.2録画映像を動画で保存” (p. 85)部分を参照してください。
 - 静止画保存: 画面に出力された現在の映像を実際のサイズのイメージファイルで保存します。
 - イメージを保存/イメージ出力: 現在の画面に表示されたイメージを保存または印刷します。
 - パノラマスクリーン保存: 現在の画面に表示されたイメージを保存します。
-  (ブックマーク): 録画映像のブックマークや、再生したり除去することができます。
-  (再生中のイベント): 録画映像の再生時にイベント録画映像があると、該当イベントのリストを表示します。イベントリストでイベントをダブルクリックすると、該当イベントの録画映像が表示されます。
-  (モーションの停止映像): イベントベース録画(イベント及びプリイベント)中に録画された映像の停止映像を再生パネルに表示します。詳しい内容は、“モーションイベントの停止映像” (p. 82)部分を参照してください。
-  (テキスト-インパネル): テキスト-インパネルを表示します。テキスト-インパネルは現在JSS遠隔監視システムに接続されているデバイスのテキスト-インデータを表示します。テキスト-インデバイスにカメラが連動されていて、連動されたカメラの映像が現在の監視タブに見える場合、カメラの画面にもテキスト-インのデータを表示します。テキスト-インのデータの表示期間は「ライブテキスト-イン時間範囲」設定で変更できます。「ライブテキスト-イン時間範囲」設定に関する詳しい内容は「5.11 最近のイベント」 (p. 41) の部分を参照してください。
-  (ステップ再生): フレームまたは時間単位で前または次の映像に移動します。◀ および ▶ ボタンの間にある矢印をクリックして映像の移動間隔を設定することができます。
-  /  (高速逆再生/高速再生): 録画映像を高速で逆再生または再生します。
-  /  (停止/再生): 選択したデバイスの録画映像再生を中止または開始します。

-  (ジョグシャトル): 再生方法および速度を調整することができます。ジョグシャトルの縦線は現在の再生方向及び速度を示します。縦線が中央から左にあると、映像を逆再生し、右側にあると正再生します。中央から遠いほど再生速度が速くなります。縦線をクリックしてジョグシャトルの希望する位置にマウスでドラッグした後、マウスのボタンをそのまま押し続けていると、該当する速度で映像を再生します。マウスボタンから手を離すと、縦線が中央に戻り、 (再生)ボタンをクリックすると一倍速で映像を再生します。 (ロック)ボタンをクリックした後、縦線をドラッグ&ドロップすると、移動した位置に縦線を固定させます。
-  (ジョグシャトル): 再生速度を調整することができます。ジョグシャトルの縦線は現在の再生速度を示します。
-  /  (再生 (タブ)/一時停止 (タブ)): 現在の画面に表示された全録画映像再生を中止または開始します。
-  (ユーザーのレイアウト登録): 現在の画面の分割を保存します。
-  (画面分割): 画面分割を変更します。 ボタンをクリックして多様な画面分割を選択可能です。 または  ボタンをクリックすると前または次のカメラグループに移動します。

タイムテーブルイベントリスト

- タイムラプス検索モード: タイムラプス検索モードの場合、画面下段にあるタイムテーブルはカメラ別の録画情報を表示します。タイムテーブルの右上段にある  ボタンをクリックすると、画面にある全てのカメラの録画情報を表示し、 ボタンをクリックすると再生画面から選択したカメラの録画情報のみを表示します。



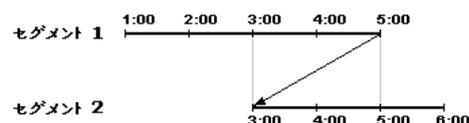
- ✓ 接続されたデバイスのモデルによって、タイムテーブルが異なることがあります。

- ① 現在の再生日 / 時間: タイムテーブルで映像の現在の再生時点を表示します。マウスの左ボタンをクリックして、日付時刻ウィンドウを開くことができます。
- ② 録画期間: 録画映像の日付及び時間区間を表示します。任意の位置をクリックしたまま左または右にドラッグするか、キーボードのShiftキーを押したままマウスホイールを動かすと、前または後の日付および時刻に移動します。キーボードのCtrlキーを押したまま、マウスホイールを動かすと時間区間を拡大して表示することができます。
- ③ カメラ名: カメラの名前を表示します。
- ④ 録画データ: 録画情報を分単位または時間単位で表示します(デバイスによって異なる)。
 - 秒単位タイムテーブル(一部のDVRモデルを除いた全てのデバイス)
 - 赤色の縦線: タイムテーブルで映像の現在の再生時点を表示します。マウスで望みの時間をクリックすると、該当時間帯の最初の録画映像が表示されます。
 - 黄色の区分線: 時間重複現象が発生した場合、セグメントを区分します。その場合、タイムテーブルで右側に表示されるほど最新のデータです。“再生”パネルの  (カレンダー)ボタンをクリックすると、望みのセグメントにすぐ移動できます( (カレンダー) → 日付選択 → 望みのセグメント選択: 該当セグメントの最初の録画映像が画面に出力)。
 - バーの色: 録画モードを表示します(タイムラプス録画 - 青色、イベント録画 - 紫色、プリイベント録画 - 黄色、イベントとプリイベント - ピンク、緊急録画 - 赤色、デバイス接続の一時中断による非正常録画 - 緑色)。
 - タイムテーブルの拡大によって1秒~1分単位で録画映像を移動します。
 - 時間単位タイムテーブル(一部のDVRモデル)
 - 黄色のバー: タイムテーブルで映像の現在の再生時点を表示します。

- ピンク色のバー / 灰色のバー: 時間重複現象が発生した場合、現在の画面に出力された映像のセグメントはピンク色のバーで、現在の画面に出力されていない映像のセグメントは灰色のバーで表示されます。灰色のバーで表示されたセグメントの映像は再生できません。“再生”パネルの (その他メニュー) ボタンをクリックして画面に出力するセグメントを変更できます((その他メニュー) → “セグメント選択”メニュー → 望みのセグメント選択: 選択セグメントの最初の録画映像が画面に出力)。

- ✓ JSS遠隔監視システムまたはデバイスの時間が過去に変更されて録画された場合、同一の時間帯に一つ以上の録画映像が存在する可能性があります(時間重複現象)。この場合、重なった時間の録画映像はセグメントを区分して再生する必要があります。

例えば、1時より5時までの録画映像が存在する場合、使用者がシステム時間を5時より3時に変更してから6時まで録画を行うと3時より5時までの録画映像が二つ存在することになります。この場合に3時より5時までの時間帯には二つのセグメントが発生します。



- イベント検索モード: イベント検索モード時、画面下段にイベントリストが表示されます。SD(SDHC)メモリーカード検索時にはメモリーカードの録画機能が設定されている間に発生したイベントのみが検索されます。

| イベント | イベント発生 | デバイス | 日時/時間 |
|---------|--------|------|---------------------|
| モーション検知 | CAM4 | CAM4 | 2015-12-01 16:23:23 |
| モーション検知 | CAM5 | CAM5 | 2015-12-01 16:23:23 |
| モーション検知 | CAM2 | CAM2 | 2015-12-01 16:23:23 |
| モーション検知 | CAM6 | CAM6 | 2015-12-01 16:23:23 |
| モーション検知 | CAM3 | CAM3 | 2015-12-01 16:23:22 |

イベント録画映像がある場合、リストでイベントをクリックすると、画面に該当イベントの録画映像が表示されます。イベントリスト右上のボタンをクリックすると次の結果が表示されます。 ボタンをクリックして時間を設定すると、イベント選択時に、イベント時間より設定された時間の分だけ以前の録画映像に移動します。

制御ツールバー

カメラ画面を選択した後、マウスのカーソルを該当カメラ画面に動かすと、制御ツールバーが表示されます。マウスのカーソルを各ボタンの上に動かすと、該当するボタンのツールチップが表示されます。



- (物体/モーション 検索): デバイスの録画映像またはJSS遠隔監視システムの緊急録画映像で、オブジェクトまたはモーションの変化を検索できます。詳しい内容は、“オブジェクト/モーション検索” (p. 82)部分を参照してください。
- (映像拡大): 現在の映像を拡大します。詳しい内容は、“映像拡大” (p. 83)部分参照してください。
- (色調整): 現在の映像の明暗、コントラスト、彩度、色彩を調整します。 ボタンをクリックすると、変更内容をすべてキャンセルして元のイメージに復戻ります。この設定は録画映像には適用されません。
- (イメージ効果): イメージに効果を与えます。詳しい内容は“イメージ効果” (p. 70)を参照してください。
- (オーディオ再生): オーディオが録音された場合、映像再生時に録音されたオーディオと一緒に再生されます(1×1分割画面でのみ支援)。

再生画面のメニュー

カメラ画面を選択した後、マウスの右ボタンをクリックすると、画面のメニューが表示されます。



- 魚眼映像の歪み補正: 魚眼カメラの映像の歪みを補正します。詳しい内容は、“魚眼映像の歪み補正” (p. 68)部分を参照してください。
- 映像拡大: 制御ツールバーの該当ボタンをクリックすると同じように動作します。制御ツールバーは“制御ツールバー” (p.80) 部分を参照してください。“イベント録画映像がある場合、リストでイベントをクリックすると、画面に該当イベントの録画映像が表示されます。イベントリスト右上のボタンをクリックすると次の結果が表示されます。 ボタンをクリックして時間を設定すると、イベント選択時に、イベント時間より設定された時間の分だけ以前の録画映像に移動します。
- 制御ツールバー
- 画像処理: イメージに効果の処理ができます。詳しい内容は、“イメージ効果” (p. 83)部分を参照してください。
- 物体/モーション検索: デバイスの録画映像またはJSS遠隔監視システムの緊急録画映像で、オブジェクトまたはモーションの変化が検索できます。詳しい内容は、“オブジェクト/モーション検索” (p. 82)部分を参照してください。
- 映像分析表示: 映像分析データを再生映像の上に表示します。
- 画面レート: 映像の出力レートを設定します。
 - 画面に合わせる: 画面比率と関係なくカメラ画面のエリアにあわせて映像を出力します。
 - 画面に合わせる(比率維持): 画面比率を維持したままでカメラ画面のエリアにあわせて映像を出力します。但し、カメラ画面のサイズによって映像の上下左右が切れることがあります。映像拡大機能の動作時、該当カメラ画面については本画面レートに対応せず、代わりに“映像レートに合わせる”が適用されます。
 - 1/2倍サイズ(×0.5)~4倍サイズ(×4): 映像のオリジナルサイズを基準にして該当メニューで指定したサイズでカメラ画面に映像を出力します。例えば、“実際のサイズ(×1)”を選ばると、オリジナル映像の実際のサイズで出力します。カメラ画面が該当サイズで映像を出力できるほどエリアが確保された場合のみメニューが活性化されます。
- 停止画像: 画面に出力された現在の映像を実際のサイズのイメージファイルで保存します。
- ストリーム情報: 選択したカメラのストリーム情報を見ることができます。
- 削除: 接続を削除します。

ブックマーク(Bookmark)

カメラ画面を選択した後、パネルツールバーから  (ブックマーク)ボタンをクリックすると、該当録画映像をブックマークすることができます。





1. (ブックマーク追加)ボタンをクリックします。
2. ブックマーク名及び説明を入力します。“登録”ボタンをクリックすると該当録画映像がブックマークされます。
3. ブックマークリストで、ブックマークを選択すると下記の欄に該当ブックマーク情報が表示されます。 (録画データ再生)ボタンをクリックすると再生画面に該当ブックマーク映像を見せます。 (ブックマーク削除)ボタンをクリックすると該当ブックマークを削除します。

モーションイベントの停止映像

パネルツールバーで (モーションイベントの停止映像)ボタンをクリックすると、イベントベース録画(イベント及びプリイベント)中に録画された映像の停止映像を再生パネルに表示します。



選択した停止映像の録画情報がタイムテーブルに表示されます。タイムテーブルの録画データで任意の位置をクリックすると、選択した時間の停止映像が表示されます。マウスのカーソルを停止映像上に置くと、ポップアップビューア画面が該当停止映像の上段に表示されます。



- ポップアップビューア使用: ポップアップビューア画面に対応します。

オブジェクト/モーション検索

制御ツールバーで (物体/モーション検索)ボタンをクリックすると、下段にオブジェクト/モーション検索パネルが表示され、デバイスの録画映像またはJSS遠隔監視システムの緊急録画映像でオブジェクトまたはモーションの変化が検索できます。



- (検索領域指定): マウสดラッグを利用して、カメラ画面にオブジェクトまたはモーションの変化を検索する領域を設定します。
- (検索領域削除): マウสดラッグを利用して、カメラ画面に設定された検索領域を削除します。
- (参照イメージ設定): カメラ画面に現在表示されたイメージを、オブジェクトの変化を感知するための参照イメージに設定します(モーション検索のみ)。
- (参照イメージ表示): 参照イメージをPIP画面に表示したり隠します(モーション検索のみ)。



- クエリー方法: クエリー方法を選択します。
 - モーション検索: 連続された2つの録画映像を比較して検索領域で変化が発生した場合その映像を探し当てます(例: モーションがあった場合)。
 - オブジェクト検索: 参照イメージと比較して検索領域で変化が発生し活性化時間間変化が持続される場合その映像を探し当てます(例: 物体がなくなった場合)。
- 感度: 変化感知の感度を設定します。値が大きければより敏感に感知します。
- 検索ブロック数: 変化感知最小ブロックを選択します。(モーション検索のみ)設定されたブロック数より少なく変化が感知されると変化が発生しないことに見なします。
- 参照映像に対する変化率: 変化感知の最小比率を選択します。(オブジェクト検索のみ)設定された比率より少なく変化が感知されると変化が発生しないことに見なします。
- 有効時間: 変化感知時、変化が発生したと感知するために変化が持続される時間を設定します。変化が感知されてから指定された時間間持続しないと変化がないことに見なします。

映像拡大

制御ツールバーで  (映像拡大)ボタンをクリックすると、現在の映像を拡大することができます。

- ✓ “PIP”とは“Picture in Picture”の略語で、画面内に表示される小さな画面を言います。



-  (スライダー): 拡大倍率を調整します。マウスホイールを用いて、拡大倍率を調整することもできます。
-  (実際のサイズを表示): 実際サイズ拡大モードに入ります。実際サイズ拡大モードではカメラ画面のサイズまたは映像の拡大レートとは関係なく映像の実際のサイズを基準にして映像が拡大されます。
-  (拡大ファインダ): PIP画面を表示したり非表示にします。PIP画面の四角は拡大されたエリアを表示します。

イメージ効果

制御ツールバーで  (イメージ効果)ボタンをクリックすると、イメージ効果の制御ツールバーが表示され、各ボタンを用いてイメージに効果を与えることができます。この設定は録画映像には適用されません。



-  (柔軟): 映像をソフトにします。
-  (鮮明): 映像を鮮明にします。
-  (高域増強): 明度及び鮮明度を増加させて映像をはっきりさせます。

-  (ヒストグラムの平準化): 明度を均等に調整して映像を自然にします。
-  (境界線の検出): 映像の輪郭を抽出します。
-  (原本): 変更事項を全てキャンセルして、元のイメージに復元します

ピクセルカウンター

映像から選択した領域に該当するピクセル情報を表示します。サイズが一定のオブジェクトを利用して距離によるオブジェクトサイズのピクセル数を計算できます。特定のタイプのオブジェクトの領域を指定して該当するピクセルの密度、つまり単位長さあたりのピクセル数を測定してオブジェクトの認識に対する定量的な情報を提供します。“ビューメ”ニューで“ピクセルカウンター”を選択すると実行されます。



✓ ピクセルカウンターを設定すると、下のような通知ポップアップを表示します。ピクセルカウンターの使用方法と素早い制御ショートカットキーを提供します。



✓ ピクセルカウンターで提供する情報は以下のとおりです。



- 幅、高さ、ピクセル数
- 領域内の全ピクセル数
- 領域左上のピクセル座標
- ペインに対する領域幅、高さ比率(UV座標)
- ペインに対する領域幅比率
- 領域左上のUV座標
- ✓ UV座標は最小座標を0、最大座標を1と表現する座標です。左上を(0.0)、右下を(1.1)と示します。

スマートイメージフィルタ

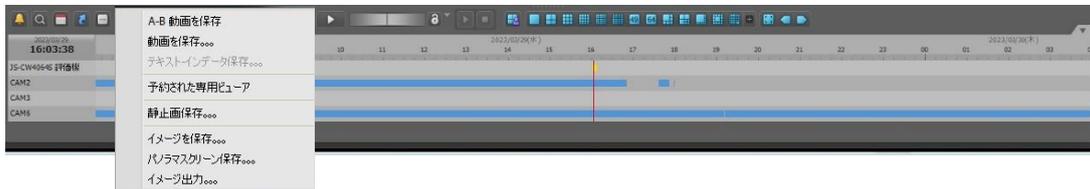
録画映像の左下から  (スマートイメージフィルタ) ボタンをクリックすると、画像の状態や目的に合わせて画像にフィルタを適用することができます。



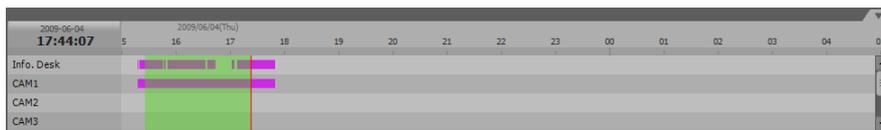
- 自動, 霧除去, 暗い証明 フィルタを適用して、値を設定します。
- ROI Spot: 画面の特定の領域のみをフィルタを適用します。
- 高域増強: 高域増強フィルタを適用します。

7.2 録画映像を動画で保存

録画映像をUSB保存デバイスに動画ファイルで保存することができます。再生パネルの下段にあるツールバーで  (動画保存) ボタンをクリックすると動画保存メニューが表示されます。



- **A-B動画を保存:** 動画で保存する映像の区間をタイムテーブルを用いて設定します。動画保存メニューで、“A-Bの動画を保存”を選択した後、タイムテーブルで保存する映像の開始サイトをクリックし、映像の開始点と終了点をクリックして、ゾーンを指定します。“動画保存”画面が表示されたら、該当区間の映像を専用のビューアーファイル(.exe)またはAVIファイル(.avi)で保存することができます。詳しい内容は、“専用のビューアーファイルで保存” (p. 85)及び“AVIファイルで保存” (p. 89)部分を参照してください。



- **動画保存:** 動画で保存する映像の区間を直接入力して設定します。動画保存メニューで、“動画を保存”を選択します。“動画を保存”画面が表示されたら、該当する区間の映像を専用ビューアーファイル(.exe)またはAVIファイル(.avi)で保存することができます。詳しい内容は、“専用のビューアーファイルで保存” (p. 85)及び、“AVIファイルで保存” (p. 89)部分を参照してください。
- **予約された専用ビューアー:** 予約された専用ビューアーファイルの保存リストを表示します。 ボタンをクリックすると予約された専用ビューアーファイルの保存を手動で開始し、 ボタンをクリックすると予約を取り消します。専用ビューアーファイルの保存予約に関する詳しい内容は、“専用のビューアーファイルで保存” (p. 85)部分を参照してください。
- **静止画保存:** 画面に出力された現在の映像を実際のサイズのイメージファイルで保存します。
- **イメージを保存/イメージ出力:** 現在の画面に表示されたイメージを保存または印刷します。
- **パノラマスクリーン保存:** 現在の画面に表示されたイメージを保存します。

専用のビューアーファイルで保存

録画映像を専用ビューアーファイル(.exe)で保存します。



- スタート時刻、終了時刻: 動画で保存する映像の日付及び時間を入力します。“最初の映像”オプションを選択すると、一番最初に録画された映像の日付及び時間に設定し、“最後の映像”オプションを選択すると、一番最後に録画された映像の日付及び時間に設定します。“±1分”、“±3分”、“±10分”、“±30分”または“±60分”ボタンをクリックすると、タイムテーブルで現在選択された時間を基準に該当する間隔の分、時間を“スタート時刻”及び“終了時刻”に加えるか引きます。
- 専用ビューアー、AVI: “専用ビューアー”を選択します。
- パスワード保存: 動画を再生するためのパスワードを設定します。パスワードを設定すると再生プログラムを実行する時、パスワード入力を要求します。

- キーフレームのみ保存: 設定された周期にしたがってキーフレームのみ保存します。
 - テキストインデータ含む: 該当録画映像にテキスト入力情報がある場合、テキスト入力情報を映像と共に保存します。
 - プレーヤー未包含: セルフプレーヤープログラムを包含しなくて録画映像のみ保存します。この場合、ファイルサイズ及び保存時間が減少しますが保存されたファイルを再生するためにはJSS遠隔監視システムソフトウェアのプログラムが設置されたフォルダ(¥Client¥selfplayer)で提供されるセルフプレーヤープログラム(JSS-player.exe)を実行する必要があります。デバイスの仕様及びバージョンによっては該当機能は支援されない場合があります。
 - オーディオデータを除く: オーディオデータを除いて映像を保存します。
 - 予約: 専用ビューアーの保存を行う時間を予約します。予約された時間に上の設定によって専用ビューアーの保存が行われます。専用ビューアーの保存中、デバイス接続が解除されて、保存に失敗した場合、設定されたリトライの間隔で、専用ビューアーの保存をリトライします。
 - クリップ測定使用: クリップサイズを事前に測定して容量を確認してください。
- ✓ 保存中である録画映像の容量が2GBに達するとファイルを分割して保存し続けるか確認するメッセージを表示します。

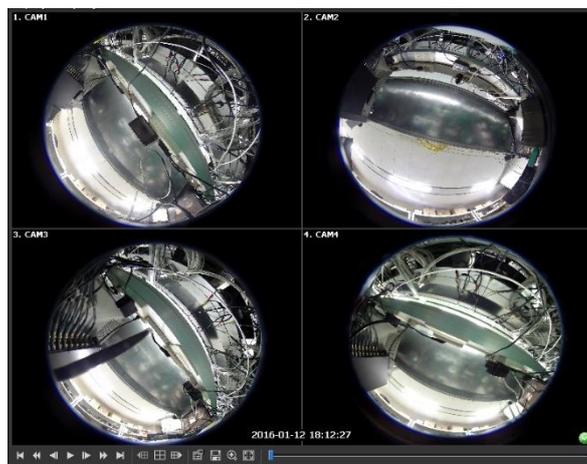
専用ビューアーファイルの再生

専用ビューアーファイルは、ファイル自体が再生プログラム(JSS-Player)を含んでいるため、再生のための別途のソフトウェアをインストールする必要がありません。該当ファイルをダブルクリックすると、再生プログラムがすぐ実行され、画面に映像が表示されます。再生プログラムの右下段のスクロールバーを動かして希望する時刻の映像にすぐ移動することができます。☒ ボタンをクリックすると再生プログラムを終了します。

- ✓ 再生プログラムを稼働させるためのPCのCPUの最低仕様は、800MHz Pentium III (Intel Pentium Dual Core 2.2GHz推奨)です。CPUの仕様が低い場合、高画質と最高速度で録画された映像は、多少ゆっくり再生されます。また、プログラムを正常に実行させるためには9.0バージョン以上のDirectXをインストールする必要があり、16MB以上のビデオラムを備えたVGAカードの使用を推奨します。
- ✓ 使用PCのディスプレイ設定によって映像が正常に見えないことがあります。その場合、デスクトップ画面でマウスの右ボタンをクリックして、ディスプレイの登録情報 → 設定タブに移動して“色の品質”を“32ビット”に設定した後、“詳細” → トラブルシューティングを選択して、“ハードウェアアクセラレータ”を“最大”に設定してください。引き続き、問題が発生したらスタート → ファイル名を指定して実行…を選択して、“dxdiag”を入力してエンターボタンを押して出るDirectX診断ツール画面で、DirectXバ

ージョンが9.0以上なのかを確認してください。ディスプレイのタブに移動して“DirectDrawアクセラレータ”が使用可能になっているかを確認してください。すべての事項が確認された後も映像が正常に見えない場合は、ビデオカードを変更してください。ATIチップセットを使用したビデオカードを推奨します。

- ✓ 録画映像を保存する際“プレーヤー未包含”オプションを選択した場合保存されているファイルを再生するためにはJSS遠隔監視システムが設置されたフォルダ(%Client%selfplayer)で提供されるセルフプレーヤープログラム(JSS-Player.exe)を実行する必要があります。
- ✓ 魚眼映像歪み補正機能はレイアウト1x1分割モードのみに対応します。スクリーンでマウスの右クリックをすると、魚眼映像歪み補正制御が可能になります。



- ⏪ : 最初に移動
- ⏩ : 最後に移動
- ⏮ : 高速巻き戻し
- ⏭ : 高速再生
- ⏮ : 一画面ずつ逆再生
- ⏭ : 一画面ずつ再生
- ⏮ : 一倍速再生

- 📺 : 現在の分割画面を基準にして以前のカメラグループに保存された映像がある場合、以前のカメラグループに移動します。
- 📺 : 画面分割が 4 → 8 → 9 → 16 → 20 → 25 → 1+32分割に順に変更されます。
- 📺 : 現在の分割画面を基準にして次のカメラグループに保存された映像がある場合、次のカメラグループに移動します。
- 📺 : 再生プログラムの属性を設定することができます。



- Fisheye Dewarping : 魚眼映像歪み補正機能を制御することができます。詳しい機能は下記の歪み補正機能メニューを参照してください。
- 印刷: 現在の映像を印刷します。
- 情報: 現在の映像画面の番号、カメラ名、録画時間、録画モード、ファイルのサイズ、解像度などの情報を表示します。
- 画像処理: 映像の明るさを調整したり、“ソフト”または“鮮明”のようなイメージフィルターを適用します(1×1分割画面でのみ支援)。
- プレイスピードコントロール: “再生”及び“FF/RW”(高速再生/逆再生)速度を変更します。
- ディスプレイモード: ディスプレイモードを選択します。画面が表示されなかったり、異常に表示される場合、ディスプレイモードを変更して問題を解決する時に使用します。

- 画面サイズ: 再生プログラムの画面サイズを選択します。
- 画面レート: 画面に表示される映像の出力レートを変更します。
- 環境設定: 画面に表示される基本設定を変更します。
- オーディオオン: 該当映像が録画される時、オーディオも一緒に録音されると、再生時にオーディオが出力されます(1×1分割画面再生時のみ支援)。
- ブロック現象改善: 拡大映像の階段(ブロック)現象を改善して出力します。使用するPCのCPUの仕様が低くて再生が遅い場合、ブロック現象改善機能オプションを解除すると、遅くなる現象を少し改善することができます。
- テキスト表示: 映像にテキスト入力情報がある場合テキスト入力情報を表示します。単一画面モードではテキスト入力情報が映像と一緒に表示されます。分割画面モードではカメラ画面でマウス右クリックしてテキストイン出カメニューを選択します。
- ファイルの連続再生: 分割して、保存されたファイルを再生する際、各ファイルを自動で連続再生します。例えば、録画映像が“abc_01.exe”、“abc_02.exe”、“abc_03.exe”に分割して保存された場合、各ファイルを実行する必要はありません。“abc_01.exe”ファイルを実行すると“abc_01.exe”、“abc_02.exe”、“abc_03.exe”のファイルが連続で再生されます。
- 以前のファイルに移動: 分割して保存されたファイルを再生する際、現在再生中もしくは再生待機中の以前のファイルに移動します。
- 次のファイルに移動: 分割して保存されたファイルを再生する際、現在再生中もしくは再生待機中の次のファイルに移動します。
- ファイルリスト: 分割して保存されたファイルを再生する際、連続で再生ができるファイルのリストを見せます。ファイルを選択すると、該当ファイルに移動します。
- Repeat Play back: くり返し再生します。
- Check Fingerprint: ファイルの全区間に対し、有効性を検査します。

-  : 現在の映像を保存することができます。

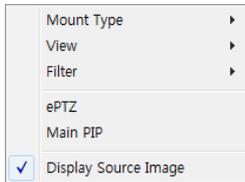


- 現在映像の保存: 現在画面をイメージファイルで保存します。
- 現在映像の保存(1倍サイズ): 現在画面を1倍サイズのイメージファイルで保存します(1×1分割画面でのみ支援)。
- クリップコピー保存: 映像の特定区間を実行ファイルで保存します。
- 動画保存: 映像の特定区間をAVIファイル(.avi)で保存します。
- クリップコピーログ: クリップコピーのログ情報をテキストファイルで保存します。クリッププレーヤーの映像をクリップコピーする時、ログ上の使用者情報は“Internal-Copy”と表記されます。
- Save Frame Info: フレーム情報をCSVファイルの形式で保存します。

-  : 画面を拡大して見るか、1倍サイズで見ることができます(1×1分割画面でのみ支援)。画面を拡大した場合、拡大された画面でマウスで画面をクリックした後、カーソルを動かして拡大された画面の位置を変更することができます。

- : 画面を全体画面で見ることができます。
- 、: 再生プログラムの右下段に表示されます。映像が改竄されなかったことが確認されたら  アイコンが出力され、映像が改竄されると  アイコンが出力されて再生を停止します。

• Fisheye Dewarping



- Mount Type: カメラの設置位置を設定します。Auto、Wall、Ceiling、Desktopのいずれかを選択することができます。この設定により設定可能な画面形態が変わります。
- View: 元の魚眼映像を表示します。Single、Quad、パノラマのいずれかを選択することができます。ePTZ機能がオンになっている場合、マウスの右・左ボタンをクリックし、Pan、Tilt、Zoomを制御することができます。メインPIPが基本的に選択されます。
- Filter: 画質改善のためのフィルタを設定します。Nearest、Linear、CubicそしてLinear、NN OnPTZの中から選択することができます。

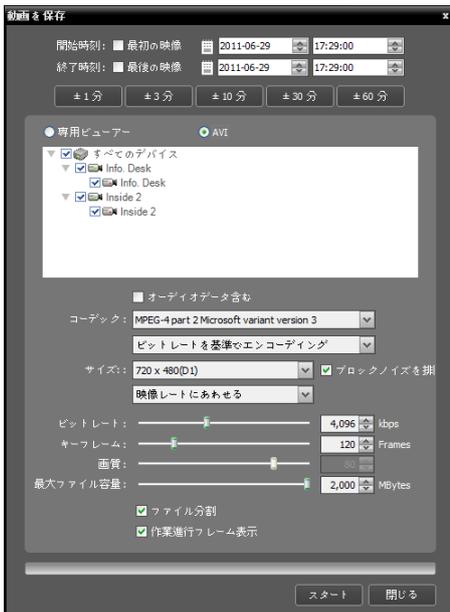
ePTZ: Pan、Tilt、Zoom 動作を実行します。マウスをドラッグする際、マウスカーソルのドラッグ量が動作速度を決定します。マウスの右ボタンドラッグは左右 (Pan制御)、上下 (Tilt制御) を制御し、マウスの右ボタンドラッグはZoomを制御します。

Main PIP: メインビュー映像内部の領域指定を容易にする PiP (Picture in Picture)ビューを実行します。

Display Source Image: 変更事項を全てキャンセルして、元のイメージに復元します。

AVIファイルで保存

録画映像をAVIファイル(.avi)、MP4ファイル(.mp4)で保存します。



- スタート時刻、終了時刻: 動画で保存する映像の日付及び時刻を入力します。“最初の映像”オプションを選択すると、一番最初に録画された映像の日付及び時間に設定し“最後の映像”オプションを選択すると、一番最後に録画された映像の日付及び時間に設定します。“±1分”、“±3分”、“±10分”、“±30分”または“±60分”ボタンをクリックすると、タイムテーブルで現在選択された時間を基準に該当する間隔の分、時間を“スタート時刻”及び“終了時刻”に加えるか引きします。
- 専用ビューアー、AVI: “AVI”を選択します。
- オーディオデータ含む: オーディオと一緒に保存された映像の場合、一つのチャンネルのみサポートします。映像が1 ipsより少なく設定されて録画した場合はオーディオデータが正常に保存できない恐れがあります。映像が1ipsより少なく録画された場合オーディオ保存が正常に行われない恐れがあります。
- コーデック、ビットレート、画質: 映像を圧縮するために適切な値を設定します。
 - ビットレートを基準でエンコーディング: ビットレートを基準として映像をエンコーディングします。本設定を選択すると、以下でビットレートの設定ができます。
 - ビデオの品質を基準でエンコーディング: ビデオの品質を基準として映像をエンコーディングします。本設定を選択すると、以下でビデオ品質の設定ができます。
 - サイズ: 映像を圧縮するためのファイルの大きさを設定してから圧縮映像の出力比率を選択します。
 - 映像レートにあわせる: 映像のオリジナルレートにカメラ画面のエリアをあわせて映像を出力します。

- 画面に合わせる: 画面比率と関係なくカメラ画面のエリアにあわせて映像を出力します。
- 画面に合わせる(比率維持): 画面比率を維持したままでカメラ画面のエリアにあわせて映像を出力します。但し、カメラ画面のサイズによって映像の上下左右が切れることがあります。映像拡大機能の動作時、該当カメラ画面については本画面レートに対応せず、代わりに“映像比率に合わせる”が適用されます。
- 半分サイズ(×0.5)~4倍サイズ(×4): 映像のオリジナルサイズを基準にして該当メニューで指定したサイズでカメラ画面に映像を出力します。例えば、“実際のサイズ(×1)”を選ぶと、オリジナル映像の実際のサイズで出力します。カメラ画面が該当サイズで映像を出力できるほどエリアが確保された場合にのみメニューが活性化されます。
- ブロックノイズを排除: 拡大映像で発生する階段(ブロック)現象を排除し、画面上に表示される映像の画質を向上させることができます。
- キーフレーム: 映像を圧縮するためにキーフレームを設定します。
- 最大ファイル容量: ファイルの最大サイズを設定します。
- ファイル分割: 保存中の録画映像のサイズが上で設定した“最大ファイルサイズ”になると、保存中の録画映像を最大ファイル容量に分割して保存します。本オプションが選択されていない場合、最大ファイルサイズ分だけ保存します。
- 作業進行フレーム表示: 保存時、現在保存中の映像をポップアップ画面に表示します。

AVIファイルの再生

動画の再生プログラムを実行した後、AVIファイルを読み込みます。AVIファイル保存時に選択した圧縮方式のコーデックがインストールされていない場合、該当するコーデックを手動でインストールしなければなりません。

第8章 - イベント処理

イベントが感知されたカメラの映像をリアルタイムで監視することができ、該当するイベント感知映像が録画されていれば映像を再生することができます。



JSS遠隔監視システムは下記の場合、デバイスからイベントの通知を受け、該当のイベントをリアルタイムで、イベントリストに見せます。

- JSS遠隔監視システムの監視タブで、該当デバイスの映像を監視中の時
- JSS遠隔監視システムの該当デバイスに対し“デバイスリアルタイムモニタリング”オプションが選択されている場合(“JSS遠隔監視システム設定” > “デバイス” > デバイスメニュー: “デバイス修正” > “情報”タブ)。“デバイスリアルタイムモニタリング”オプション設定に関する詳しい内容は、“5.1 デバイス、デバイスの管理、デバイス修正、情報” (p. 23)部分を参照してください。

“設定” - “レポート”で、イベントのリストの表示オプションを変更することができます。詳しい内容は、“5.10 レポート” (p. 40)部分を参照してください。

イベントのリストに表示される各イベントのアイコンの意味は次のとおりです(デバイスの仕様及びバージョンによって一部イベントのアイコンがサポートされないことがあります)。

| | | |
|------------------------|-----------------------|-----------------|
| モーション感知 | 映像信号非表示 | 映像信号なし |
| テロ感知 | オーディオ検出 | 映像分析感知 |
| トリップゾーン | タンパーリング | テキスト入力 |
| アラームイン感知/解除 | アラーム入力異常あり/なし | 外部保存デバイス挿入/取り外し |
| デバイス接続/解除 | システムスタート | システム動作 |
| システム再起動 | システム終了 | 録画機能異常あり |
| ディスクフル | ディスクフル | ディスクBad Sector |
| S.M.A.R.T.感知結果ディスク異常あり | S.M.A.R.T.感知結果ディスクが高温 | |
| ディスク設定変更 | 緊急録画開始/終了 | ファン異常あり/解除 |
| 顔感知 | PIR 検知/解除 | ANPR検知/解除 |
| オートトラッキング検知/解除 | | |

緊急イベント

登録されたデバイスから、各イベントに対し、“通知”機能(イベントが発生した場合、それを通知する機能)が設定されている場合、該当イベントを感知した時、これを緊急イベントとして、見なします。JSS遠隔監視システムは下記のケースで、デバイスから、緊急イベントの通知を受けます。

- デバイスから、緊急イベントが確認されたJSS遠隔監視システムに通知をするように設定されている場合 (但し、JSS遠隔監視システムの監視タブで、該当デバイスの映像を監視中の場合、デバイスの仕様及び、バージョンによって、緊急イベントが発生しないこともあります)
- デバイスから、緊急イベントが確認されたJSS遠隔監視システムに通知をするように設定されず、JSS遠隔監視システムの監視タブで該当デバイスの映像の監視中の場合
- デバイスから、緊急イベントが確認されたJSS遠隔監視システムに通知をするように設定されず、JSS遠隔監視システムで、該当デバイスに対し、“デバイスリアルタイムモニタリング”オプションが選択されている場合 (“JSS遠隔監視システム 設定” > “デバイス” > デバイスメニュー: “デバイス修正” > “情報”タブ)。“デバイスリアルタイムモニタリング”オプション設定に関する詳しい内容は、“5.1 デバイス、デバイスの管理、デバイス修正、情報” (p. 23)部分を参照してください。

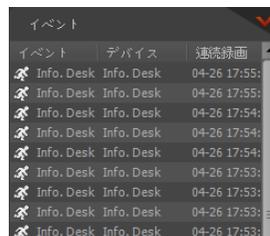
該当の機能が正常に動作するためには、コールバックポートが正しく設定されなければなりません。コールバックポート設定に関する詳しい内容は、“5.11 最近のイベント” (p. 41)部分を参照してください。

緊急イベント起こる時に“緊急イベント”パネルが自動的に表示されるか、次のように手動で“緊急イベント”パネルを表示させることができます。

“ビュー”メニューに移動した後、“緊急イベントパネル”をクリックします。または、最近のイベントリストで  ボタンをクリックします。



または



緊急イベントパネルが表示されます。



- Event Count: リストで表示されているイベントの個数を見せます。
- Last Event: 最近感知されたイベントの情報を見せます。
- 自動ポップアップ : クライアントシステムにイベントを通知する際、自動的に緊急イベントマネージャーパネルが表示されます。
- イベント、デバイス、サイト、日付/時刻: イベントの情報を見せます。リストでイベントを選択した後、監視または再生画面にマウスでドラッグ&ドロップすれば、選択したイベントが感知されたカメラのリアルタイムまたは録画映像が画面に表示されます。

映像監視

イベント感知カメラの映像監視は、監視パネル(最大4つ)でサポートします。パネルタブに監視タブがない場合、“システム”メニューで“新しいタブ”を選択した後、“監視”をクリックしてタブを追加します。

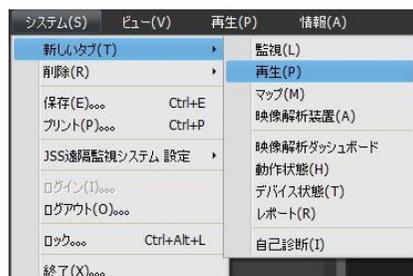


パネルタブで監視タブをクリックします。→ リアルタイムのイベントのリストで希望するイベントを選択した後、監視画面にマウスでドラッグ&ドロップします。選択したイベントが感知されたカメラのリアルタイム映像が画面に表示されます。



映像再生

イベント録画映像の再生は、再生パネルでサポートします。パネルタブに再生タブがない場合、“システム”メニューで“新しいタブ”を選択した後、“再生”をクリックしてタブを追加します。



パネルタブで再生タブをクリックします。→ リアルタイムのイベントのリストで希望するイベントを選択した後、再生画面にマウスでドラッグ&ドロップします。選択したイベントの録画映像が画面に表示されます。



第9章 – システムの動作状態及びデバイス状態の監視

登録されたデバイスシステムの動作状態及びデバイス状態をリアルタイムで確認することができます。

9.1 システムの動作状態の監視

システムの動作状態の監視は、動作状態のパネルでサポートします。パネルタブに動作状態のタブがない場合、“システム”メニューで“新しいタブ”を選択した後、“動作状態”をクリックしてタブを追加します。



動作状態のタブが追加されると、自動的に動作状態の監視結果を表示します。



- 要約リスト: デバイスグループに追加されたすべてのデバイスに対する動作状態を要約して表示します。
 - トータル: すべてのデバイスグループに追加されたデバイスの個数を表示します。
 - 問題発生: 問題が発生したデバイスの個数を表示します。
 - 接続されていない: 接続されていないデバイスの個数を表示します。
 - 正常に動作: 問題発生が感知されず正常に動作しているデバイスの個数を表示します。
- 詳細リスト: 各デバイスの状態情報を詳しく表示します。
 - 動作状態: 動作状態を表示します(正常に動作: 問題発生が感知されない、問題発生: ビデオロスイベント感知、アラームインデバイスエラーまたは録画ミス、接続されていない: デバイスが接続されていない)。
 - 問題発生: 問題発生の原因を詳しく表示します。
 - グループ: デバイスが属したデバイスグループを表示します。
 - サイト: デバイスの名前を表示します。

- アドレス: デバイスのIPアドレスを表示します。
 - MACアドレス: デバイスのMACアドレスを表示します。
 - バージョン: デバイスのソフトウェアバージョン情報を表示します。
 - カメラ: デバイスで使用中のカメラの状態を表示します。
 - アラームイン: デバイスで使用中のアラームインデバイスの状態を表示します。
 - Fan: ファンの異常状態を表示します。
 - 録画: 録画の状態を表示します。
 - 録画検査: 録画検査の状態を表示します。
 - 録画時間: 録画期間を表示します。
- 機能ボタン
 -  (リフレッシュ): 動作状態のパネルの情報を最新の情報に更新します。
 -  (保存): 動作状態のパネルのデータを.txt, .csv, .htmlファイルで保存します。
 -  (全体画面): 動作状態のパネルを全体画面で表示します。

9.2 デバイス状態の監視

デバイス状態の監視はデバイス状態パネルで対応します。パネルタブにデバイス状態タブがない場合、“システム”メニューで“新しいタブ”を選択した後、“デバイス状態”をクリックしてタブを追加します。



“サイト”リストで希望するデバイスを選択した後、デバイス状態パネルにマウスをドラッグ&ドロップします。該当デバイスの状態が表示されます。



- 状態表示画面: 状態をアイコンで表示します。
 - カメラ: カメラ番号を表示します。
 - バージョン: システムのバージョン情報を表示します。
 - イベント: イベント感知状態を表示し、イベント感知時にイベントアイコンにカラー表示されます。マウスカーソルをアイコン上にあてると該当イベントの種類がツールチップで表示されます。
 - アラーム出力: アラーム出力状態を表示します。
 - システムチェック: デバイス及び録画機能の動作状態を表示します。
- 機能ボタン
 - 📺 (接続解除): デバイス状態パネルの現在の接続を解除します。
 - 📺 (緊急録画): デバイスの緊急録画を遠隔で開始または中止します(緊急録画機能に対応するDVRの場合にのみ対応)。
 - 📺 (録画開始/終了): 録画期間を表示します。
 - 📺 (動作状態): デバイスの録画、再生、アーカイブ、クリップコピーの状態を表示します。
 - 📺 (全体画面): デバイス状態パネルを全体画面で表示します。

9.3 自己診断

自己診断は録画機のシステム、ネットワーク、カメラ状態などの全体の状態を一括的に診断してレポートします。パネルタブにデバイス状態タブがない場合、『システム』メニューで『タブ作成』を選択した後、『自己診断』をクリックしてタブを追加します。



“サイト”リストで希望するデバイスを選択した後、自己診断パネルにマウスをドラッグ&ドロップします。該当デバイスの状態が表示されます。



- 自己診断: 録画機の全体の状態をレポート形式で画面に表示します。



- レポート: 自己診断の結果を日付とサマリーで表示します。
- トラブルシューティングレポート: 自己診断レポートのダンプファイルを作成して保存し、パートナーサイトに送信することができます。
 - ➕ (トラブルシューティングレポート): トラブルシューティングレポートを作成します。
 - ➖ (削除): リストから選択されたトラブルシューティングレポートを削除します。
 - 💾 (ファイル保存): トラブルシューティングレポートをダンプファイルに保存します。保存後、外部ネットワークに接続されている場合、通知ポップアップで『パートナーポータル登録』をクリックしてパートナーサイトのアカウントを入力すると、パートナーサイトにダンプファイルをレポートすることができます。
 - 🔄 (リフレッシュ): トラブルシューティングレポートのリストを更新します。



- 機能ボタン
 - 🔌 (接続解除): 自己診断パネルの現在の接続を解除します。
 - 🔄 (リフレッシュ): 現在接続されているデバイスの自己診断の状態を更新します。

-  (保存): 自己診断の結果をHTML形式で保存します。
-  (プリント): 自己診断の結果をプリントします。
-  (全体画面): 自己診断パネルを全体画面で表示します。

第10章 — ログ検索

JSS遠隔監視システムプログラム及びデバイスのログを検索することができます。

ログ検索は、レポートのパネルでサポートします。パネルタブにレポートタブがない場合、“システム”メニューで“新しいタブ”を選択した後、“レポート”をクリックしてタブを追加します。



様々な種類のログリストが表示されます。コラムタイトルでマウスを右クリックすると表示されるメニューを利用して、データを自由に分類できます。



- ログの種類: リストで検索するログの種類を選択します。コラムタイトルでマウス右クリックすると現れるメニューを用いてデータを希望通りで分類することができます。
 - ユーザーログ: JSS遠隔監視システムプログラムのログを表示します。
 - 動作状態ログ: 登録されたデバイスのシステムの動作状態のログを表示します。
 - デバイスシステムログ: デバイスのシステムログを表示します。
 - デバイスイベントログ: デバイスのイベントログを表示します。ネットワークカメラ及びネットワークビデオエンコーダーの場合、SD(SDHC)メモリーカード録画機能が設定されている間に発生したイベントのログのみを表示します。
 - 管理サービスログ: 管理サービスのログを表示します。詳しい内容は、JSS遠隔監視システムソフトウェアの購入先にお問い合わせください。
 - モニタリングサービスログ: モニタリングサービスのログを表示します。詳しい内容は、JSS遠隔監視システムソフトウェアの購入先にお問い合わせください。
- (検索): ログを検索します。検索語を入力します。選択したグループ内で入力された部分と一致する結果が検索されると、その結果を表示します。

レポートのツールバー

パネルの下段にあるツールバーを用いて特定のログを検索することができます。



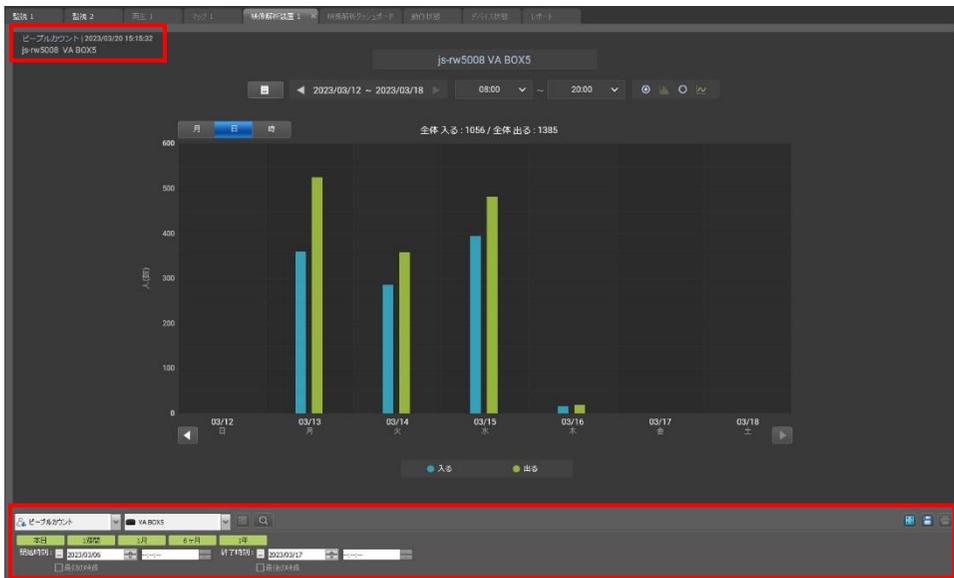
- スタート時、終了時刻: 検索するログの日付及び時間を入力します。特定の日付及び時間を入力したり“最初の映像”または“最後の映像”のオプションを選択して設定することができます。“1時間”、“6時間”、“本日”、“3日”または“1週間”ボタンをクリックすると、“スタート時”と“終了時刻”の時間間隔を該当する間隔の分調整します。“最初の映像”または“最後の映像”のオプションを選択すると一番最初に発生したログからまたは一番最後に発生したログまで検索します。
-  (条件): 検索するログの種類を選択します。
-  (検索): 検索条件によって検索を開始します。
-  (全体画面): レポートパネルを全体画面で表示します。
-  (保存): 検索結果をテキストファイル(.txt)またはCSVファイル(.csv)またはPDFファイル(.pdf)で保存します。システム及びサービスログの場合、暗号化されたHTMLファイル(.html)で保存することができます。HTMLファイルを確認するためには暗号入力が必要されます。
-  (プリント): 検索結果をプリントします。
-  もっと見る: 次の結果を表示します。

第11章 — 映像解析レポート(映像解析装置)

映像解析装置が接続された装置を利用して映像解析された情報を検索し、グラフとイメージを利用して分析することができます。映像解析レポートは、映像解析装置パネル(最大3個)でサポートされます。パネルタブに映像解析装置タブがない場合、システムメニューで新しいタブを選択した後、映像解析装置をクリックしてタブを追加します。

11.1 接続および検索

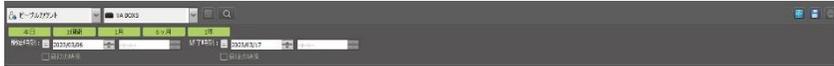
1. サイトリストから映像解析装置が接続されている装置のうち、希望する装置を選択した後、映像解析装置パネルにマウスをドラッグ&ドロップします。接続すると、当該装置の名前がパネル右上段と中央上段に表示され、左下段の時間検索、映像解析機能選択および装置選択ウィンドウが活性化されます。



2. 左下段のコンボボックスを利用して希望する映像解析機能(ピープルカウント、ヒートマップ)を選択します。
3. 希望する映像解析装置および時間範囲を選択して検索ボタン(🔍),を押して映像解析データをグラフおよびイメージとして表示します。
4. 装置を変更するには、他の装置を映像解析装置パネルにマウスをドラッグ&ドロップします。装置を解除するためには、システムメニューのログアウトを選択します。

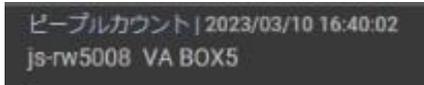
レポートのツールバー

パネルの下段にあるツールバーを用いて特定の映像解析レポートを検索することができます。



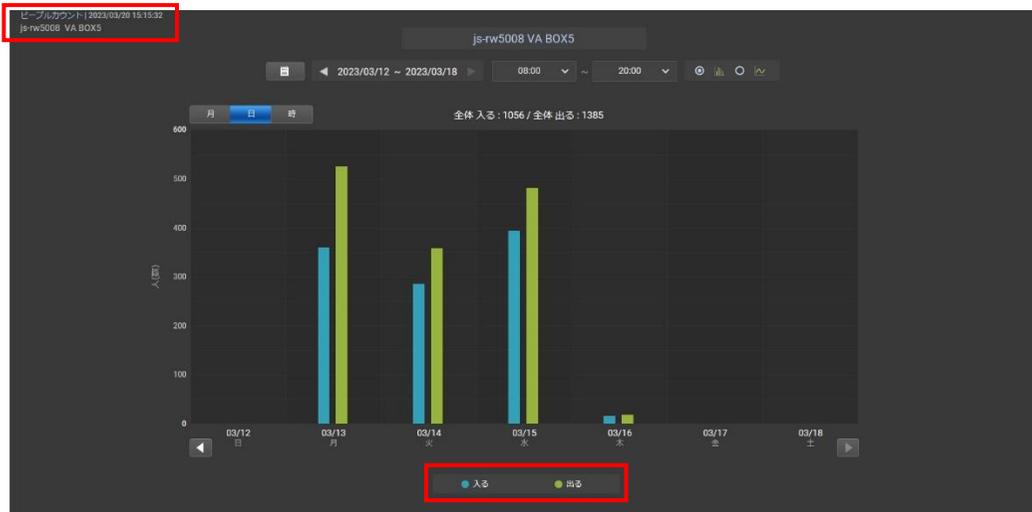
- 開始時刻、終了時刻: 検索する映像解析レポートの日付および時間を設定します。特定の日付および時間を入力したり、最初の映像または最後の映像オプションを選択して設定することができます。本日、1週間、1month、6ヶ月、1yearボタンをクリックすると、開始時刻と終了時刻の時間間隔を該当する間隔の分調整します。
- (映像解析機能): 希望する映像解析機能のページを選択します。
- (映像解析装置選択): 希望する映像解析装置を選択します。
- (全体画面): レポートパネルを全体画面で表示します。
- (保存): レポートページのデータをエクセル(.csv)または画像形式で保存します。

映像解析情報



- 現在の映像解析機能の種類
- 現在表示されている映像解析レポートの検索時間
- 映像解析装置が接続された装置の名前
- 映像解析装置の名前

11.2 ピープルカウント

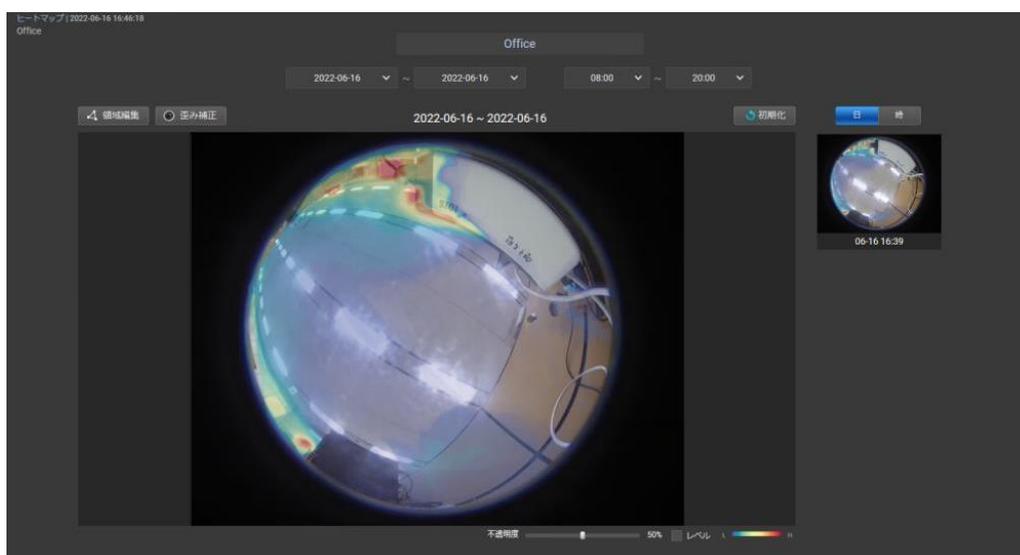


- 全体 入る / 全体 出る: 現在のページに表示されている期間の全合計の入る/出る人数を表します。
- 📅: カレンダーから希望する日付を選択します。
- 検索期間: 現在のページに表示される期間を表します。
- 📊 📈: バーとライングラフの中からひとつを選択します。
- 月 日 時: グラフのx軸の基準値(月、日、時)を選択することができます。時間単位の場合、15分、30分、1時間の中から選択することができます。
- 08:00 ~ 23:00: 08~23時、24時間、午前、午後を選択してその時間帯の人数を時間単位に合わせてバーまたはライングラフで表します。そして、時間帯別の人数をグラフに数字で表示します。
- 人(数): 左側のy軸はバー、ライングラフの値を表します。
- 時間(時): 右側のy軸の値は、グラフに表示された数字の時間帯を表します。
- ⏪: 検索期間単位によって、月は1年、日は1週間、時は1日単位で以前に移動します。
- ⏩: 検索期間単位によって、月は1年、日は1週間、時は1日単位で以後に移動します。
- ● 入る ● 出る: 入る、出る中に選択して必要なデータを表示することができます。
- グラフツールチップ: バー、ライングラフにマウスを当てるとツールチップ情報を確認することができます。



- 📈 入る : 603 : a選択されたデータの人数です。
- 🕒 混む : 選択したデータの最も混雑する時間です。
- 📈 出る : 選択されたデータの最も混雑する時間の人数です。

11.3 ヒートマップ



- 特定の日付および時間の検索: 開始の日付および最後の日付と開始時間および終了時間を選択して期間に合ったヒートマップイメージを停止イメージとサムネイルイメージの上に表示します。
- **領域編集**: ヒートマップ領域を編集します。オプションが選択されていると、マウスクリックで領域を指定することができます。停止イメージの上でマウス左ボタンで領域を指定し、最初のポイントを押すかマウスの右ボタンを押すと領域指定が完了します。領域を描く途中で一つ前の地点をキャンセルしたい場合はDeleteキーを押し、全体をキャンセルしたい場合にはEscキーを押します。
- **歪み補正**: 静止画が魚眼映像であればボタンが有効になります。ボタンをクリックして、静止画で魚眼映像の歪み補正をします。歪み補正ボタンが無効になってからコントロール+マウスボタンを使用して、クイックコントロールをします。
- **初期化**: 停止イメージを日付/時刻のナビゲーションに表示された領域のデータで初期化させ、NVRに設定された領域に変更します。
- **日 時**: サムネイル1枚の単位を表します。
- 停止イメージ: 選択された映像解析装置が接続されているカメラの最新イメージを表示します。
- サムネイルのイメージ: 上段の選択された日付と時間の区間を一定の時間単位に分けて表示します。サムネイルを選択すると、サムネイル画像を停止イメージとして大きく表示します。停止イメージを再指定した時間範囲に変更するには、時間の単位を変更したり、初期化(Reset)ボタンをクリックします。静止画を再指定した時間範囲に変更するには、選択したサムネイルをクリックします。
- 不透明度: ヒートマップの透明度を設定します。
- レベル: ヒートマップイメージに等高線の形で値を表示します。

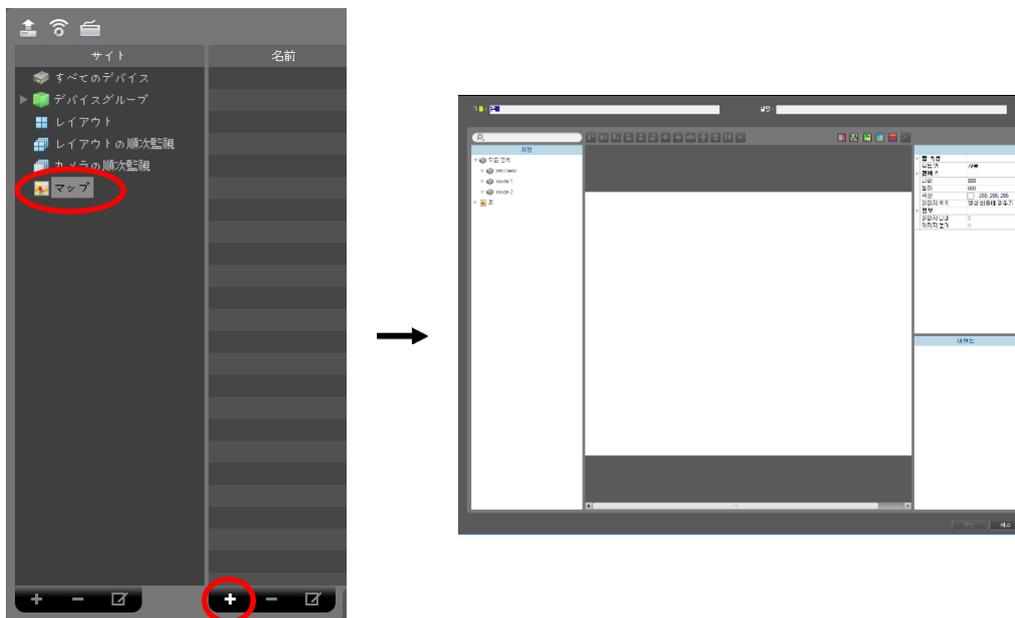
- カラースキーマ: ヒートマップのカラースキーマを表示します。4つのカラースキーマを選択することができます。

第12章 — マップエディター

マップを登録してカメラ映像、イベント感知、接続された入/出力デバイスの状態をマップで監視できます。

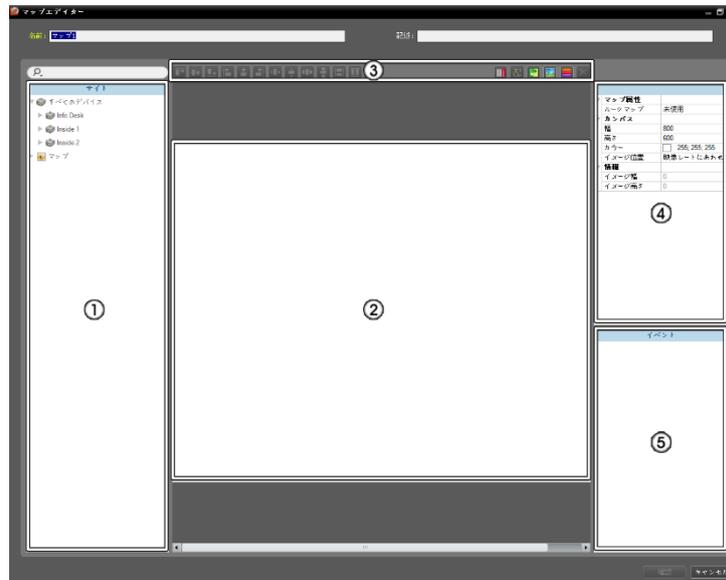
12.1 マップの登録

1. “システム”メニューで“JSS遠隔監視システム設定”を選択した後“デバイス”メニューを選択します。
2. “サイト”パネルで“マップ”をクリックした後、右側のサイトリストのパネルの下段にある **+** ボタンをクリックします。“マップエディター”画面が表示されます。



3. “サイト”パネルでデバイスに接続された入/出力デバイスおよび下位マップを選択してからキャンバスでご希望の所にマウスをドラック&ドロップします。
4. マップを設定します。詳しい内容は、“12.2 マップ設定” (p. 108)部分を参照してください。
5. マップ名を入力してから“確認”ボタンをクリックしてマップの登録を終了します。
6. “サイト”パネルで“マップ”をクリックした後、左側の位置リストパネルの下端にある**+**ボタンをクリックしてマップグループを作成することができます。

12.2 マップ設定



- ① サイト: 登録されたデバイス及びマップリストを表示します。🔍 ボタンの横に検索語を入力して登録されたデバイス及びマップを検索することができます。検索語を入力すると、その結果を表示します。
- ② キャンバス: マップの背景イメージを挿入してからサイトリストで希望の入/出力デバイスアイコンおよびマップリンクを配置してマップを構成します。
- ③ 設定ボタン: マップを設定します。
 - 整列: キャンバスに配置された入/出力デバイスのアイコンまたはマップリンクを任意で整列します。
 - 📄 (テキストボックス): テキストを入力できるテキストボックスを挿入します。
 - 📄 (経路順次監視): 順次監視経路を設定します。詳細は、“経路順次監視” (p. 110)を参照してください。
 - 📄 (マップオブジェクト名の同期化): デバイスの設定によって入/出力デバイスの名前を同期化します。
 - 📄 (背景イメージ投入): キャンバスに希望の背景イメージを入れます。
 - 📄 (状態カラー): マップにイベント感知および入/出力デバイスの状態を固有の色で表示するように設定することができます。
 - ✖ (削除): キャンバスで入/出力デバイスのアイコンまたはマップリンクを選択してからボタンをクリックボタンをクリックすると選択した入/出力デバイスアイコンまたはマップリンクをキャンバスで削除します。
- ④ 属性: マップ、マップのキャンバスまたはキャンバスに配置された入/出力デバイスアイコンおよびマップリンクの属性を設定します。
- ⑤ イベント動作: キャンバスに配置された入/出力デバイスアイコンのイベント動作を設定します。マップ監視時イベントが発生すると設定した通りにイベント発生を通知します。

アイコンの整列

1つ以上の入/出力デバイスアイコンおよびマップリンクを選択してから整列ボタンをクリックしてキャンバスでの配置および大きさを一括に修正することができます。



- 📄 / 📄 (位置調節): 1つ以上のアイコンに対して選択したアイコンを背景イメージの縦/横の中央整列します。
- 📄 / 📄、📄 / 📄、📄 / 📄 (位置調節): 2つ以上のアイコンに対して選択したすべてのアイコンを一番後で選択したアイコンを基準

に上段/下段、縦/横の中央または左/右に整列します。

-  /  (間隔調節): 3つ以上のアイコンに対して選択したデバイスの間をすべて同じく整列します。
-  /  /  (大きさ調節): 2つ以上のアイコンに対して選択したアイコンの幅/高さ/大きさをすべて同じく調節します(幅および高さの比率が異なる同じアイコンのみ該当)。

属性

キャンバスまたはキャンバスに配置された入/出力デバイスアイコンおよびマップリンクの属性を設定することができます。キャンバスまたはアイコン、マップリンクを選択してから属性の各項目を選択して希望の値を直接入力したりドロップダウンメニューで希望の値を選択します。

| マップ属性 | | 一般 | | 一般 | | 一般 | |
|--------|--|--------|-------------|---------|--|-----------|---|
| ルーツマップ | 未使用 | 名前 | Alarm In | 名前 | BANK 1 | Text | test |
| キャンバス | | アイコン | アラーム・イン センサ | X座標 | 347 | Font Face | Microsoft Sans Serif |
| 幅 | 800 | 倍率 | 50 | Y座標 | 219 | Font Size | 9 |
| 高さ | 600 | X座標 | 406 | 幅 | 128 | テキストカラー |  0; 0; 0 |
| カラー | <input type="checkbox"/> 255; 255; 255 | Y座標 | 99 | 高さ | 32 | 背景カラー | <input type="checkbox"/> 255; 255; 255 |
| イメージ位置 | 映像レートにあわせる | 幅 | 32 | テキストカラー | <input type="checkbox"/> 255; 255; 255 | 文字整列 | 左_上 |
| 情報 | | 高さ | 32 | 背景カラー | <input type="checkbox"/> 85; 110; 215 | Bold | 未使用 |
| イメージ幅 | 0 | 運動カメラ | 対象選択 | 不透明度 | 80 | Italic | 未使用 |
| イメージ高さ | 0 | ハロー効果 | 未使用 | 文字整列 | 左 | Underline | 未使用 |
| | | 名前 | Alarm In | 情報 | | Strikeout | 未使用 |
| | | IPアドレス | 10.0.11.123 | 名前 | BANK 1 | X座標 | 149 |
| | | デバイス番号 | 1 | | | Y座標 | 171 |
| | | | | 幅 | 61 | 高さ | 25 |

- マップ属性: マップの属性を設定します。
 - ルーツマップ: "使用"に設定するとマップ監視する時、マップパネルの右側にマップに登録されたデバイスのリストを表示します(マップパネルである場合のみ該当)。
- キャンバス: キャンバスおよびキャンバスに入れた背景イメージの属性を設定します。
 - 幅、高さ、カラー: キャンバスの幅、高さ、カラーを選択します。
 - イメージ位置: キャンバスに入れた背景イメージの位置を設定します。
 - 情報: キャンバスに入れた背景のイメージの幅および高さの情報を表示します。
- デバイス: 選択した入/出力デバイスアイコンの属性を設定します。
 - 名前: デバイスアイコンの名前を設定します。
 - アイコン、倍率: デバイスアイコンの模様および倍率を設定します。
 - X座標/ Y座標、幅/高さ: デバイスアイコンの位置および大きさを設定します。キャンバスでアイコンをマウスのドラッグ&ドロップして設定することもできます。
 - 運動カメラ: デバイスにカメラを連動することができます(アラームインまたはオーディオ入力のデバイスである場合のみ支援)。カメラを連動するとそのイベント感知時連動したカメラの映像を監視することができます。また、アラームイン装置でマップリンクを指定することができます。
 - ハロー効果: アイコンの背景にカラーを設定してマップでそのデバイスを簡単に探せます。
 - カメラビュー: 画角、パン、距離などを設定します(該当デバイスがカメラに限り対応)。
 - 情報: デバイスの情報を表示します。
- マップリンク: 選択したマップリンクの属性を設定します。
 - 名前: マップリンクの名前を設定します。設定した名前がマップリンクに表示されます。
 - X座標/ Y座標、幅/高さ: マップリンクの位置および大きさを設定します。キャンバスでマップリンクをマウスのドラッグ&ドロップして設定することもできます。
 - テキストカラー、背景カラー: マップリンクのテキストカラーおよび背景カラーを設定します。
 - 不透明度: マップリンクの背景カラーの不透明度を設定します。
 - 文字整列: マップリンクの文字を整列します。

- 情報: マップの名前を表示します。
- テキストボックス: 選択したテキストボックスの属性を設定します。
 - テキスト: テキストを設定します。設定したテキストがマップに表示されます。
 - フォント、フォントサイズ: フォント、フォントサイズを設定します。
 - テキストカラー、背景カラー: テキストカラー及びテキストボックスの背景カラーを設定します。
 - 文字整列: テキストを整列します。
 - 太字、イタリック、下線、取り消し線: テキストを太字にすることや、イタリック体、下線、取り消し線を設定します。
 - X座標/ Y座標、幅/高さ: テキストボックスの位置および大きさを設定します。キャンバスでテキストボックスをマウスのドラッグ & ドロップして設定することもできます。

経路順次監視

順次監視経路を設定してマップ監視する時、多数のカメラの映像を同一のカメラ画面で順次監視することができます。経路順次監視のためには、キャンバスで各カメラに順次監視経路が設定されてある必要があります(M (経路順次監視)ボタンクリック → キャンバスで各カメラアイコンを監視しようとする順番でクリック → マウス右側ボタンをクリックして設定終了)。経路設定が終わったら経路を選択してから経路の属性を設定します。

| 一般 | |
|--------|-----------------|
| 名前 | Path Sequence 1 |
| カラー | 50; 100; 255 |
| 不透明度 | 70 |
| 幅 | 5 |
| 形 | 楕円 |
| 背景カラー | 0; 0; 255 |
| 不透明度 | 63 |
| マージン | 4; 4; 4; 4 |
| 方向転換 | |
| 運動デバイス | |
| ▼ CAM1 | 接続終了 |
| 持続時間 | 10 |
| ▼ CAM2 | |
| 持続時間 | 10 |

- 名前: 経路の名前を設定します。
- カラー/不透明度/幅: マップに表示される経路のカラー/不透明度/幅を設定します。
- 形: マップ監視する時、経路順次監視が設定されたカメラの映像を表示する時、そのカメラを区別するための標識アイコンの形を設定します。
- 背景カラー/不透明度/幅: マップ監視する時、経路順次監視が設定されたカメラの映像を表示する時、標識アイコンのカラー/不透明度/幅を設定します。
- 方向転換: 経路の方向を転換します。

運動デバイス: 経路順次監視が設定されたカメラのリストを表示します。マップ監視する時、リストの順番で設定された“持続時間”間、順次監視を行います。リストでカメラを選択してから“解除”をクリックするとそのカメラを経路順次監視で削除します。

イベント動作

キャンバスに配置された入/出カデバイスについてはイベント感知時行う動作を設定することができます。アイコンを選択してから項目を選択し、ドロップダウンメニューで希望の値を選択します。

| イベント | |
|-----------|-----|
| アクション | |
| ▼ クリック | |
| インスタント | 使用 |
| ▼ モーション検知 | |
| ライブポップ | 未使用 |
| イベントスポ | 使用 |
| ▼ オブジェクト | |
| ライブポップ | 未使用 |
| イベントスポ | 使用 |
| ▼ 映像信号ロス | |
| ライブポップ | 未使用 |
| ▼ 映像遮断 | |
| ライブポップ | 未使用 |
| イベントスポ | 使用 |

- クリック: マップでデバイスアイコン クリップ する時インスタントビューアウィンドウが表示されるように設定することができます。アラームアウトデバイスである場合、アイコンをクリップしてアラーム出力を動作させたり解除した設定することができます。
- モーション検知、オブジェクト、映像ロス、映像遮断、アラーム インなど: 各イベントが感知する場合行う動作を設定または解除します。ただ、マップ監視する際、入/出カデバイスのイベント動作を無視するように設定した場合は、下記の設定とは関係なくイベントは動作しません(イベント動作無視設定: マウスカーソルをマップ入/出カデバイスの上に位置 → マ

ウス右側ボタンクリック → “イベント動作無視”選択)。

- ライブポップアップ: そのカメラ(デバイスがカメラではない場合、連動されたカメラ)の映像がポップアップされます。
- イベントスポット: そのカメラ(デバイスがカメラではない場合、連動されたカメラ)の映像がイベントスポット画面に現れます。
- イベントのサウンド: オーディオファイル(.wav)を設定するとオーディオを出力します。

第13章 一付録

13.1 OSD情報

JSS遠隔監視システムプログラム監視画面の各カメラ画面にOSDが表示されます。



- カメラ名: JSS遠隔監視システムプログラムで設定したカメラ名を表示します(画面の左上段)。
-  /  (リスニングまたはトーク): デバイスのオーディオを受信したり、デバイスでオーディオを送信していることを示します(画面右上段)。
-  /  (NVR聞く/話す) : NVR装置のオーディオを受信している、またはNVR装置にオーディオを伝送していることを示します(画面右上段)。
-  (PTZ): PTZ制御が可能であることを示します(画面右上段)。
-  (簡単再生) : 簡単再生中であることを示します(画面右上段)。
-  (カメラの順次監視): カメラが順次監視中であることを示します(画面右上段)。
-  (オレンジ色: 緊急録画): JSS遠隔監視システムに映像が録画中であることを示します(画面右上段)。
-  (映像拡大): 映像が拡大されたことを示します(画面右上段)。
-  (カラーコントロール): カラーコントロール機能が使用されたことを表示します(再生映像のみ対応)(画面右上段)。
-  (イメージ効果): イメージ効果機能が使用されたことを表示します(画面右上段)。
-  (画面停止): ネットワークキーボードにより画面が停止されたことを表示します(監視映像のみ対応)(画面右上段)。
- 日付、時刻: JSS遠隔監視システムの日付及び時間を示します(画面下段)。
- イベント警告: イベントが検知されたことを示します(カメラ名バーの赤色表示)。
- モーションブロック: モーションイベントが検知されたエリアを表示します(映像上) (ネットワークビデオエンコーダーの場合にのみ対応)。

13.2 トラブルシューティング(Q&A)

| 症状 | 確認内容 |
|--|---|
| 映像監視を行うことができません。 | <ul style="list-style-type: none"> • デバイスグループにデバイスが追加されているか確認してください。 • 監視の権限があるのか確認してください。 |
| 映像監視中に接続が解除されてから再接続を繰り返す。 | <ul style="list-style-type: none"> • デバイスの状態及びデバイスとJSS遠隔監視システムのネットワークの接続状態を確認します。 |
| 監視映像が見えません。 | <ul style="list-style-type: none"> • デバイスのカメラの接続状態を確認してください。 • システムまたはネットワークの負荷によって監視映像が多少遅く見えることがあります。 |
| イベント機能が動作しません。 | <p>デバイスの“デバイス修正”メニューで“デバイスリアルタイムモニタリング”項目が選択されているか確認します。項目が選択されていない場合、現在監視中のデバイスについてのみイベント関連機能が対応します。</p> |
| 双方向オーディオ通信を行うことができません。 | <ul style="list-style-type: none"> • デバイスとJSS遠隔監視システムのスピーカー及びマイクの接続状態を確認してください。 • デバイスのオーディオ入力/出力の設定を確認してください。 • 双方向オーディオ通信は1:1でのみ行われます。デバイスが異なるシステムとすでに双方向オーディオ通信中の場合、該当する通信が解除された後に再び試みます。 |
| ユーザーIDとパスワードを忘れてしまい、JSS遠隔監視システムプログラムを実行することができません。 | <p>JSS遠隔監視システムプログラムをアンインストールしてから再インストールします。ただし、アンインストール時、システムに保存されたすべてのデータを削除しなければならず、削除されたデータは復元することができません。</p> |